

### ●犯罪人名ヲ犯人本籍へ通知 及犯人前科調ニ關スル件

(明治十四年十二月司法省丁第三十三號達)

刑事裁判官渡ヲ犯人ノ本籍へ通知シ及ヒ犯人前科取調ノ儀是迄區々相成居候處來明治十五年一月ヨリ左ノ通知相心得此旨相違候事  
刑事裁判官渡アリタルトキハ治罪法第四百六十四條ニ掲ケル既決犯罪表寫ヲ犯人本籍ノ地ノ郵便裁判所檢察ニ送致ス可シ右送致ヲ受ケタル檢察官ハ其旨ヲ犯人本籍ノ地ノ局長ニ通知シ「該表ハイロハ標號ニ從ヒ區別編纂致置可シ」(丙ノ十六字ハ二十五年參刑甲)  
犯人ノ前科取調ヲ要スルトキハ犯人本籍ノ地ノ郵便裁判所檢察ニ照會シ檢察官編纂致置タル既決犯罪表寫ヲ送致ス可シ

表	
既決犯罪表	
紙	
イ號	何裁判所

イ號目録	
伊藤 某	一丁
生駒 某	二丁
飯塚 某	三丁

何裁判所既決犯罪表	
氏名	何年何月
年 齡	何々
職 業	何府何郡何町
住 所	何縣何區何村
出生ノ地	同上
木 籍	同上
罪 名	窃盜
刑 名	重禁錮何年(或ハ何月)
犯 數	初犯(或ハ再犯)
裁判官渡ヲ爲シタル年月日	何年何月何日
對審調席區別	對審裁判(或ハ調席裁判)

此表治罪法第四百六十四條ニ依リ裁判官渡確定シ又ハ調席裁判アリタル時其旨渡ヲ爲シタル裁判所ノ書記之ヲ作ルモノトス但一葉一人ヲ記載シ(イロハ)ノ順序ヲ以テ氏名ヲ區別シテ之ヲ編纂シ探討ニ便ス可シ表中ノ朱書ハ記載ノ一例ヲ示スモノナレハ(イ)以下モ之ニ準ス可シ

### ●刑事裁判官渡犯人本籍へ通知方

(明治十八年九月司法省令丙第六號)

刑事裁判官渡犯人本籍へ通知方ノ儀ニ付テハ明治十四年十二月第三十三號ヲ以テ相違置候趣モ有之候處右通知方遲延ノ向モ有之徵兵調査上差支不少趣ニ付裁判確定ノ上ハ直ニ通知候様致ス可シ此旨及内訓候也

### ●帶動者犯罪ニ付勳章褫奪犯人本籍へ通知方

(明治十九年四月司法省令丙第六號)

刑事裁判官渡ヲ犯人本籍へ通知方ノ儀明治十四年當省丁第三十三號ヲ以テ相違置タル處自今帶動者ノ犯罪ニ付勳章ヲ褫奪シタル時ハ其旨併セテ通知ス可シ  
(三十三號達ハ位勳ノ類勳章ノ部ニナリ)

### ●犯罪人名ヲ本籍地へ通知ノ件

(明治二十五年二月司法省令參刑甲第四一號ノ乙訓令)

自今重罪、輕罪ノ刑ノ旨渡確定シタルトキハ刑ノ執行ヲ爲スヘキ裁判所檢察官ハ郵便端書ニ別紙第一離形ニ依リ氏名其他ノ事項ヲ記載シ犯人本籍地管轄市、區役所又ハ町、村役場へ通知セシム可シ若シ右管轄市、區役

所又ハ町、村役場ヨリ戸籍簿等ト相違ノ廉回報アリタルトキハ調査ノ上其旨當省へ申報ス可シ  
「明治十四年丁第三十三號達ニ從ヒ犯人本籍地ノ地方裁判所檢察ニ送致ス可キ既決犯罪表ハ別紙第二離形ニ依リ之ヲ取扱フ可シ」

#### 第一離形

郵便端書裏面印刷	
氏名	假名
生年	月日
身 分	
職 業	
住 所	
出生ノ地	
木 籍	
罪 名	
刑 名	
對審又ハ調席	
裁判官渡年月日	
確定シタル年月日	
執行ノ裁判所	

右既決犯罪事件及通知候也  
但記載ノ各項中戸籍簿等ニ照シ相違ノ廉有之候ハ其旨御回報相成度候也  
何裁判所檢察官印  
年月日



郵 便 端 書 表 面 印 刷

右既決犯罪事件及通知候也

年月日

何裁判所檢察局印

第一雛形ニ同シ

同上ニ關スル件

(明治二十五年二月司法省記乙第七四號通牒)
司法省參刑第四一號訓令ニ付干葉地方裁判所檢察事正ノ照會ニ對シ別紙ノ
通及回答候間御心得ノ爲メ此段及通牒候也

同上ニ關スル件

(別紙)
今般御省參刑甲第四一號ノ甲ヲ以テ犯罪人名票進達方並ニ同號乙ヲ以テ
自今般重罪ノ刑ノ言渡確定シタルトキハ云々犯人本籍地管轄市區役所又
ハ町村役場ヘ通知セシム可シ云々其但書ニ明治十四年丁第三十三號通牒ニ
從ヒ犯人本籍地ノ裁判所檢察事ニ送致スヘキ既決犯罪表ハ云々ト訓令相成
候ニ付直チニ實行可致ハ勿論ニ候ヘ共該既決犯罪表ノ義ハ明治二十三年
十二月十七日御省總第一二六號訓令地方裁判所檢察事局書記規則實施ニ際
シ該表ヲ廢シ檢察事局書記規則第十五條八項及第十六條ニ依リ犯人ノ住
所又ハ現在地ノ檢察事局其他管內市町村長ニ列決通知致スコトニ取扱ヒ來
リ候ヘ共今般ノ訓令ヲ實行スルトキハ重複ニ涉リ候ニ付檢察事局書記規則
第十五條八項及第十六條ハ自然消滅シタル義ニ候哉至急御回報有之度
此段及照會候也
明治二十五年二月十五日
干葉地方裁判所 檢 事 局
司法省總務局 記錄課
御中
本月十二日司法省參刑甲第四一號訓令ノ件ニ關シ檢第一〇九號ヲ以テ御照
會ノ趣了承致候現行檢察事局書記規則草案中之ニ重複スヘキ條項ハ他日削
除等ノ内議モ有之候得共差向當分ノ内ハ現存ノ儀ト御承知相成度此段及
御回答候也
總務局記錄課長
明治二十五年二月二十三日
干葉地方裁判所 檢事正中山光令殿
司法省書記官飯田文彦

(明治二十五年六月司法省參刑甲第三〇六號訓令)
自今刑法第四百二十七條第十及廿七條十九年內務省令第十九號第一條乃
至第四條ノ違犯者アリタルトキハ其判決言渡確定後刑ノ執行ヲ爲スヘキ
裁判所檢察事局ヨリ本年二月本省參刑第四一號ノ乙訓令第一雛形ニ準シ犯
人本籍地管轄市區役所又ハ町村役場ヘ通知ス可シ

處刑ニ因リ族稱ヲ失ヒタル者戶籍吏ニ報告方ノ件

(明治三十一年八月司法省訓令第六號)
既決犯罪事件ニ關シテハ明治二十五年(二月)當省參刑甲第四一號ノ乙
訓令ニ基キ檢察事局ヨリ犯人本籍地ノ戶籍吏ニ通知ヲ爲スヘキヲ以テ處刑
ニ因リ族稱ヲ失ヒタルモノニ付テハ其通知ヲ以テ戶籍法第六十六條但
書ノ報告ト看做スヘシ

地租條例違犯者地方廳ヘ報告方

(明治十八年八月司法省訓令第三九〇二號)
地租條例其他罰則違犯ニ係リ處分後納税ヲ遺漏スヘキ事件ハ地方廳
ニ於テ承知不致候テハ處務上差支ヲ生シ自然脫漏ノ虞モ有之趣ニ付自今
右等ノ事件有之候節ハ裁判確定ノ後當省書寫ヲ以テ直ニ地方廳ヘ通知可
致此旨相違候事

產婆ノ犯罪府縣知事廳長官ヘ通知方

(明治三十三年五月司法省參刑甲第四五號訓令)
產婆ノ犯罪事件アルトキハ裁判確定ノ上當省書寫木相添(犯人居住地ノ
府縣知事北海道廳長官ヘ通知スヘシ)

市町村吏員府縣及郡會議員等ニ對スル裁判上ノ處分ヲ知事ニ報告ノ件

(明治三十年十一月司法省民刑甲第一九〇號訓令)
市町村吏員ニシテ左記第一項乃至第三項ニ該當スル者及府縣制施行地ノ
府縣會議員郡會議員第四十六條ノ名譽職參事會議員並ニ市町村會議員
ニシテ同第一項第二項ニ該當スル者アルトキハ其處分ヲ爲シ又ハ公訴ヲ
受ケタル裁判所ノ長(區裁判所一人ノ判事若シテハ區裁判所長)ヨリ其都府廳ニ所轄府縣知
事ニ報告ス可シ但明治二十八年當省參刑甲第七八號訓令ハ之ヲ廢止ス
第一 家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其宣告ニ對スル抗告ニ付裁
判ヲ受ケタルトキ及復權ノ決定アリタルトキ
第二 公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付モソレ
タルトキ及其裁判ノ確定シタルトキ
第三 公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲メ豫審ニ付セラレタ
ルトキ及ヒ其事件ニ付免訴又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シ其言渡確定シタル
トキ又ハ公權停止ヲ附加セザル輕罪若クハ違犯事ナリト思科シ其裁判
所ノ輕罪公判ニ付シ又ハ區裁判所ニ移ス言渡ヲ爲シタルトキ
(明治三十三年八月十三日司
法省民刑甲第七〇號改正)

北海道區町村吏員及議員犯罪廳長官ヘ報告方

(明治三十三年八月司法省民刑甲第五九號訓令)
北海道區町村吏員及區町村會議員ニシテ左ニ記載シタル事項ニ該當スル



モノアルトキハ其處分ヲ爲シ又ハ公訴ヲ受ケタル裁判所ノ長(區裁判所  
 判事ヲ包含ス)ヨリ其都府連北海遼寧長官ニ報告ス可シ  
 一 家賃分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其宣告ニ對スル抗告ニ付裁  
 判ヲ受ケタルトキ及復讐ノ決定アリタルトキ  
 二 公權擧若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレ  
 タルトキ及共裁判ノ確定シタルトキ  
 三 公權擧若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲メ審判ニ付セラレタ  
 ルトキ及ヒ其事件ニ付免訴又ハ管轄權ノ管渡ヲ爲シ其管渡確定シタ  
 ルトキ又ハ公權停止ヲ附加セラルル輕罪若クハ違罪罪ナリト思料シ其  
 裁判所ノ輕罪公判ニ付シ又ハ區裁判所ニ移ス言渡ヲ爲シタルトキ

**衆議院議員當選訴訟又ハ告  
 訴告發ニ付内務省へ報告ノ  
 件**  
 (明治二十七年六月司法令  
 省民刑甲第二二號訓令)

衆議院議員選舉ニ關スル訴訟又ハ告訴告發等アリタルトキ内務省へ報告  
 方ノ儀ニ付明治二十四年當選法第三四二號ヲ以テ及訓令監候處自今法  
 律ノ規定アル場合左ニ記載シタル場合ノ外報告スルニ及ハス  
 一 控訴院ニ於テ爲シタル當選訴訟ノ判決確定シタルトキ又ハ其判決ニ  
 對シ上告アリタルトキ  
 一 大審院ニ於テ當選訴訟ノ判決ニ對スル上告ニ付判決ヲ爲シタルトキ

**醫師ノ犯罪内務省へ通知ノ  
 件**  
 (明治十五年八月司法令  
 法省丁第四二號訓令)

本年(八月)第三十九號布告ニ依リ今般内務省ヨリ照會ノ趣モ有之候ニ付  
 テハ自今醫師タル者醫業ニ關スル犯罪有之處斷致候節ハ其都府該宣言文  
 牒本相添内務省へ通知候儀可致此旨相違候事(實際ニ於テハ裁判確定ノ

上被告人居居地ノ府通知等へ通知スルサ例トス)  
 (參照) 司法省達 (明治十六年十二月九號)  
 本年第三十五號布告ヲ以テ明治十五年第三十九號布告被廢候ニ付同年當  
 省丁第四十二號達ハ自然消滅ノ處今般内務省ヨリ更ニ照會ノ趣モ有之候  
 條同省へ通牒方從前ノ通り可取計此旨相違候事

**獸醫ノ犯罪農商務省へ通知  
 ノ件**  
 (明治二十年二月司法令  
 法省訓令第十號)

十八年八月第二十八號布告及十九年九月第十一號農商務省令ニ依リ今般  
 農商務省ヨリ照會ノ趣モ有之候ニ付テハ自今獸醫免許規則第十四條獸醫  
 類傳染病預防規則第十九條ノ犯罪其他刑法ニ正條アル獸醫ノ犯罪處斷致  
 候節ハ其都府該宣言文牒本相添へ農商務省へ通知スヘシ

**出版條例等違犯者裁判確定  
 後通知ノ件**  
 (明治二十一年七月司法令  
 省刑第七八一號訓令)

今般内務大臣ヨリ照會ノ趣モ有之候ニ付自今版權所有之圖書ニシテ出版  
 條例第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條若クハ版權條例第二十  
 七條第二十八條ヲ犯シ又ハ寫眞ニシテ寫眞版權條例第十條ヲ犯シタルモ  
 ノ有之候節ハ裁判確定ノ上該宣言文牒本相添内務省へ通知スヘシ  
 但シ明治十二年當省丁第十二號達ハ取消ス

**西洋形船々長運轉手機關手  
 犯罪遞信省へ報告方**  
 (明治十六年七月司法省丁第二十一號達)

明治十四年十二月第七十五號公布西洋形船船長運轉手機關手免狀規則ニ據

リ免狀ヲ有スル者罪ヲ犯シ輕罪以上ノ刑ニ處シタル節ハ刑名並ニ宣言ノ  
 月日ヲ詳記シ其都府連北海遼寧省へ通牒スヘシ此旨相違候事

**外國軍艦乘込員ノ陸上犯罪  
 人ヲ逮捕シタルトキハ所屬  
 領事若クハ艦長ニ通知スヘ  
 キ件**  
 (明治三十四年一月司法令  
 民刑甲第一二二號訓令)

外國軍艦乘込員陸上ニ於テ罪ヲ犯シ之ヲ逮捕シタルトキハ其都府所屬國  
 領事若クハ所屬艦長ニ通知ス可シ

**華族勾留保釋責付其他ノ處  
 分ヲ爵位局ニ報告ノ件**  
 (明治二十六年六月司法省民刑甲第一五一號訓令)

華族(位記ノ有無且主體)ニ對シ左ノ處分ヲ爲シタルトキハ豫審判事又  
 ハ裁判所ノ處分ニ係ルモノハ裁判所ヨリ檢事ノ處分ニ係ルモノハ豫審判事  
 ヨリ其都府連北海遼寧省內務省爵位局ニ報告ス可シ但明治十六年當省  
 丁第三十二號達ハ之ヲ廢止ス  
 第一 勾留ヲ爲シタルトキ  
 第二 保釋責付ヲ爲シ又ハ之ヲ取消シタルトキ  
 第三 被告人勾留セラレタルトキ否トニ拘ハラス豫審ニ於テ免訴管轄違又  
 ハ公判ニ付スルノ決定ヲ爲シタルトキ  
 第四 被告人拘留セラレタルトキ否トニ拘ハラス公判ニ於テ無罪免訴管轄  
 違又ハ刑ノ言渡ヲ爲シタルトキ但違罪罪ノ刑ノ言渡ヲ爲シタル場合ヲ  
 除ク  
 第一ニ付テハ罪名及勾留ヲ爲シタル年月日第二ニ付テハ保釋責付ヲ爲シ

又ハ之ヲ取消シタル年月日ヲ記載シ第三第四ニ付テハ上訴期間ノ經過ヲ  
 待チ其裁判ニ對シ上訴アリタルトキ否ヲ記載シ且裁判言渡書ノ添付  
 ス可シ但第二審ニ於テ放免ノ言渡ヲ爲シタルトキハ上告期間ノ經過ヲ待  
 タス直ニ報告ヲ爲ス可シ  
 右訓令ス

**犯罪ニ關シ官署被害者ナル  
 場合通知方ノ件**  
 (明治十六年四月司法省達)

監督官林檎棧等官ニ於テ被害者ノ地位ニ在ル可キ事件ニ付テハ治罪法  
 第百八條ニ準據シ其處分ヲ主任ノ官署若クハ告發ヲ爲シタル官署ニ通知  
 スヘシ此旨相違候事

**保釋責付中ノ被告人無罪免  
 訴又ハ罰金以下ノ刑言渡ノ  
 際司獄官へ通知ノ件**  
 (明治十七年一月司法省第四局通牒)

保釋責付中無罪免訴又ハ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ言渡ヲ爲シタルモノ  
 云々ノ儀ニ付別紙ノ通牒内訓相成候條爲御心得及御通牒候也  
 (別紙)

**上訴ノ末無罪トナリタル場  
 合本人へ通知ノ件**



原裁判官渡二對シ上訴ノ未大審院ニ於テ無罪トナリタルトキ原裁判所ハ...

監獄統計報告

內務報告例

第一條 報告例ハ警視廳北海道府縣廳及憲兵司令部集治監留監ニ於テ...

貼付シテ進達ス可シ

第八條 凡ソ報告書ハ添書ヲ要セス其記載方ハ一事件又ハ一表毎ニ紙直...

在監人反獄 在監人越獄及逃走 作業中廢止スル者報告...

第十六類 統計報告 監獄統計報告

Table with columns for '在監何病者' (Incarcerated Sick), '明治何年何月' (Meiji Year/Month), and '姓名' (Name). It includes sub-sections for '放免囚人ノ體景' (Status of Released Prisoners) and '在監何病者' (Sick Prisoners).



第十六類 統計報告 監獄統計報告

者アリケル監房ノミヲ指ク丙月以下之ニ依リ  
一 携帶乳兒ハ患者死亡ノ人員ノミ備考ニ記載ス可シ  
一 患者ノ欄ニハ治癒死亡ニ拘ヘラス本月中發病セシ人員ヲ記入シ死  
亡ノ欄ニハ前月ノ發病ト本月ノ發病トヲ間ハス本月中死亡セシ人員  
ヲ記入ス可シ

Table with columns for '刑事被告人' (Criminal Defendants) and '類別' (Classification). It includes sub-columns for '無期' (Life), '有期' (Term), '無罪' (Acquitted), '輕重' (Severity), and '禁禁' (Restrictions). Rows show monthly data from January to December for the years 1913 and 1914.

Table with columns for '刑罰ノ違背罪' (Offenses Against Penalties), '監禁刑' (Imprisonment), '拘留刑' (Detention), and '罰金' (Fines). It includes sub-columns for '總計' (Total), '乳' (Milk), and '合' (Total). Rows show monthly data for 1913 and 1914.

警察署留置場ニ在ル刑事被告人ハ令狀發布後ノモノ竝ニ違背罪正  
式裁判請求中ノモノノミヲ記入スヘシ

第十六類 統計報告 監獄統計報告

Table with columns for '刑事被告人' (Criminal Defendants) and '類別' (Classification). It includes sub-columns for '無期' (Life), '有期' (Term), '無罪' (Acquitted), '輕重' (Severity), and '禁禁' (Restrictions). Rows show monthly data from January to December for the years 1913 and 1914.

Table with columns for '監獄ノ地所及建物' (Prison Locations and Buildings), '監獄' (Prison), '監房' (Cells), and '工場' (Workshops). It includes sub-columns for '總計' (Total), '反' (Reverse), '違' (Violation), '規' (Regulation), and '合' (Total). Rows show monthly data for 1913 and 1914.



支署	
合計	

因入刑事被告入別房留置人ニシテ其監房内ニ於テ作業ヲ許シタルモノアルトキハ之ヲ工場中ニ算入ス可カラス  
工場ノ平均一人ニ要スル坪數ハ十二月三十日ノ現在作業者ニ就キ算出スヘシ

報年	監獄署	何支署	何支署	何支署	合計
人員	人員	人員	人員	人員	人員
月俸	月俸	月俸	月俸	月俸	月俸
人員	人員	人員	人員	人員	人員
月俸	月俸	月俸	月俸	月俸	月俸
人員	人員	人員	人員	人員	人員
月俸	月俸	月俸	月俸	月俸	月俸

報年	刑事被告人出入(明治何年)	刑事被告人出入(明治何年)	刑事被告人出入(明治何年)	刑事被告人出入(明治何年)	刑事被告人出入(明治何年)
本年	復讐	保實	釋付	走	入
前年	再入	再入	再入	再入	再入
初	再入	再入	再入	再入	再入
以上	再入	再入	再入	再入	再入
入	再入	再入	再入	再入	再入

報年	本年	前年	再入	再入	再入	再入	再入	再入	再入	再入	再入
合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計

報年	看守	女監	取締	押丁	合計	金額
合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計



第十六類 統計報告 監獄統計報告

千百五十六

報 年		罪 名	監 刑 事 被 告 人 滞 留 日 數 (明 治 何 年)		監 名
一	二		以十五日以内	以一月以内	
禁錮ヲ減シテ拘留ニ處セラルル者上訴シ拘禁又ハ留置中ニ刑期經過シ刑ノ執行ヲ爲ス能ハスシテ放免セシモノ如キハ徒刑以下		兇徒聚衆			受刑者ノ項ニ記入シテ因入出入表以下七表ヘモ掲載スルモノトス
		及囚徒藏匿			
		何及囚徒藏匿			本年間ノ滞獄者中拘禁三十日以上ニ及ヒ懸延ヨリ召喚ナキ者
		何貨幣偽造			
		何貨幣偽造			
		刑法ノ違警罪			
		諸條例及諸規則違犯			
		廳府縣ヨリ發シタル命令			
		逃犯並ニ地方違警罪處斷			

一 罪名ノ記載方ハ月報月末現在在囚罪名別表ノ例ニ依ル但諸條例諸規則違犯及廳府縣ヨリ發シタル命令違犯地方違警罪處斷ハ各一括シテ掲クヘシ

一 本表ハ其年一月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ出監セシ放逐者受刑者等ニ就キテ記入スヘシ

一 他管ヨリ押送ノ者ハ他管ノ監獄ニ滞獄セシ日數ヲモ通算シ其ノ者ハ別記シテ×ヲ施スヘシ又控訴上告ニ係ル者ハ朱書スヘシ

一 拘置三十日以上ニ及ヒ懸延ヨリ召喚ナキ者ノ欄ニハ本年間ノ總滞獄者ニ就テ記入スヘシ

報 年		前年ヨリ越人員	本年間ノ出入	合 計	免 假 非常上告及再審 出 獄 閉 閉
一	二				
新受刑者	主刑ヲ終ヘ附加刑金ノ換入	再入	他管ヨリ押送	計	
類 別	男	女	合 計		
囚人ノ出入 (明治何年)					
收 納	罰 金 收 納	集 治 監	假 留 監	府 縣	其 他
出	監 内	外 役 先	押 送	其 他	死 亡 者
本年間	本年未日現在	拘禁延人員	最 多 日 ノ 人 員		

第十六類 統計報告 監獄統計報告

千百五十七



第十六類 統計報告 監獄統計報告

千五百五十八

最少日ノ人員

一 再入ノ項ニハ假出獄ノ停止餘罪發覺ノ爲メ拘置監ニ移シタルモノノ復歸及逃走者ノ復歸ニシテ前刑ヲ執行スルモノ等ヲ記入シ他ノ刑

一 執行ニ係ルトキハ之ヲ新受刑者ノ項ニ掲ケ尙以下六表ニモ掲載スルモノトス  
一 満期ノ項ニハ出監シタルト否トナ間ハス刑期ノ満タル者ヲ悉ク記入スルモノトス

新ニ刑ヲ受ケシ囚人ノ罪名及刑名

(明治何年)

監 名

罪名	無期		重禁錮		輕禁錮		拘留		罰金		附加刑	
	刑	徒	期	有	重	輕	重	輕	主	ノ	刑	刑
兇徒聚衆												
囚徒逃走及												
何人藏匿												
何々												
信用書												
何々												
貸借偽造												
何々												
諸規												
兵令												
郵便條例												
集會及政社												
何々												
縣府條例												
令送犯												
地方送												
處斷												
合計												
初犯												
再犯以上												
總計												

罪名	刑罰ノ違背罪		合 計	監海軍刑法	刑罰ノ違背罪
	男	女			
兵令					
郵便條例					
集會及政社					
何々					
縣府條例					
令送犯					
地方送					
處斷					
合計					
初犯					
再犯以上					
總計					

新ニ刑ヲ受ケシ囚人ノ罪名及犯數年輪

(明治何年)

監 名

罪名	犯數		年
	初犯	再犯以上	
初犯			十六年
再犯			十六年
三犯			十六年
四犯			十六年
五犯以上			十六年
合計			十六年
未滿二十年			十六年
未滿十五年			十六年
未滿十年			十六年
未滿五年			十六年
未滿一年			十六年
合計			十六年

第十六類 統計報告 監獄統計報告

千五百五十九











年	報		罪名	新ニ刑ヲ受ケシ囚人ノ罪名及宗教		總計 再犯以上
	何	何		新ニ刑ヲ受ケシ囚人ノ罪名及宗教		
	罪ルス害ヲ信	罪ルス害ヲ		新ニ刑ヲ受ケシ囚人ノ罪名及宗教		
	何	何	見徒衆	見徒衆	見徒衆	
	貨	囚徒	囚徒	囚徒	囚徒	
	幣	人逃	人逃	人逃	人逃	
	偽	賊走	賊走	賊走	賊走	
	造	及衆	及衆	及衆	及衆	
		女男	女男	女男	女男	
			神	神	神	
			道	道	道	
			神宮	神宮	神宮	
			教何	教何	教何	
			々	々	々	
			天台	天台	天台	
			宗真	宗真	宗真	
			言宗	言宗	言宗	
			淨土	淨土	淨土	
			宗何	宗何	宗何	
			々何	々何	々何	
			々	々	々	
			耶	耶	耶	
			教何	教何	教何	
			々	々	々	
			無信	無信	無信	
			教合	教合	教合	
			計	計	計	

年	罪名	新ニ刑ヲ受ケシ囚人ノ罪名及職業	總計 再犯以上	初犯	諸條例及諸規則違反 廳時縣ヨリ發シタル命 令違反並ニ違背罪處斷	合計 女男	刑罰ノ違背罪 陸海軍刑法 男女		
								新ニ刑ヲ受ケシ囚人ノ罪名及職業	
								新ニ刑ヲ受ケシ囚人ノ罪名及職業	
	見徒衆	見徒衆	見徒衆	見徒衆	見徒衆	見徒衆	見徒衆		
	囚徒	囚徒	囚徒	囚徒	囚徒	囚徒	囚徒		
	人逃	人逃	人逃	人逃	人逃	人逃	人逃		
	賊走	賊走	賊走	賊走	賊走	賊走	賊走		
	及衆	及衆	及衆	及衆	及衆	及衆	及衆		
	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男		
	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由		
	農	農	農	農	農	農	農		
	耕	耕	耕	耕	耕	耕	耕		
	作	作	作	作	作	作	作		
	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他		
	傭及	傭及	傭及	傭及	傭及	傭及	傭及		
	傭者	傭者	傭者	傭者	傭者	傭者	傭者		
	漁業	漁業	漁業	漁業	漁業	漁業	漁業		
	助手	助手	助手	助手	助手	助手	助手		
	者	者	者	者	者	者	者		
	業主	業主	業主	業主	業主	業主	業主		
	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他		
	勞働	勞働	勞働	勞働	勞働	勞働	勞働		
	起	起	起	起	起	起	起		
	者	者	者	者	者	者	者		
	技術	技術	技術	技術	技術	技術	技術		
	者	者	者	者	者	者	者		
	勞働	勞働	勞働	勞働	勞働	勞働	勞働		
	者	者	者	者	者	者	者		
	商業	商業	商業	商業	商業	商業	商業		
	主	主	主	主	主	主	主		
	傭及	傭及	傭及	傭及	傭及	傭及	傭及		
	人力	人力	人力	人力	人力	人力	人力		
	車馬	車馬	車馬	車馬	車馬	車馬	車馬		
	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁		
	僕	僕	僕	僕	僕	僕	僕		
	婢	婢	婢	婢	婢	婢	婢		
	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他		
	無職	無職	無職	無職	無職	無職	無職		
	者	者	者	者	者	者	者		
	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計		



































入監時疾病	入監十五日以内	入監一月以内	入監二月以内	類別		原因不詳	合計	病監最多日ノ人員	病監最少日ノ人員	毒											
				男	女					動物性及植物性病	礦物性毒	菌性毒	其他								
				刑事被告人	懲治人	別房留置人	乳兒	合計													
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女

在監入疾病死亡ノ日數年齡及月別 (明治何年)

一 罹病者ノ網ニハ投擲シタル者ニ就キ掲クヘシ

性	外				病器殖生及尿泌				病器							
	其	變	自	怪	計	其	女	腎	淋	尿	尿道及膀胱炎	計	其	肝	吐	下
計	他	死	殺	我	計	他	女	病	病	毒	計	他	炎	亂	病	下
男	男	男	男	男	男	男	女	病	病	毒	男	男	男	男	男	男
女	女	女	女	女	女	女	男	病	病	毒	女	女	女	女	女	女











第十六編 統計報告 監獄統計報告

千八百八十八

類別	收 入		支 出				監獄署何支署何支計
	工賃	製品賣却代價	給與工錢	器具費	雜品費	合計	
在監人作業費收支精算							
在監人出監時之領匿金							
收入ノ備工錢ノ項ニハ發却シタル製品ニ對スル工錢ト其他ノ備工錢トヲ分子ニテ掲ケルモノトス							

領匿金 收入 (明治何年) 監 名

類別	前年度ヨリ繰越金		本年度收入		本年度支出		差引 殘
	工賃	所持金	工賃	所持金	工賃	所持金	
幼年因懲治入ノ就學 (明治何年)							
幼年因懲治入ノ領匿金							
在監人出監時ノ領匿金 (明治何年)							

第十六編 統計報告 監獄統計報告

千八百八十九

類別	幼年因懲治入ノ就學 (明治何年) <th rowspan="3">監 名</th>		監 名
	男	女	
總人數			
就學人員			
不就業人員			
合計			

類別	在監人出監時ノ領匿金 (明治何年) <th rowspan="3">監 名</th>		監 名
	工賃	所持金	
一圓未滿			
二圓未滿			
三圓未滿			
四圓未滿			
五圓未滿			
十圓未滿			
十五圓未滿			
二十圓未滿			
二十五圓未滿			
三十圓未滿			
三十圓以上			
合計			

總人員ニハ前年ヨリ職員並ニ本年入ノ者ヲ合記ス可シ  
就學延時間ニハ就學人員ノ延時間ヲ掲クヘシ















第十六類 統計報告 監獄統計報告

(裏面)

一出監後居住地

原簿 收監番號 號 某監獄(支)署 主任者

(一)	本籍	縣府	市郡	村町	士族
(二)	姓名	男	女	瘡癩	
(三)	入場	種別	新入	假出	逃走
		原因	入罪	停止	復歸
		度數		疾病全	癩復歸
(四)	年	滿	年	月	日
(五)	監治期限	年	月	日	
(六)	出生	滿	年	月	日
		滿	年	月	日
(七)	生	實父母	實繼父	養父母	養父母
		養父母	養父母	養父母	養父母
		養父母	養父母	養父母	養父母
(八)	貧	富有資產	稍有資產	無資產	赤貧
(九)	教	小學	高等	職業	無學
(十)	父母	無	有	有	有
(十一)	父母	無	有	有	有
(十二)	職業	無	有	有	有

(大サ美濃紙八ツ切)

千百九十六

票小場出入治監

(一)	姓名	男	女	瘡癩
(二)	出場事由	滿期放免	假出	逃走
		死亡	逃走	疾病

(大サ美濃紙八ツ切)

票小(監)房出

(一)	本籍	縣府	市郡	村町	士族
(二)	姓名	男	女	瘡癩	
(三)	年	滿	年	月	日
(四)	事入房(監)	別房	監視	二付	ナキ
			住所	又ハ	引取人
			同籍者	スル	ナキ
			疾病	ノ	爲メ
			疾病	ハ	サル
			監内	出產	

(大サ美濃紙八ツ切)

票小(監)房出

(一)	姓名	男	女
(二)	出房(監)	出房(監)	死亡
		逃走	何々

監獄統計小票記入心得

(明治三十三年十月司法省監獄第一二四號通牒)

今般司法省訓令第四號ヲ以テ在監人ノ身上ニ關スル報告書ヲ調製スル小票ノ方式ヲ定メラレ候ニ付テハ統計小票ハ別紙記載ノ監獄統計小票記入心得及小票ノ整理並ニ製表順序ニ依リ御取扱相成候様御度命ニ依リ此段及通牒候也

道ヲ報告書中ノ小票欄外ノ事項ハ他ノ方法ニ依リ調査可相成候ニ候此段中添候也

監獄統計小票記入心得

一 統計小票ハ拘留監囚人監禁治場別房留置場(乳兒)ニ出入スル者アル毎ニ一人各一票ヲ用ヒ記入トシテ二枚ヲ綴ルニ付テハ方式ナリ

一 囚人出入監小票ニハ白色紙、刑事被告人出入監小票ニハ桃色紙、懲治人別房留置人及乳兒ノ出入場(監)小票ニハ青色紙ヲ用ユヘシトシテ本票ハ製表ノ際少ナキモ數同多キハ數十個種々ニ取扱フモノナルヲ以テ紙質ノ堅固ナルモノヲ用ユヘシ但シ色摺ヲ以テ色紙ニ代用スルモ妨

第十六類 統計報告 監獄統計報告

千百九十七

一 本票表面ノ事項ハ主トシテ監獄報告例諸表(在監人ノ身分)ノ基礎トナルベキ材料ニ供スルヲ目的トス故ニ統計主任者ノ直チニ名簿原簿ニ就キテ之ヲ調査スヘキモノナリ但シ之ヲ以テ名簿原簿登錄ノ資料ニ併用セントスル所ニ在リテハ名簿主任者ハ本人ニ就キ其面ノ事項ヲ併用テ調査シ原簿登錄後直チニ統計主任者ニ送送スヘキモノトス

一 調査事項ヲ記入スルニ當リテハ字劃ヲ正シ行草ノ文字ヲ避ケ努メテ誤リナキトス

一 監獄統計材料ノ爲メ或ル項目ヲ特設スルノ必要アルトキハ裏面ニ之ヲ股ケルモ妨ケナシ

一 本票ハ管内ノ異動即チ本署、支署間ノ押送ニ係ルモノアルトキハ特ニ出入小票ノ調製ヲ要セス但シ拘留狀ヲ發シタル刑事被告人及囚人ハ監獄署及支署ニ於テ拘留スル爲メ警察署ヨリ押送スルトキハ出入監小票ハ送付ヲ受ケタル署ニ於テ調製シ罰金及科料ノ換刑、禁錮拘留或ハ拘留狀ヲ發シタル刑事被告人ヲ拘禁スル警察署ニ在リテハ小票ハ其署ニ於テ調製スヘキモノトス

一 押送規定ニ依リ甲縣ヨリ乙縣ニ押送ノトキハ途中ノ受授(入)ニハ小票ヲ要セス

一 本署ハ記入後警察署ニ於テ囚人ノ身上ニ取調ノ結果等ニヨリ事實ニ相違アルトキハ米書ヲ以テ更正スヘキモノトス

一 入監小票ノ他管ヨリ押送、出監小票ノ他管へ押送者中控訴上告ノ者ヲ其他ノ者ト區別スル爲メ其應府縣名ヲ米書スルモ妨ケナシ

一 名簿原簿備考欄ニ記入事項ノ調査ニ必要アルトキハ裏面ニ備考欄ヲ設ケルモ妨ケナシ

一 欄外ニ原簿丁數並ニ收監番號ヲ付スルハ本署訂正ノ必要アルトキ檢査ニ便ナラシムル爲メナリ

一 登載主任者ハ其正確ヲ保スル爲メ本署署名ノ下ニ捺印スヘシ

一 欄外上部ノ年月日ハ出入監當日ノ年月日ヲ示ス

一 無籍者ハ本籍ノ項ハ無籍ト記載シ外國人ハ其本國名ヲ記入スヘシ



第十六類 統計報告 監獄統計報告

千百九十八

- 一 記入ト塗抹ノ正式トハ即チ必要ノ事項ヲ記入シ印刷シタル不用ノ文字ヲ塗抹スベシ謂ハリ例セト本籍姓名ヲ記入シ(姓名ハ他ノ文字ヨリ男女ノ文字ノ一方ヲ塗抹スル等ノ類ナリ)尙小票ニ就キ各種ノ例ヲ左ニ掲ク
- 一 刑事被告人入監小票
  - 一 入監者アリタルトキハ(一)乃至(四)ノ事項ヲ記入スヘシ
  - 一 入監者ニシテ新入者ナルトキハ初入者ナルカガ將々何留置以上ヲ發シ入監シタルコトアルモノ(再入)ナルカ否ヲ調ヘ入監度數中他ノ目竝ニ(六)(七)ノ二項ヲ塗抹スヘシ
  - 一 實付ノ取消ニヨリ入監シタルモノニ係ル時ハ歸監事由中他ノ二目及(五)(七)ノ二項ヲ塗抹スヘシ刑事被告人ノ逃走歸監者及保釋ノ取消ニヨリ入監シタル者亦同シ
  - 一 他管ヨリ押送ニ係ル者ナルトキハ原屬府縣名並ニ監獄署名ヲ記シ(五)(六)ヲ塗抹スヘシ
  - 一 囚人懲治人別房留置人逃走シテ逮捕セラレ收監シタルトキハ再入以上トシ初入及(六)(七)ノ二項ヲ塗抹スヘシ
- 一 刑事被告人出監小票
  - 一 出監者アリタルトキハ(一)ヲ記入スヘシ
  - 一 出監者ニシテ放逐者ニ係リ他管ヨリ押送セラレタル者ニアラサルトキハ(三)(四)ヲ記入シ(五)(六)ノ三項及出監事由中(放逐者ナルトキハ)他ノ目ヲ塗抹スヘシ徒刑以下受刑ノ死刑死亡實付保釋亦之ニ準ス
  - 一 逃走者ニ係ルトキハ實付目ヲ存シ其他ノ目及(三)(四)(五)(六)ヲ塗抹スヘシ
  - 一 他管ヨリ押送者ニ係ルトキハ押送府縣名(或ハ陸海軍監獄名)ヲ記入シ(三)(四)(五)(六)ヲ塗抹スヘシ
  - 一 刑事被告人ノ逃走歸監者刑確定シタルトキハ入監時ハ最初ノ入監年月日出監時ハ宣告後ノ出監年月日ヲ掲クヘシ而シテ括弧下ニ掲ケル帶

- 一 獄日數ハ逃走中ノ日數ヲ省キ前後通算シ日數ヲ掲ケ其他ノ項ハ第二項ノ例ニ準シ取扱フヘシ
- 一 囚人ニシテ刑事被告人下爲リタル者刑確定シ前刑ヲ引續キ執行ノ者ト後刑ヲ先ニ執行スルトニ拘ハラヌ(三)(四)ヲ記入シ徒刑以下受刑ノ目ヲ存シ其他ノ目及(五)(六)ノ三項ヲ塗抹スヘシ刑事被告人ト爲リタル別房留置人及懲治人ノ刑確定シタルモノ亦之ニ準ス
- 一 未決拘禁中刑期經過シ刑ヲ執行ヲ爲ス能ハスシテ放免セシモノノ類ハ徒刑以下受刑者トシ其他ノ項ハ第二項ノ例ニ準シ取扱フヘシ
- 一 本票ノ(三)(四)ノ括弧下ニハ通算シタル日數ヲ記入シ控訴上告ニ係ル者ノ日數ハ朱書スヘシ但死亡者ノ日數ハ日數ヲ記入スヘカラス
- 一 (四)ノ欄外ノ年月日ト重複スルモ通算ニ便ナルヲ以テ之ヲ再掲スヘシ
- 一 囚人入監小票
  - 一 入監者アリタルトキハ(一)(二)ヲ記入スヘシ
  - 一 入監者ニシテ新受刑者ナルトキハ(除ク) (五)乃至(八)及(九)ノ事項ヲ記入シ入監事由ノ附加罰金ノ換刑以下ノ目及(四)ノ一項ヲ塗抹シ(九)乃至(五)ノ不用ノ目ヲ塗抹シ(名簿原簿登錄ノ用ニ供スル監府縣名)而シテ初犯ナルトキハ(六)(七)ノ二項ヲ塗抹シ再犯以上ナルトキハ其事項ヲ共ニ記入スヘシ
  - 一 入監者ニシテ附加罰金ノ換刑者ナルトキハ其目ヲ存シ(五)ヲ記入シ其他ノ目及各項ヲ塗抹スヘシ本刑ニ引續キ換刑轉禁執行ノ者亦之ニ準ス
  - 一 逃走者ニシテ刑確定シ前刑ヲ引續キ執行ノ者ハ逃走復歸トシ其他ノ目及各項ヲ塗抹シ後刑執行ノトキハ要ニ新受刑者トシテ第二項ノ例ニ準シ取扱フヘシ又後刑ヲ先ニ執行スルトキハ新受刑者トシテ第二項ノ例ニ準シ取扱フヘシ前刑ヲ執行スルトキハ再入監者トシテ入監事由ノ項ニ其事由ヲ記入シ其他ノ目及以下各項ヲ塗抹スヘシ拘留監ヘ移シタルモノノ復歸亦逃走ノ例ニ同シ

- 一 假出獄ノ停止ニ係ルトキハ入監事由中他ノ目及以下各項ヲ塗抹スヘシ
- 一 他管ヨリ押送ニ係ルトキハ原屬府縣名並ニ監獄署名ヲ記入シ其他ノ目ヲ塗抹スヘシ
- 一 未決拘禁中刑期經過シ刑ヲ執行ヲ爲ス能ハスシテ放免セシモノノ類ハ新受刑者ノ例ニ準シ取扱フヘシ
- 一 囚人出監小票
  - 一 出監者アリタルトキハ(一)ヲ記入スヘシ
  - 一 出監者ニシテ刑期トシタル者ニ係ルトキハ(五)(六)(七)ノ三項(禁錮十上ノ囚人)ヲ記入シ出監事由中他ノ目及(四)ノ二項ヲ塗抹スヘシ特赦非特赦上告再審假出獄及免刑附收監罰金收納ニ係ル者亦同シ但主刑及附加罰金ノ換刑ヲ引續キ執行ノ者ハ主刑刑期ノ小票ニハ(五)(六)(七)ヲ塗抹シ最終出監ノ小票ニハ(五)(六)(七)ヲ記入スヘシ此場合ハ通算シタルモノノ刑期トスヘシ特赦非特赦上告假出獄免刑附收監罰金收納ノ出監者ハ出監前日數ヲ以テ刑期トスヘシ
  - 一 死亡者ニ係ルトキハ出監事由中他ノ目及以下各項ヲ塗抹スヘシ
  - 一 他管ヨリ押送ニ係ル者ナルトキハ實付目ヲ存シ(押送先ヲ記入)其他ノ目及(三)(四)以下ノ各項ヲ塗抹スヘシ
  - 一 入監時ノ體量記載方ハ本人ノ出監時ニ記入スヘキモノトス
- 一 懲治人入場小票
  - 一 入場者アリタルトキハ(一)(二)ヲ記入スヘシ
  - 一 入場者中瘡腫者ニアラサル者ハ瘡腫ノ文字ヲ塗抹スヘシ而シテ新入ニ係ル者ハ因由度數及(五)ヲ記入シ(六)乃至(七)ノ不用ノ目及假出場停止以下ノ目ヲ塗抹スヘシ
  - 一 假出場停止ニ依リ入場シタル者ニ係ルトキハ入場種別中他ノ目及因由度數並ニ以下ノ各項ヲ塗抹スヘシ疾病全癒復歸ノ者亦之ニ準ス
  - 一 逃走者ニシテ前懲治期引續キ執行ノ者ハ逃走復歸トシ入場種別中他ノ目及因由度數以下ノ各項ヲ塗抹スヘシ

- 一 懲治人出場小票
  - 一 出場者アリタルトキハ(一)ヲ記入シ瘡腫者ニアラサル者ハ瘡腫ノ文字ヲ塗抹シ出場事由中實付目ヲ存シ其他ノ目ヲ塗抹スヘシ
  - 一 別房留置人ノ乳兒入房(監)小票
    - 一 入房(監)者アルトキハ(一)乃至(三)ヲ記入シ入房(監)事由ノ當該目ヲ存シ其他ノ目ヲ塗抹スヘシ票題モ亦不用ノ一方ヲ塗抹スヘキモノトス
    - 一 本票乳兒ニ係ル者ハ姓名ヲ朱書シ別房留置人ト區別スヘシ出房(監)小票亦同シ
    - 一 乳兒ノ入監小票ハ攜帶入監ノ際並ニ監内出産ノ時ニ限リ本票ヲ用フモノトス
  - 一 出房(監)者アリタルトキハ(一)ヲ記入シ出房(監)事由ノ當該目ヲ存シ其他ノ目ヲ塗抹スヘシ
- 一 小票ノ整理並ニ製表順序
  - 一 集治監及監獄同支署ニ於テハ小票整理ノ爲メ別紙雛形ノ箱ヲ備フルヲ要ス但出入者ノ多少ニヨリ箱ノ大小區劃ノ増減スルモ妨ナシ
  - 一 第一圖ハ刑事被告人出入監小票用
  - 一 第二圖ハ囚人出入監小票用
  - 一 第三圖ハ懲治人別房留置人乳兒出入(場)房監小票用
  - 一 各書箱ニハ雛形ニ示ス如ク各區劃ノ上部ニ見出テ帖付シ小票ヲ取扱ヒタル都度小票挿入ノ便宜ニ供スヘシ
  - 一 書籍ハ當分ノ内在來ノ箱ヲ使用スルモ妨ナシト雖モ各區劃ニ挿入スヘキ小票ノ種類ハ前項ノ區分ニ據ルヘキモノトス
  - 一 各部類ニ挿入シタル小票數ハ製表ノ際直チニ表(出入)中ノ科目ニ記入シラルシキモノナルヲ以テ他ノ部類ニ屬スル小票ノ混入モ亦檢査入ノ際慎重ノ注意ヲ要ス
  - 一 警察署ニ於テ取扱ヒタル小票ノ製表ハ監獄署ニ於テ爲スヘキモノトス

第十六類 統計報告 監獄統計報告

千百九十九

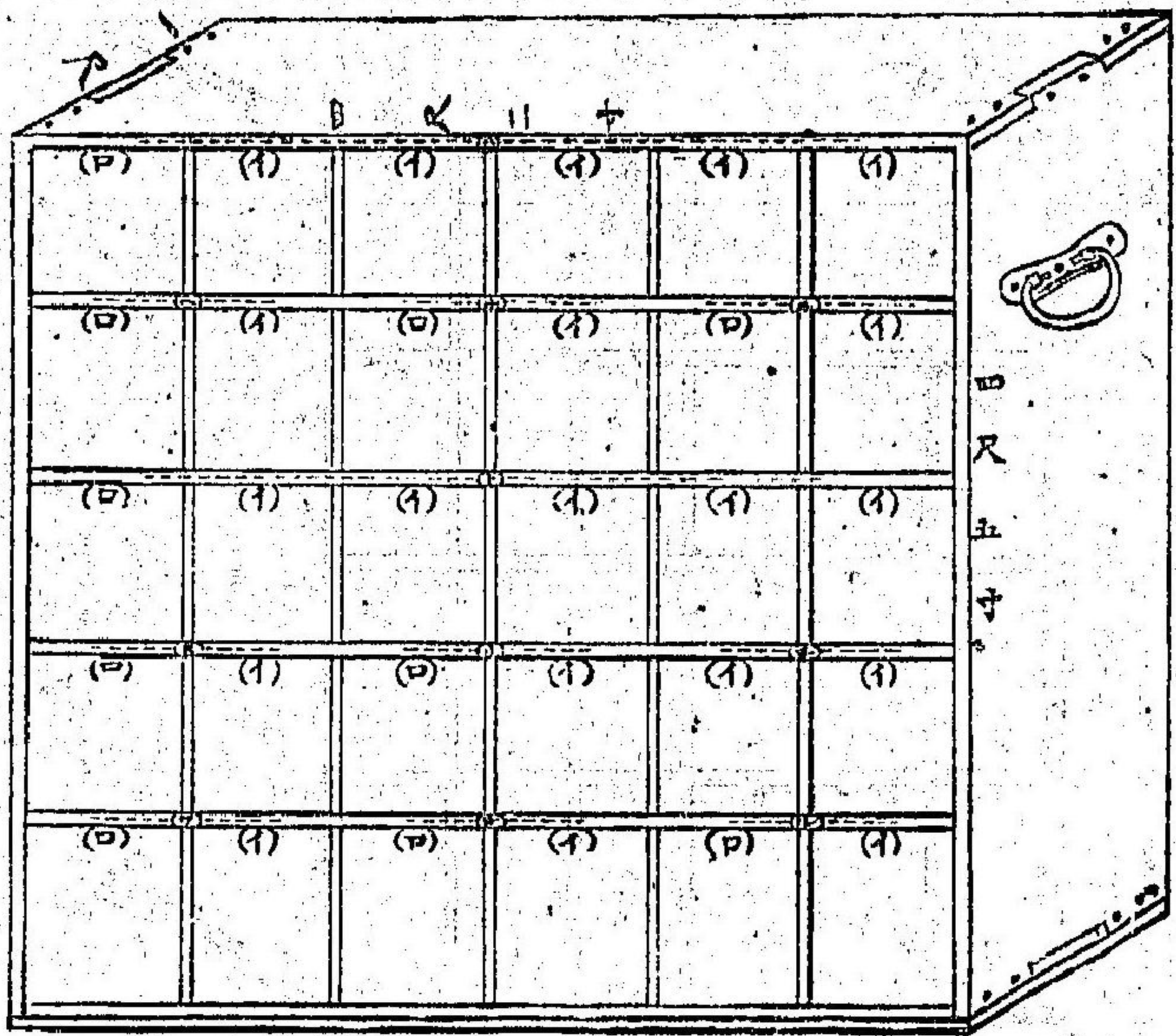






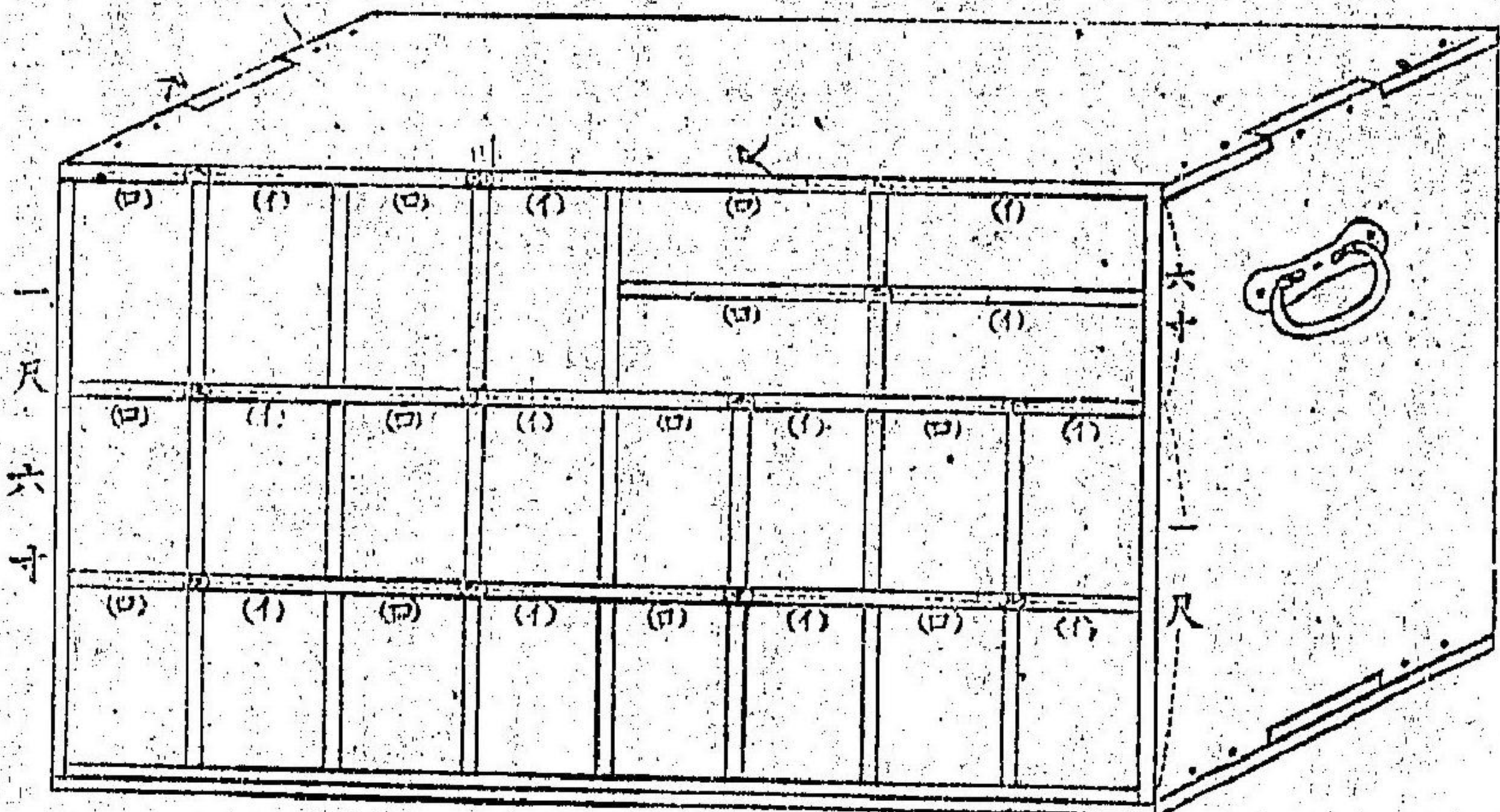
- 一(イ) 男
- 一(ロ) 女
- 一(ハ) 新受刑
- 一(ニ) 附加罰金ノ換刑
- 一(ホ) 假出獄停止、逃走復歸、拘留監へ移シタル者復歸
- 一(ヘ) 他管ヨリ押送
- 一(ト) 満期
- 一(チ) 假留監へ押送
- 一(リ) 廳府縣へ押送
- 一(ス) 拘留監へ押送
- 一(ル) 特赦、非常上告、再審、假出獄、免職閉、收賍、罰金收納
- 一(エ) 死亡
- 一(ワ) 逃走
- …(カ) 一部類ヲ示ス

圖 二 第



- 一(イ) 男
- 一(ロ) 女
- 一(ハ) 新入者
- 一(ニ) 假出獄停止、逃走復歸、疾病全癒復歸
- 一(ホ) 満期、假出獄、疾病、逃走
- 一(ヘ) 死亡
- 一(ト) 監視ニ附セラレ住所又ハ引取人ナキ者
- 一(チ) 假出獄ヲ許サレ同上
- 一(リ) 出房
- 一(ス) 死亡、逃走
- 一(ル) 携帯
- 一(エ) 出監
- 一(ワ) 出監
- 一(カ) 死亡、逃走
- …(ク) 一部類ヲ示ス

圖 三 第





監獄統計小票記入ニ關スル件

(明治三十三年十二月司法省監獄第三四三號通牒)

明治三十四年一月一日ヨリ實施可相成監獄統計小票ノ記入方ニ付テハ...

- 一 調查事項ヲ記載スル字劃ヲ正スハ文字判明ナラサルトキハ製表ノ際...

監送ノ際ト雖モ途中ノ警察署ニ於テハ出入小票ヲ作ルヲ要セス...

- 問 果シテ然ラバ甲縣監獄署ヨリ乙縣監獄署ヘ傳遞送テ以テ在監...

- 一 小票欄外上部ノ年月日ト出入監當日ノ年月日ト同日ナリト雖トモ...

- 問 小票ニ入監年月日トアリ之レハ令狀ノ執行年月日ニ依ルヘキヤ...



取扱ノ外ナシ  
 一 記入心得第三項入監者ニシテ附加罰金ノ換刑者ナルトキハ其目ヲ存シ(五)ヲ記入シ(五)ノ下ニ(七)ノ一字追加  
 二 換刑執行ノ爲メ入監者アリタルトキハ入監小票ヲ作ルヘキモ、ナリト雖モ若シ入監當日午後二時至三時罰金ヲ完納シタル時ハ如何答 右ノ場合ニハ假令入監小票ヲ作リタルモ完納シタル以上ハ入監小票ヲ棄却スヘキモノナリ  
 三 附加罰金ノ換刑者ノ犯數ノ記載方ハ如何  
 答 附加罰金ノ換刑者ノ犯數ハ主刑ノ犯數ヲ記入スヘキモノトス  
 四 餘罪發覺ノ爲メ刑事被告人トナリタル囚人ニシテ判決確定シ其刑期ハ前刑ニ通算スヘキモノトス但前年ノ入監時ノ小票ノ罪名(重罪ノ限)及刑期ヲ更正スヘキモノトス但前年ノ入監者ニ係ル小票ハ更正ニ及ハス  
 五 前年ノ満期出監者ニシテ新受刑者トシテ入監シタル者ノ刑期前罪ノ刑期ト通算スヘキモノナルトキハ刑期ノ記入方如何  
 答 前罪ノ刑期ト通算スヘキモノナルトキハ宣告書ノ刑期ヲ記入スルモノトス  
 六 記入心得第四項中入監事由ノ項ニ其事由ヲ記入シ云々トアル事由トハ假令ハ逃走罪重クシテ先ニ之ヲ執行シ引續キ前刑執行ノ時逃走罪ニ引續キ前刑執行ト書スルノ類ナリ  
 七 一罪満期ノ後引續キ他ノ刑ヲ執行スル者ノ(定)前犯出監年月日並ニ(大)出監後犯罪時ノ年月日ハ共ニ記入スヘキモノトス但シ此者ノ前犯ノ罪名刑期刑執行府縣名實數ハ製表ノ際備考ニ詳細表出シ尙引續キ執行ノ者ニ係ルヲ以テ出監後再犯時ノ期間ナキ旨ヲ附記スルヲ要ス  
 八 囚人出監小票  
 一 二罪以上各別ニ科スルモノノ出監小票ハ二罪満期ノ時ノ出監小票(満期)ニハ(五)(六)(七)ヲ檢査シ最終出監ノ小票ニ限リ(五)(六)(七)ヲ記入スヘキモノトス但シ刑期出監後更正換刑執行ノ爲メ入監シタルモノノ出監小票ニハ主刑並ニ換刑共(五)(六)(七)ヲ掲グヘキモノトス尤モ換刑出監票ニハ

十一日以下ノモノハ(五)(六)(七)ヲ記入スヘキモノトス  
 一 果シテ然ラハ換刑者ノ出監票中入監年月日ハ主刑執行ノ爲メ入監セシ年月日ヲ指稱スルカ將テ換刑入監ノ年月日ナリヤ  
 答 右ノ場合ハ換刑入監ノ年月日ヲ入監時トスヘキモノトス  
 一 長期刑ノ者ニシテ入監時ニ於ケル體量ノ調査ナキモノアラハ出監時ノ體量ノミヲ製表ノ際其人並ニ出監時ノ體量共朱書シ尙備考ニ其旨ヲ說明スルヲ要ス  
 一 別展留置人乳兒ノ出入(房)監小票  
 一 乳兒ノ出入小票ニハ姓名ノ欄ニ母ノ姓名ヲ肩書シ收監番號モ亦母ノ番號ヲ記入スルモノトス  
 一 控訴人員調 (明治三十三年九月司法省監獄第七七號照會)  
 一 控訴院所在地ノ監獄ニ拘禁セル控訴人員並ニ刑事被告人調入用ニ候條別紙ノ雛形ニ準シ御取調十月五日限リ御送付相成度尙九月以降ハ毎月在監月末人員表御報告ノ際同表末尾ニ附記相成度此段及照會候也  
 一 控訴人員其他取調表

月	日	前月ヨリ新控訴人員	新控訴人員	計	決定人員	刑事被告人
三月	三十一日					
四月	三十日					
五月	三十一日					
六月	三十日					
七月	三十一日					
八月	三十一日					
九月	三十日					
十月	三十一日					
十一月	三十日					
十二月	三十一日					

現在ヲ掲ケ新受刑者ハ控訴ノ有無ニ拘ハラス上關期間ノ總新受刑者ヲ掲グヘキモノトス  
 一 刑事被告人ハ越員並ニ入監者ヲ合算シテ掲グヘキモノトス

本年勅令第七號ニ依リ減刑ノ恩典ヲ受ケ直ニ放免セラレタルモノニシテ重キテ重罪輕罪ヲ犯シ其裁判確定シタルモノハ一個月毎ニ取調別紙様式ニ據リ本省へ報告ス可シ  
 一 内ハ朱書

氏名	罪名	刑名	刑期	減刑後ノ日	裁判官	年月日	生年月日	身業	籍住	所出生ノ地
今井政五郎	竊盜	懲役終身	三	三月三十日	△某裁判所	十二月二十日	△安政三年九月九日	平民	△東京市麹町區三番町二丁目	△東京市芝區本芝入横町
港田和吉	懲役人逃及竊盜	上懲役終身	五	三月三十日	△某支部	二月二十日	九月九日	平民	△東京市麹町區三番町二丁目	△東京市芝區本芝入横町
同	家宅侵入	懲役終身	一	三月三十日	△某支部	三月五日	嘉永四年七月生子	平民	△東京市麹町區三番町二丁目	△東京市芝區本芝入横町
同	持兇器強盜	懲役六年	二	三月二十日	△某地方	三月二十日	未詳	平民	△東京市麹町區三番町二丁目	△東京市芝區本芝入横町







件 (明治三十四年一月司法)

在監入逃走ノ場合ニ就テハ明治二十七年六月内務省訓令第四九號同年八月警獄發第五二號ニ依リ報告可相成等之處警務署ヨリ逃走シタルモノ、如キハ報告洩モ有之哉ニ被存候條爾來無漏御報告相成候様致度此段及通牒候也

特赦報告ノ件 (明治三十三年七月司法)

本日警務訓令第二十七號ヲ以テ監獄則施行細則第十五條ヲ削除セラレ候處右ハ當省大臣ヘノ申報ヲ停止セラレタル趣旨ニ有之候條特赦アリタルトキ典獄ヨリ所屬長官ニ申報スル義ハ從來ノ通御取扱相成可然此段及通牒候也

監獄巡閱報告ノ件 (明治三十四年六月内務省訓令第五八號訓令)

監獄則第四條第二項ニ據リ監獄ヲ巡閱セラレタルトキハ其都府狀況ヲ具シテ報告セラルヘシ

作業場ニ於ケル災害事故通報ノ件 (明治三十三年九月司法)

貴監作業場ニ於ケル災害事故ノ際、付キ別紙農商務省訓令第三十一號ニ依リ同省ニ通報相成度旨商工局長ヨリ依頼有之候ニ付右依頼ノ通御取計相成度此段及通牒候也

農商務省訓令第三十一號 總府東京府 工場ノ災害事故ニ關スル報告方左ノ通相定メ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス 明治三十三年九月 日

總務長官

「別記事項」

- 一 火災又ハ建物煙突高梁橋等ノ崩壞毀損ニ關シテハ左ノ事項ノ報告ヲ要ス
  - (一) 建造物ノ位置、構造及ヒ材料(平屋、二階三階等ノ區別瓦葺、石造土蔵造、餘屋造、木造、又ハ以上ノ混成等但鐵骨又ハ鋼鐵骨ナルトキハ其旨ヲ附記ス)
  - (二) 火災ヲ發見セシ當時ノ狀況及ヒ其際ニ施セシ防禦方法並ニ避難順序
  - (三) 避難ノ設備(出入口、昇降口、非常口、階段ノ配置及ヒ構造、扉ノ開閉方避難器ノ種類及ヒ配置等)
  - (四) 火災豫防ノ設備(防火壁ノ構造防火設備ノ用否、自動消火器、消火自動器其他ノ消火器ノ種類、個數等)
  - (五) 給水ノ狀況
  - (六) 汽機破損毀損ニ關シテハ左ノ事項ノ報告ヲ要ス但製紙用蒸釜若クハ二重底蒸釜等汽機ヲ使用スルモノ、破損毀損ニ關シテ亦之レニ準ス
  - (七) 最近ノ水壓試驗明細書
  - (八) 試驗ヲ爲セシ年月日
  - (九) 試驗ヲ爲セシ責任者
  - (十) 水壓試驗ノ最高壓力及ヒ之レヲ保持セシ時間
  - (十一) 汽機修繕ノ有無、其年月日、汽機ノ部分、修繕ノ方法並ニ修繕ヲ爲セシ人名
  - (十二) 蓄積ヲ購入セシモノナラハ其沿革
  - (十三) 災害ノ當時現ニ蒸汽ヲ使用セシヤ否使用セシモノナラハ其用途及ヒ壓力
  - (十四) 汽機ノ明細書
  - (十五) 汽機ノ種類

大 區

職工徒第十人以上ヲ雇使スル工場及ヒ其寄宿舍其他ノ附屬建築物ニ於テ災害其他ノ事故ニ因リ死亡者又ハ負傷者ヲ出シタルトキハ別記ノ事項ヲ調査シ遲クモ翌月中ニ農商務大臣ニ報告スヘシ但負傷者ヲ生シタルモ其負傷ノ程度業務ヲ繼續シ得ヘキ場合又ハ災害其他ノ事故ノ生シタル日ノ翌日ヨリ起算シ三日内ニ復業シ得ヘキ場合ハ此限ニ在ラス

職工徒第十人以上ヲ雇使スル工場及ヒ其寄宿舍其他ノ附屬建築物ニ於テ火災アリタルトキ又ハ建物、煙突、高梁橋、傳動裝置、汽機汽機、機械類ニ大ナル毀損を生シタルトキ、死傷者ヲ生セサモ其都府別記ノ事故ヲ調査シ災害其他ノ事故ヲ生シタル日ヨリ二十日以内ニ農商務大臣ニ報告スヘシ

汽機類ノ破損アリタルトキハ職工徒第十人以上ヲ雇使スル工場ニ於ケルト其他ノ工場ニ於ケルモノニ拘ラス前項ニ依リ報告スヘシ

前各項ノ場合ニ於テ事體重ナルトキハ其概況ヲ急報スヘシ

「別記事項」

- 一 工場ノ名稱、所在及ヒ工業主ノ氏名
- 二 工業ノ種類
- 三 災害其他ノ事故ノ生シタル日時、場所、其原因及ヒ狀況
- 四 死傷者アリタルトキハ其數、男女別、年齢及ヒ職名
- 五 死亡者アルトキハ其致死ノ原因、負傷者アルトキハ其負傷ノ部位、症狀、經過等及ヒ救護ノ顛末
- 六 死傷者被害ノ原因、場所其當時從事シタル仕事ノ種類及ヒ取扱ヒタル機械器具ノ種類又ハ部分
- 七 本月當省訓令第三十一號ヲ以テ工場ノ災害事故ニ關スル報告方訓令相成候處右ニ依リ報告ヲ要スル場合ノ中工場ノ火災又ハ建物煙突高梁橋等ノ崩壞毀損又ハ汽機類ノ破損毀損等ニ關シテハ調査シ得ラル、限リ別記ノ事項ヲ御取調ノ上御報告相成度旨命此段及通牒候也
- 八 追テ明治二十七年九月丁二一七號汽機ノ破損又ハ損壞ニ關スル照會ハ自然消滅ノ義ト御承知相成度候也 明治三十三年九月

(二) 汽機ヲ製作セシ材料ノ種類

- (一) 鐵及ヒ火筒ノ直徑
- (二) 鐵ノ長
- (三) 金層板ノ厚
- (四) 鋼板、鏡板火筒
- (五) 管
- (六) 厚、長、直徑、個數
- (七) 接合
- (八) 周圍、縱
- (九) 鉸、鉸ノ直徑並ニ心距
- (十) 支柱ノ種類、構造、寸法
- (十一) 安全弁ノ個數及ヒ種類、口徑、錘、重量、錘桿上ノ位置並ニ錘桿ノ寸法(又ハ發條ノ壓力量)
- (十二) 給水器ノ種類及個數
- (十三) 常用壓力
- (十四) 燃料ノ種類
- (十五) 煙格ノ面積
- (十六) 破損又ハ毀損前ニ於ケル汽機ノ異狀
- (十七) 破損又ハ毀損後ニ於ケル汽機ノ形狀並ニ其繪圖若クハ寫眞
- (十八) 責任火夫及ヒ汽機ノ破損又ハ毀損セシ當時之ヲ取扱ヒシ者ノ氏名
- (十九) 並ニ其履歷概略



第十七類 通信

郵便

●郵便法 (明治三十三年三月 法律第五十四號)

第一條 郵便ハ政府之ヲ管掌ス  
 第二條 何人ト雖信書ノ送達ヲ營業ト爲スコトヲ得ス  
 運送營業者及其ノ用人ハ其ノ運送方法ニ依リ他人ノ爲ニ信書ノ送達ヲ爲スコトヲ得ス但シ貨物ニ添附スル無封ノ添状又ハ送状ハ此ノ限ニアラス  
 第三條 運送營業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ其ノ運送方法ニ依リ郵便物ノ運送ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ相當ノ運送料金ヲ支給ス  
 第四條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便専用車馬等ハ道路ニ障礙アリテ通行シ難キ場合ニ於テ牆壁又ハ欄柵ナキ地田畑其ノ他ノ場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ損害ノ賠償ヲナスヘシ  
 第五條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便専用車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ郵便遞送人郵便集配人又ハ郵便吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ助力者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ  
 第六條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便専用車馬等ニ對シテハ渡津、運河、道路、橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス  
 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得  
 第七條 郵便専用ノ物件及現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第十七類 通信 郵便

郵便専用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受ケルコトナシ  
 郵便物及其ノ取扱ニ必要ナル物件ハ海損ヲ分擔セズ  
 第八條 郵便官署ハ郵便物ノ運送中又ハ其ノ發送ノ準備完了ノ後ニ限り其ノ差押ヲ拒ムコトヲ得  
 第九條 郵便物検査ヲ受ケヘキ場合ニ於テハ他ノ物件ニ先チテ直ニ検査ヲ受ケ  
 第十條 郵便取扱ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス  
 第十一條 郵便官署ハ郵便物又ハ郵便ニ依ル取立金ノ受取人ノ眞偽ヲ調査スル爲メ受取人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第十二條 郵便物ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ宛所ニ配達ス  
 第十三條 郵便物ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限り差出人ノ請求ニ因リテ差付スルコトヲ得  
 第十四條 宛所ニ配達シ又ハ受取人ニ交付スルコト能ハサル郵便物ハ差出人ニ還付ス其ノ差出人ニ還付スルコト能ハサルモノハ主務大臣ノ指定シタル郵便官署ニ於テ之ヲ開披スルコトヲ得  
 第十五條 前條ニ依リ開披シタル郵便物ニシテ尙配達還付ヲ爲スコト能ハサルモノ及郵便ニ依ル取立金ニシテ拂渡ヲ爲スコト能ハサルモノハ之ヲ公示ス  
 郵便物ニ封入シタル物件ニシテ有價物ニ非サルモノハ其ノ公示ノ日ヨリ六箇月内ニ交付ヲ請求スル者ナキトキハ之ヲ棄却シ其ノ有價物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ其ノ保管ニ過分ノ費用ヲ要スルモノナルトキハ之ヲ棄却シ其ノ代金ヲ保管ス但シ賣却ニ要スル經費ハ直ニ賣却代金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得  
 有價物、賣却代金及郵便ニ依ル取立金ハ公示ノ日ヨリ二箇年間交付ヲ請求スル者ナキトキハ國庫ノ所有ニ歸ス  
 第十六條 郵便官署ハ郵便物ニ郵便禁制品ヲ封入シ又ハ成規ニ違反シテ差出シタル物件アリト認めタルトキハ差出人ニ其ノ開示ヲ求ムルコトヲ得  
 差出人其ノ開示ヲ拒ミタルトキハ其ノ取扱ヲ拒絕ス



第十七類 通信郵便

千二百十四

第十七條 郵便物ハ通常郵便物及小包郵便物トス  
 第十八條 通常郵便物ノ種類及料金ハ左ノ如シ  
 第一種 書 状 重量四匁又ハ其ノ端數毎ニ 金 三錢  
 第二種 郵便葉書 一 封筒 重量二匁又ハ其ノ端數毎ニ 金 一錢  
 二 封筒 重量二匁又ハ其ノ端數毎ニ 金 三錢  
 第三種 郵便葉書 一 封筒 重量二匁又ハ其ノ端數毎ニ 金 一錢  
 二 封筒 重量二匁又ハ其ノ端數毎ニ 金 三錢  
 第四種 書籍、印刷物、業務用 重量三十匁又ハ其ノ端數 金 二錢  
 第五種 農産物、種子 重量三十匁又ハ其ノ端數 金 一錢  
 前項各種ニ該當セザル物件及該當スルモ封緘シタルモノハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス  
 異種ノ郵便物ヲ合裝シタルモノハ其ノ種類中ノ最高料金ヲ納付スヘキ  
 郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス但シ第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合裝ス  
 ルトキハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス  
 郵便葉書ノ表面又ハ第三種乃至第五種ノ郵便物ニ通信文ヲ記載シタル  
 モノハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス  
 第十九條 小包郵便物ノ料金並郵便物ノ特殊取扱ニ關スル料金ハ命令ノ  
 定ムル所ニ依ル  
 第二十條 書狀ハ小包郵便物ト爲シ又ハ小包郵便物ニ合裝スルコトヲ得  
 ス但シ封緘ノ添狀又ハ添狀ハ此ノ限ニ在ラス  
 第二十一條 第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ハ主務官署ノ認可ヲ受  
 ケタルモノニ限ル  
 第二十二條 郵便製物品ノ種類及郵便物ノ寄附、重量、包裝等ニ關スル制  
 限ハ命令ノ定ムル所ニ依ル  
 第二十三條 受取人ハ郵便料ヲ完納シタル郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得

ス  
 差出人ハ還付郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス  
 第二十四條 郵便ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ  
 除ク外之ヲ還付セズ  
 第二十五條 命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク外郵便料未納又ハ不足ノ郵  
 便物ハ受取人其ノ不納額ニ倍ノ料金ヲ納付シテ之ヲ受取ルコトヲ得其  
 ノ納付ヲ拒ミタルトキハ差出人ニ還付シ差出人ヨリ之ヲ徵收ス  
 第二十六條 郵便ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨリ六箇  
 月内ニ納付ノ告知ヲ受ケサルニ因リテ消滅ス  
 第二十七條 郵便ニ關スル料金ノ不納金額ハ郵便官署ニ於テ國稅滯納處  
 分ノ例ニ依リテ之ヲ徵收ス  
 前項ノ不納金額ニ付郵便官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス  
 第二十八條 郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話ノ事務ニ關スル郵便物  
 ハ無料ト爲スコトヲ得  
 第二十九條 郵便ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク外郵便  
 切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證券ヲ以テ納付スヘシ  
 第三十條 郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證券ハ政府之ヲ發行ス  
 第三十一條 郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證券ノ汚損毀損シタ  
 ルモノハ其ノ效用ヲ失フ  
 第三十二條 成規ノ手續ヲ經テ郵便物又ハ郵便ニ依ル取立金ヲ交付シタ  
 ルトキハ正當ノ交付ヲ爲シタルモノト看做ス  
 第三十三條 成規ニ依リ差出シタル郵便物ノ取扱ニ關シ郵便官署ハ左ノ  
 場合ニ限リ其ノ損害ヲ賠償ス  
 一 書留郵便物ヲ亡失シタルトキ  
 二 小包郵便物若ハ價格表記郵便物ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ  
 三 郵便ニ依ル取立金ノ證券ヲ亡失シ又ハ其ノ效力ヲ失ハシメタルト  
 賠償金額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル  
 第三十四條 郵便物交付ノ際外部ニ破損ノ痕跡ナク且重量ニ變易ナキト  
 キハ損害ヲキレト看做ス

第十七類 通信郵便

千二百十五

第三十五條 第三十三條ノ場合ト雖左ノ事項ニ該當スルトキハ損害賠償  
 ノ限ニ在ラス  
 一 差出人又ハ受取人ノ過失ニ因リタルトキ  
 二 不可抗力ニ因リタルトキ  
 三 其ノ郵便物ノ性質又ハ毀損ニ因リタルトキ  
 第三十六條 郵便物ノ差出人又ハ受取人ハ其ノ郵便物ニ損害アリト認ム  
 ルトキハ其ノ受取ヲ拒ムコトヲ得但シ郵便物受取ノ後ハ異議ヲ申立ラ  
 ルコトヲ得ス  
 第三十七條 第三十三條ニ依ル損害賠償ハ差出人又ハ其ノ承諾ヲ得タル  
 受取人ノ請求スルコトヲ得  
 第三十八條 本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シ  
 タル郵便官署ニ對シ左ノ期間内之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス  
 一 第四條ニ依ル賠償及第五條ニ依ル報酬ハ其ノ事實アリタル日ヨリ  
 三箇月  
 二 第三十三條ニ依ル賠償ハ郵便物差出ノ日ヨリ二箇年  
 第三十九條 郵便官署ノ損害賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ不服アル  
 者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコト  
 ヲ得  
 第四十條 郵便官署ニ於テ損害賠償ヲ爲シタル後其ノ郵便物ヲ發見シタ  
 ルトキハ之ヲ其ノ賠償受領者ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テ賠償受領者  
 ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六箇月以内ニ賠償金ノ全部又ハ一部ヲ返  
 付シテ其ノ郵便物ノ交付ヲ請求スルコトヲ得  
 第四十一條 第二條ニ違反シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ  
 五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 前項ノ場合ニ於テ收得シタル金銀物品ハ之ヲ沒收シ既ニ消費又ハ讓渡  
 シタルモノハ其ノ金額又ハ代價ヲ徵收ス  
 第四十二條 第三條ニ違反シタル者ハ十圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第四十三條 第四條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第五條ノ場合ニ於テ正  
 當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第六條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第七  
 條ノ事由ナクシテ津浦ノ出船ヲ拒ミ又ハ第二十三條ニ違反シテ

郵便物ノ受取ヲ拒ミタル者ハ料料ニ處ス  
 第四十四條 郵便官署ノ取扱中ニ係ル信書ノ秘密ヲ侵シタル者ハ一月以  
 上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 郵便事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ  
 本條ノ罪ニ被罰者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス  
 第四十五條 第二條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第四十六條 郵便製物品ノ郵便物トシタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處シ  
 其ノ物件ヲ沒收ス  
 第四十七條 不正ノ手段ヲ以テ郵便ニ關スル料金ヲ免シ又ハ免レムトシ  
 タル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 郵便事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ  
 第四十八條 帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他  
 郵便料金ヲ表彰スヘキ證券ヲ偽造變造シ又ハ其ノ情ヲ知テ之ヲ使用シ  
 タル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金  
 ヲ附加ス  
 前項ノ郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證券ハ之ヲ沒收ス  
 第四十九條 帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他  
 郵便料金ヲ表彰スヘキ證券ヲ再々使用シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ  
 處ス  
 第五十條 郵便事務ニ從事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ニ使用  
 シタル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證券ヲ剽取シタルト  
 キハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ未タ消印ヲ爲ササルモノニ  
 關シテハ刑法竊盜ノ罪ニ照シテ處断ス  
 第五十一條 郵便事務ニ從事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ竊  
 取シタルトキハ刑法竊盜ノ例ニ照シ一等ヲ加フ  
 第五十二條 郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ正當ノ事由ナクシテ開  
 披、毀損、隱匿者ハ拋棄シタル者又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シ若ハ情  
 知テ之ヲ受取リタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以  
 下ノ罰金ヲ附加ス  
 郵便事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ



第五十三條 正當ノ事由ナクシテ郵便物ノ取扱ヲ拒絶シ若ハ其ノ送達ヲ遅延セシメタル者又ハ重大ナル過失ニ因リ郵便物ヲ失ヒタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 郵便局ノ物件其ノ他現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ヲ破壊損傷シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十五條 第四十七條ヲ除クノ外前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サムトシテ未ダ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第五十六條 郵便物ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルモノハ各其ノ規定ニ依ル

附則

第五十七條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

郵便條例中第十二章及第二百四十二條以外ノ條項小包郵便法及郵便聯合國郵便切手保護法ハ之ヲ廢止ス

第五十八條 本法施行前ニ差出シタル郵便物ニ關シテハ郵便條例及小包郵便法ヲ適用ス

郵便規則 (明治三十三年九月) 信省令第四十四號

第一章 郵便物ノ種類

第一節 總則

第一條 左記ノ物件ヲ郵便禁制品トス

一 公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スヘキ文書、圖、畫其他ノ物件

二 爆發性、發火性又ハ危險性ノ物件其ノ他郵便吏員ニ危害ヲ加ヘ又ハ郵便物ニ損害ヲ與フヘキ物件

第二條 通貨、金銀、寶石、珠玉其ノ他高價ノ物件ハ價格表記ト爲スニ在ラザルニ郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得ス

第三條 通常郵便物ノ容積ハ其ノ長一尺三寸幅八寸五分厚五寸ヲ限トシ其ノ重量ハ第三種乃至第五種郵便物ニ在リテハ三百克尙見本及難形ニ在リテハ百克ヲ超過スヘカラス

小包郵便物ノ容積ハ其ノ長幅及厚各二尺ヲ限トシ其ノ幅及厚各五寸以内ノモノハ長三尺ヲ限トシ其ノ重量ハ一貫五百克ヲ超過スヘカラス

第四條 郵便物ノ容積及重量ノ制限ヲ超過シ其ノ他成規ニ違反シテ差出シタル郵便物ハ特ニ規定シタル場合ノ外之ヲ差出人ニ還付ス若其ノ郵便料未納又ハ不足ナルトキハ其ノ不納額ノ二倍ヲ徵收ス

第五條 無料郵便物ハ郵便法第二十八條ニ掲ケル區別ニ從ヒ其ノ關係事務ノ名稱ヲ表シテ記載スヘシ

無料郵便物ノ差出人又ハ受取人カ官署若ハ官吏ナルトキハ其ノ官署名若ハ官職氏名私人ナルトキハ其ノ宿所氏名ヲ外部ニ明記スヘシ

前二項ノ規定ニ反スル郵便物ハ右料郵便物トシテ取扱フ

第六條 無料ノ性質ヲ有セサルモノハ無料郵便物トシテ差出シタルトキハ差出人ニ還付シ未納額ノ二倍ヲ徵收ス

無料郵便物ニ無料ノ性質ヲ有セサル音信文ヲ記載シ又ハ有料郵便物ヲ添付シタルモノ亦同シ

第七條 郵便ニ關スル料金ノ未納又ハ不足カ郵便局所ノ過失ニ依リタルトキハ其ノ不納額ハ之ヲ徵收セス

第八條 郵便ニ關スル料金ニシテ左ニ記載シタルモノハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス

一 郵便局所ノ過失ニ因リ徵收シタル郵便料過徵額及誤納額

二 特殊取扱ノ請求アリタル郵便物ニシテ郵便局所ノ過失ニ依リ其ノ取扱ヲ爲サザリシ場合ニ於ケル特殊取扱ノ料金

三 郵便局所ノ過失ニ依リ普通郵便ニ依リテ到達シ得ヘキ時刻ヨリ遅レテ受取人ニ到達シタル別理運取扱ノ料金

四 亡失又ハ失致ニ依リ損害賠償ヲ爲シタル場合ノ書留郵便物、小包郵便物、價格表記郵便物、現金取立郵便物、郵便ニ關スル料金

第九條 前條ノ料金還付ノ請求ハ其料金ヲ納付シタル郵便局所ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期間ハ料金納付ノ日ヨリ六十日トス

第十條 第三種乃至第五種郵便物及小包郵便物ハ其ノ外部ニ左記ノ事項ニ限リ之ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添付スルコトヲ得

一 差出人及受取人ノ宿所氏名

二 差出人及受取人ノ身分、職業、商標等

三 日付及要項、至急、賞酬等ノ慣用語

四 贈呈、納本等ノ慣用語

五 定期刊行物ニ前金切シ又ハ何月何日限リ前金満了等ノ慣用語

六 送達上必要ナル注意ヲ示ス照會

前項郵便物ニハ其ノ内部ニ前項各號ノ外尙左ノ事項ニ限リ之ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添付スルコトヲ得

一 名稱、番號、數量、金額、寸尺、重量

二 定期刊行物、書籍、印刷物、畫、圖、業務用書類ニ正誤、注意、點、線、批評ノ類

三 圖、畫及寫眞ニ說明又ハ著色

四 商品見本及雛形、農産物種子及博物學上ノ標本ニ生産地及種類ヲ確知スル爲メ必要ノ事項

五 農産物種子ニ播種ノ時季及說明

前二項以外ノ事項ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添付シタル郵便物ハ第三種乃至第五種郵便物ノ場合ニ在リテハ第一種郵便物トシテ取扱ヒ小包郵便物ノ場合ニ在リテハ之ヲ差出人ニ還付ス

第十一條 郵便ニ關スル料金納付ノ爲メニ用非タル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表形スヘキ證券ハ郵便局所ニ於テ之ヲ消印ス

第十二條 郵便物ハ其ノ品質、形狀ニ應ジ危險、損害若ハ惡臭ヲ防止スルニ足ルヘキ適當ノ包裝ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條 特種ノ包裝ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二節 通常郵便物

第十四條 書狀トハ全部或ハ總部ヲ筆記シタルト印刷シタルトニ關セズ特定ノ人ニ對スル通信文ニシテ郵便書ニ依ラサルモノヲ云フ

第十五條 郵便書ハ其ノ表面ニ左記ノ事項ニ限リ之ヲ記載スルコトヲ得

一 差出人及受取人ノ宿所氏名、身分、職業及商標等

二 日付及要項、至急、賞酬等ノ慣用語

郵便書ハ原形ノ儘使用シ契約書、委任狀若ハ受領證書ト爲サムカ爲

又收入印紙ヲ裏面ニ貼付スル場合ヲ除クノ外何等ノ物品ト雖添附スルヲ得ス

前二項ノ規定ニ違反シタル郵便書ハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

第十六條 往復書ニ依リ返信ノ際發信ニ使用シタル部分ヲ除去セサルトキハ郵便局所ニ於テ之ヲ除去ス

第十七條 郵便書ノ料額印面ヲ汚損シタルモノハ之ノ同額ノ郵便切手ヲ貼附スルニ依リ郵便書ノ效力ヲ有ス

第十八條 政府ノ發行スル通常書ト同一ノ寸法及紙質ニシテ之ト同一ノ位置ニ郵便書ノ文字ヲ印刷シ且之ノ同額ノ郵便切手ヲ貼附シタル郵便書ハ通常書ト看做ス

私製書ニシテ前項規定ニ違反シタルモノハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

第十九條 第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ノ認可ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二十條 定期刊行物ハ其ノ刊行物初頁上部ニ其ノ名稱、發行期日、回数、運號番號發行年月日及何年何月何日第三種郵便物認可ノ文字、次頁以下ハ上部ニ其ノ名稱又ハ略記號、發行年月日及第三種郵便物認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但シ冊子トシタル刊行物ハ最初及最終ノ頁面ノミニ印刷スルコトヲ得

第二十一條 定期刊行物ハ本紙ノ重量ニ超過セズ本紙ト同性質ノ記事、廣告又ハ書、畫、圖ヲ印刷シ之ニ本紙ノ名稱、番號並ニ發行ノ年月日及附録ノ文字ヲ記入シ且冊子ト爲ササルモノニ限リ附録トシテ之ヲ其本紙ニ添附スルコトヲ得

第二十二條 緊急時事ヲ報道スル爲メ臨時ニ刊行スル定期刊行物ハ號外ハ定期刊行物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

定期刊行物ノ號外ハ本紙ノ名稱、發行年月日、何年何月何日第三種郵便物認可及號外ノ文字ヲ記入スヘシ

第二十三條 定期刊行物ニハ其ノ發行者ニ於テ其ノ記事ニ關スル物品ニシテ本紙ノ重量ヲ超過セザルモノニ限リ之ヲ綴込又ハ貼附スルコトヲ







第五十一條 代金引換郵便物の受領証を亡失シタルトキハ差出人ハ其ノ  
 事由ヲ記載シタル證明書ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得但シ郵便局所ハ  
 相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ要スルヘシ

第五十二條 代金引換郵便物の差出人ハ第七十九條郵便物取扱ノ請求ニ  
 關スル料金ト同額ノ料金ヲ前納シテ代金引換ノ取消ヲ請求スルコトヲ  
 得

第八節 現金取立

第五十三條 代金受領證、株式配當券、公債又ハ社債ノ利券、保險掛金  
 受領證ニシテ持受人ニ支拂ハルヘキモノハ現金取立トシテ其ノ金額ノ  
 取立ヲ郵便局所ニ委託スルコトヲ得

第五十四條 現金取立ハ一口ニ付二通以上ノ證券ヲ委託スルコトヲ得ス  
 但シ同一ノ債權者ニ屬シ同一ノ債權者ヨリ同時ニ取立テ得ヘキモノハ  
 此ノ限ニ在ラス

第五十五條 現金取立ノ委託ヲ爲シムル欲スル者ハ現金取立委託書ト共  
 ニ金額ヲ取立ツヘキ證券ヲ郵便局所ニ差出シ郵便局所ヨリ其ノ受領證  
 ヲ受取ルヘシ

第五十六條 一定ノ期日ニ取立ツヘキ證券ハ債務者所在地ニ送スヘキ日  
 數ヲ除キ該期日ヨリ早クモ十五日遅クモ五日以前ニ之ヲ委託スヘシ

第五十七條 現金取立郵便ニ依リ證券ヲ債務者ニ呈示ノ際其金額ヲ取立  
 ツルコトヲ得サル場合ニ於テ其ノ證券ヲ還付シ望ム者ハ委託書ニ  
 其旨ヲ記入シテ差出スヘシ

第五十八條 現金取立郵便物ノ到着局所ハ債務者ニ委託證券呈示ノ期日  
 ナ豫告シ該期日ニ債務者ノ居所ニ就テ證券引換ニ其ノ金額ノ支拂ヲ求  
 ム若シ債務者其ノ居所ヲ移轉シ移轉先同一郵便區域内ナルトキハ其ノ移  
 轉先ニ就テ同額ノ手帳ヲ爲スヘシ

第五十九條 委託ノ證券呈示ノ際債務者ノ支拂ノ拒絶ニ依リニ在ラスシ  
 ヲ其ノ金額ヲ取立ツルコト能ハサルトキハ郵便局所ハ七日以内ノ期間  
 ニ指定ノ郵便局所ニ出頭シテ該金額ノ支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ記載シタル

告知書ヲ其ノ居所ニ殘置ス但シ第五十七條ニ依リ請求アル場合ハ此ノ  
 限ニ在ラス

第六十條 委託ノ證券呈示ノ際債務者ノ所在不明ナルトキ若ハ其ノ郵便  
 區域外ニ移轉シタルトキ又ハ債務者カ其ノ金額ノ支拂ヲ拒絶シタルト  
 キ又ハ其ノ金額ヲ所定ノ期間内ニ支拂ハサルトキハ郵便局所ハ委託證  
 券受取證ヲ引換ニ委託シ證券ヲ差出人ニ還付ス

第六十一條 取立郵便局所ニ於テ委託證券ノ金額キ其ノ債務者ヨリ取立  
 タルトキハ引受郵便局所ハ差出人ニ其ノ旨ヲ通知ス

第六十二條 差出人前項ノ通知ヲ受ケタルトキ所定ノ期間ニ其ノ通知書及委託證券  
 ノ受領證及取立金送附料ヲ差出シ之ヲ引換ニ取立金ノ交付ヲ受ケルヘシ

第六十三條 委託證券ノ受領證亡失ノ場合ニ於ケル證明書差出方ニ關シ  
 テハ第五十一條ノ規定ヲ準用ス

第九節 約東郵便

第六十四條 普通郵便ニ依リ定期刊行物及印刷物ニ限リ郵便官署ト特約  
 シテ約東郵便ト爲スコトヲ得

第六十五條 約東郵便トシテ差出ス郵便物ハ他ノ特殊取扱ヲ爲スコトヲ得ス  
 約東郵便トシテ差出ス郵便物ハ別ニ定ムル所ニ依リ約東郵便ノ印章  
 ヲ捺捺スヘシ

第六十六條 約東郵便トシテ差出ス郵便物ハ郵便切手ヲ貼用セス一定  
 ノ期間滿了ノ後通貨ヲ以テ其ノ期間内ニ差出シタル郵便物ノ料金ヲ納  
 付スヘシ

第十節 郵便私書函

第六十六條 郵便私書函使用人ハ郵便局所ニ設置シタル郵便私書函ニ依  
 リ何時ニテモ普通郵便ニ依リ料金完納普通郵便物ヲ受取ルコトヲ得

第六十七條 郵便私書函使用人ハ二人以上ノ名義ヲ以テ一箇ハ使用スルコトヲ  
 得ス

第六十八條 郵便私書函ヲ使用セムト欲スル者ハ當該郵便局所ノ許可ヲ  
 受ケ其ノ定ムル所ニ依リ一年分金五十圓以下ノ郵便私書函料ヲ納ムヘ  
 シ

第三章 郵便物の差出

第六十九條 普通郵便ニ依リ通常郵便物ハ郵便局所ニ差入ルヘシ但シ容積  
 大ナルガ爲メ又ハ重量多キガ爲メ郵便局所ニ差入ルコト能ハサルモノ  
 ハ郵便局所ニ差出スヘシ

小包郵便物及特殊ノ取扱ヲ要スル通常郵便物ハ郵便局所ニ差出スヘシ  
 但シ通知ヲ要セサル留置通常郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第七十條 郵便局所内ニ於テ郵便物ヲ引受ケ爲スハ郵便取扱時間中ニ限  
 ル但シ別記郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第七十一條 郵便物ノ重量ハ其ノ郵便物ニ貼用シタル郵便切手ノ重量ヲ  
 モ合算ス

第四章 郵便物の配達

第七十二條 小包郵便料及別記配達料ニ關スル里程ハ郵便官署ノ定ムル所  
 ニ依ル

第七十三條 深山孤島其ノ他僻處ノ地ニシテ交通困難ノ場所ニ居所スル  
 者ニ宛タル郵便物ニシテ通常ノ方法ニ依リ配達シ難キモノハ凡テ郵便  
 局所ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス差出人ニ郵便物ヲ還付ス  
 ル場合亦同シ

第七十四條 二名以上ニ宛タル郵便物ハ其ノ内ノ一名ニ配達ス

第七十五條 郵便局所ニ於テ誤テ郵便物ヲ正當受取人ニ在ラサル者ニ配  
 送シタルトキ其ノ配達ヲ受ケタル者ハ速ニ其ノ事由及居所氏名ヲ記載  
 シタル封筒ヲ爲シ料金ヲ納付スルコトヲ再ヒ郵便ニ差出スガ又ハ郵  
 便局所ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ郵便物ヲ誤テ開封シタルトキハ之ヲ封緘シ又ハ  
 相當ノ手帳ヲ爲シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十六條 郵便局所カ郵便物ヲ配達又ハ還付ヲ受ケタル者ニ就キ其ノ  
 郵便物ノ封皮及封書ノ交付ヲ求め又ハ其ノ郵便物ノ受領ニ關スル状況  
 ヲ探問スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第七十七條 正當ノ事由ナクシテ第七十五條ノ手續ヲ爲サス又ハ第七十  
 六條ノ要求ニ應ゼサル者ハ料料ニ處ス

第五節 郵便物の轉送及還付

第七十八條 普通郵便物ノ轉送及還送ハ別ニ料金ヲ徴收セス

第七十九條 郵便物ノ差出人ハ未ダ配達ナラズモ其ノ郵便物ノ名宛變更又  
 ハ取戻ヲ請求スルコトヲ得但シ之ガ爲メ事務ニ差支アルトキハ拒絶ス  
 ルコトアルヘシ

前項ノ請求ヲ爲シムル所ル者ハ郵便物差出人ナルトキハ金五錢差立後  
 ニシテ郵便ニ依リモハ金八錢電信ニ依リモハ取戻ノ請求ニ係ルト  
 キハ金四錢姓名宛變更ノ請求ニ係ルトキハ金七十錢ヲ前納スヘシ

第八十條 通常郵便物ノ受取人他ノ郵便區域内ニ移轉シ其ノ移轉先分明ナ  
 ルトキハ之ヲ其ノ移轉先ヘ轉送ス

小包郵便物ハ第三十二條又ハ第三十三條ニ依リ差出人又ハ受取人ヨリ  
 其ノ轉送ヲ請求シタルトキニ限リ之ヲ轉送ス

第八十一條 通常郵便物ノ受取人既ニ其ノ居所ヲ移轉セルトキハ其ノ配  
 送先ニ於テ受取人ノ所在地ヲ集配人ニ明示シ該郵便物ヲ轉送ヲ求ムル  
 コトヲ得

其ノ配達ヲ受ケタル後ナルトキハ該郵便物ニ轉送先ヲ記載シタル封筒  
 ナシシ其ノ配達ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ料金ノ納付ヲ要スルコト  
 ナク再ヒ郵便ニ差出スコトヲ得若シ其ノ期限經過後郵便ニ差出シタルト  
 キハ新ニ差出シタルモノト看做ス

通常郵便物受取人ノ移轉先不明ニシテ該郵便物ノ還付ヲ爲ス場合亦前  
 二項ニ準ス

第八十二條 郵便物ノ受取人所在不明ナルトキ又ハ郵便料不納ナルトキ依  
 リ受取人ノ方受取ヲ拒ミタルトキ又ハ留置期間ヲ經過シタルトキハ配  
 送シ能ハサル郵便物トシテ直ニ之ヲ差出人ニ還付ス

小包郵便物ニ關シテハ前項ノ外第三十二條ニ依リ差出人ヨリ豫メ其ノ  
 轉送若ハ取却ノ請求ヲ爲サス又ハ第三十三條ニ依リ受取人ヨリ轉送ノ  
 請求ヲ爲ササル場合ニ於テ配達ヲ遂グル能ハサルトキハ直ニ之ヲ差出  
 人ニ還付ス轉送ノ請求ヲ爲シタル郵便物ニシテ其ノ請求ニ依リテ配達  
 ナラズ能ハサル場合亦同シ

第六節 損害賠償及報酬

第八十三條 郵便物ニ關スル損害ノ賠償ハ其ノ差立郵便局所所在地ヲ管



結スル一等郵便電信局ニ之ヲ請求スヘシ  
 郵便法第四條ニ依ル損害ノ賠償ハ損害ヲ生シメタル郵便運送人及郵  
 便集配人ノ屬スル郵便局所在地ヲ管轄スル一等郵便電信局ニ之ヲ請  
 求スヘシ  
 郵便法第五條ニ依ル報酬ハ助力ヲ求メタル郵便運送人郵便集配人又ハ  
 郵便重員ノ屬スル郵便局所在地ヲ管轄スル一等郵便電信局ニ之ヲ請  
 求スヘシ  
 第八十四條 郵便物ノ配達又ハ還付ノ際郵便物ニ損害アリト申立タルト  
 キハ申立人ヲシテ其ノ事由ヲ證明セシムヘシ郵便局ハ郵便法第三十四  
 條ニ依リ損害ナシト看做ストキハ其ノ事由ヲ記載シタル調書ト共ニ再  
 ヒ該郵便物ヲ申立人ニ交付スヘシ  
 前項郵便物ニシテ損害ナシト看做ス能ハサルトキハ七日ノ期間内ニ申  
 立人ヲ立會ハシメ之ヲ開示シテ損害ノ有無ヲ検査シ損害ナシト認メタ  
 ルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル調書ト共ニ郵便物ヲ申立人ニ交付シ損  
 害アリト認メタルトキハ申立人ニ於テ其ノ郵便物ノ任意受取方ヲ申出  
 ヲル場合ノ外損害調書ヲ作成シ之ヲ損害賠償ノ請求權ヲ有スル者ニ交  
 付ス  
 第八十五條 前條第二項ノ場合ニ於テ申立人立會ヲ爲サ、ルトキ其ノ申  
 立人受取人ナルトキハ郵便物ハ直ニ差出人ニ還付ス申立人差出人ナル  
 場合ニ於テハ郵便法第十四條ニ依リ還付シ能ハサル郵便物トシテ之ヲ  
 取扱フ  
 第八十六條 郵便物ニ關スル損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ其ノ種別、品名、  
 箇數、實價、請求金額其ノ他必要ナル事項及之ヲ請求スル事由ヲ記載  
 シタル請求書ヲ差出スヘシ若シ前二條ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ請求ヲ  
 爲サムトスルトキハ別ニ其ノ調書ヲ添附スヘシ  
 郵便法第四條ニ依リ損害ノ賠償又ハ第五條ニ依リ報酬ヲ請求スル者ハ  
 其ノ請求金額及之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ  
 第八十七條 損害賠償ノ請求ヲ爲シタル一等郵便電信局ニ於テハ  
 其ノ請求ノ當否及金額ヲ審査シ其決定ヲ請求人ニ通知ス  
 第八十八條 損害賠償ノ請求ヲ爲シタル者其ノ請求ヲ取消シタル場合ニ  
 於テ郵便物ノ毀損ニ係ル請求ナルトキハ郵便局所ハ直ニ該郵便物ヲ其

請求人ニ交付ス  
 第八十九條 郵便法第三十三條ニ依ル郵便物損害賠償ノ金額ハ左ノ割合  
 ニ依ル  
 一 書留郵便物トシテキハ一箇ニ付金十圓  
 二 價格表記郵便物トシテキハ表記金額ノ全額、毀損ノトキハ其ノ  
 表記金額ト殘存價格トノ差額但シ表記金額市場價格ニ超過スルトキ  
 ハ市場價格ニ依リ算定ス此ノ場合ニ於ケル市場價格ハ引受郵便局所  
 在地ノ價格ニ依ル  
 三 小包郵便物トシテキハ重量百匁又ハ其ノ端數毎ニ金二  
 十圓  
 四 現金取立郵便ニ依ル證券ノ亡失又ハ失致ノトキハ其ノ實損額  
 附則  
 第九十條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 明治二十五年三月通省令第八號配遞證明郵便規則同二十九年九月通  
 省令第十九號代金引換小包郵便規則及此ノ規則ニ牴觸スル規定ハ之  
 ヲ廢止ス

**●外國郵便規則** (明治三十三年九月通省令第五十五號)  
 第一條 外國へ發送スル郵便書翰ハ政府發行ノ萬國郵便聯合證書、同往  
 復證書ヲ用フヘシ  
 第二條 明治三十三年九月通省令第四十二號郵便規則第十八條ノ規定ヲ  
 準用シテ政府發行ノ萬國郵便聯合證書ニ基キ作成セル私製證書ハ萬國  
 郵便聯合證書ト看做ス  
 第三條 內國郵便用ノ封緘書翰ハ郵便書翰トシテ外國へ發送スルヲ得ス  
 第四條 別配遞業務ヲ執行スル諸外國宛通常若クハ書留郵便物ノ差出人  
 ハ手数料金十二圓ヲ納付シ其別配遞ヲ請求スルコトヲ得  
 第五條 外國ヨリ到着ニ係ル留置郵便物ノ留置期間ハ六十日トス  
 但シ留置期間人若クハ旅行者等ニ宛タル郵便物ニシテ交付ノ見込アルモ  
 ノハ尙三十日以内留置コトアルヘシ

第六條 代金引換書留郵便物ハ特ニ該郵便物ノ交換ヲ約定セル諸外國ト  
 ノ間ニ限リ之ヲ交換スルコトヲ得  
 第七條 代金引換書留郵便物ハ萬國聯合郵便爲替ヲ取扱フ郵便局ニ限リ  
 之ヲ取扱フ爲スヘシ  
 第八條 本邦宛代金引換書留郵便物ニ對シテ取立代金ノ制限ハ金四百圓トス  
 第九條 外國宛代金引換書留郵便物ニ對シテ取立代金ノ制限額、其代金  
 ヲ表示スヘキ貨幣單位ニ外國ニ於ケル該郵便物ノ取扱局ハ別ニ告示スル  
 所ニ據ル  
 第九條 外國宛代金引換書留郵便物ノ差出人ハ郵便物差出人ノ後ハ代金引  
 換ノ請求ヲ取消スルコトヲ得  
 第十條 外國ヨリ到着ニ係ル代金引換書留郵便物ニ付テハ郵便規則第四  
 十九條第一項ノ規定ヲ準用ス  
 第十一條 到著郵便局ハ前項ニ依リ取立タル代金ヨリ取立手数料金四圓及取立代  
 金ニ對スル成規ノ爲替料ヲ控除シタル後殘餘ノ金額ヲ郵便爲替ニ依リ  
 差出人ニ送付スルコトヲ得  
 第十二條 外國ヨリ到着ニ係ル代金引換書留郵便物ニシテ名宛人他國へ  
 移轉シタルトキ若シ成規ノ條件ニ適合セザルトキハ差出人國へ返送スル  
 コトヲ得  
 第十三條 外國宛代金引換書留郵便物ノ取立代金ニ對スル爲替ニシテ其  
 ノ有效期間内ニ該郵便物ノ差出人ニ拂渡シ能ハサルトキハ郵便爲替法  
 第十三條若シ第八十八條ノ規定ニ準シ處分スルコトヲ得  
 第十四條 郵便私書函使用人ハ外國ヨリ到着ノ料金完納通常郵便物ヲモ  
 其私書函ニ依リ受取ルコトヲ得  
 第十五條 外國ヨリ到着ニ係ル郵便物ニ付テハ郵便規則第八十一條ノ規  
 定ヲ準用ス  
 第十六條 但シ同條第二項ノ期間ハ三十日トシ同期間ヲ經過シタル後郵便ニ差出  
 シタルモノニ付テハ差出人ニ配達ヲ受ケタル者ヲシテ其轉送ニ要スル料金  
 ヲ納付セシム  
 第十七條 外國ヨリ到着ニ係ル郵便物ノ名宛人一時其居所ヲ移轉シタル  
 トキハ別ニ料金ヲ納付スルコトナク其移轉先ニ該郵便物ノ轉送ヲ請求

スルコトヲ得  
 第十六條 外國ヨリ到着ニ係ル郵便物ニシテ何等ノ理由ヲ問ハズ名宛人  
 ニ交付シ能ハサルモノハ外國へ返送スルニ先テ適宜ノ期間之ヲ公示ス  
 但シ名宛人ニ交付ノ見込ナキト明瞭ナルモノハ此ノ限ニアラス  
 第十七條 郵便物ノ取戻及名宛變更ヲ許可スル諸外國宛郵便物ニ付テハ  
 郵便規則第七十九條第一項ノ規定ヲ準用ス  
 第十八條 外國へ差立前ニ係ルモノニ付テハ郵便規則第七十九條第二項ノ規  
 定ヲ準用ス其ノ外國へ差立後ニ係ルモノニ付テハ請求者ニ於テ郵便電  
 信ノ別ニ從ヒ別ニ告示スル所ノ名宛國郵便官署ニ宛發送スルニ要スル  
 書留書翰一通分若クハ私用電報ノ料金を支拂フヘシ  
 第十九條 外國通常郵便物ノ踪跡不明ニ歸シタルトキハ外國宛ノモノニ  
 付テハ其ノ差出人ヨリ引受郵便局へ又外國ヨリ到着ニ係ルモノハ其名  
 宛人ヨリ到着郵便局へ踪跡不明ノ旨ヲ證明スヘキ書類ヲ具シ別ニ料金  
 ヲ納付スルコトナク其取調ヲ請求スルコトヲ得  
 第二十條 到達書ヲ請求セザル書留郵便物ノ差出人ハ郵便物一箇ニ付手  
 數料金五圓ヲ納付シ該郵便物踪跡ノ取調若ハ其到達證ノ交付ヲ引受郵  
 便局へ請求スルコトヲ得  
 第二十一條 外國宛書留郵便物トシテキハ不可抗力ニ依ル場合ヲ除ク  
 ノ外其ノ差出人へ若シ差出人ノ依頼アルトキハ其名宛人へ郵便一ヶニ  
 付五十「フランク」ノ賠償金を支拂フコトヲ得  
 第二十二條 賠償ノ責任ニ任セザル諸外國宛書留郵便物ニ付テハ此限ニアラス  
 第二十三條 前條規定ノ賠償ハ書留郵便物ノ差出人ヨリ引受郵便局ニ請  
 求スヘシ其ノ請求ハ逕信省ニ於テ審査決定ス  
 第二十四條 郵便規則第一條、第七條乃至第九條、第十一條、第十二條、  
 第十六條、第十七條、第十八條、第三十九條、第六十九條乃至第七十一  
 條、第七十三條乃至第七十八條、第八十條第一項、第八十三條第二項及  
 第三項、第八十六條第二項及第八十七條ノ規定ハ外國郵便物ニモ之ヲ  
 準用ス  
 附則  
 第二十三條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス



明治三十三年六月通信令第二十九號代金引換外國書留郵便規則並此ノ規則ニ抵觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

郵便爲替法 (明治三十三年三月) 法律第五十五號

- 第一條 郵便爲替ハ通常爲替電信爲替及小爲替ノ三種トス
第二條 通常爲替證書及小爲替證書ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外
第三條 郵便爲替ハ差出人ノ請求ニ因リ通常爲替證書及電信爲替證書ニ
第四條 郵便爲替ニ關シ無能力者ノ郵便爲替ニ對シテ爲シタル行爲ハ能
第五條 郵便爲替ハ受取人ノ眞偽ヲ調査スル爲受取人ヲシテ必要ナル證
第六條 郵便爲替ニ關スル書類ニ付テハ印紙稅ヲ課セズ
第七條 郵便爲替金額ノ制限及郵便爲替ニ關スル料金ハ命令ヲ定ムル所
第八條 郵便爲替ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便
第九條 郵便爲替ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ
第十條 郵便爲替證書ノ有效期間ハ其ノ發行ノ日ヨリ通常爲替及電信爲
第十一條 郵便爲替ニ於テ郵便爲替金ノ拂渡ヲ遲延シタル爲經過シタル
第十二條 郵便爲替證書ノ有效期間ヲ經過シタルトキ又ハ郵便爲替證書
第十三條 郵便爲替證書ハ汚損シタルトキハ命令ヲ定ムル所ニ依リ差出人又ハ受

郵便爲替規則 (明治三十三年九月) 通信令第四十五號

- 第一章 總則
第一條 郵便爲替ハ郵便局所ニ於テ之ヲ取扱フ但シ特ニ之ヲ取扱ハサル
第二條 郵便爲替時管理所ハ特ニ指定シタル郵便爲替ニ限リ之ヲ取扱フ
第三章 通常爲替
第一節 振出
第十二條 通常爲替ノ差出人ハ郵便局所ニ於テ通常爲替振出請求書用紙
第十三條 通常爲替振出請求書ニハ差出人及受取人ノ商標、商號又ハ其ノ他
第十四條 通常爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際振出ノ際振出ノ際振出ノ際
第十五條 通常爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際振出ノ際振出ノ際振出ノ際

通常爲替及小爲替ノ金額ハ厘位未満電信爲替ノ金額ハ圓位未満ノ端數ヲ付スルコトヲ得ス

Table with columns for '通常爲替' (Normal Exchange) and '電信爲替' (Telegraphic Exchange) and rows for '金額' (Amount) and '期限' (Term). Values include 三十圓, 四十圓, 五十圓, 六十圓, 七十圓, 八十圓, 九十圓, 一百圓, 五十圓, 六十圓, 七十圓, 八十圓, 九十圓, 一百圓.

- 第三條 郵便爲替證書一枚ノ爲替料ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如ク
第四條 郵便爲替ノ差出人及受取人ハ各一名ニ限ル
第五條 郵便爲替證書ハ任意ニ讓渡スルコトヲ得ス但シ小爲替證書ニシ
第六條 代人ヲ以テ本規則ニ規定スル各種ノ請求ヲ爲サントスルトキハ
第七條 法人又ハ法人ニアラサル團體ヨリ本規則ニ規定スル各種ノ請求
第八條 印章ヲ所有セザル爲メ本規則ニ規定スル各種ノ請求書證書等ニ
第九條 郵便爲替ノ差出人郵便爲替金ノ受領證書ヲ提出又ハ呈示ヲ要ス
第十條 千島國琉球國小笠原島伊豆諸島及臺灣ニ設置シタル郵便局所ト

- 取組ミタル郵便爲替證書ノ有效期間ハ百二十日トス但シ同一國內又ハ
同一島ニ取組ミタル郵便局所ト取組ミタル通常爲替證書及電信爲替證
書ニ對シテ毎年十二月一日ヨリ翌年四月三十日マテハ其ノ有效期間ニ
算入セズ
第十一條 郵便爲替ニ關シ當該事務員ノ過失ニ因リ左ノ事故ヲ生シタル
トキハ差出人又ハ受取人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ其ノ既納ノ料金
ヲ還付ス
一 電信爲替證書ノ送達ヲ通常爲替證書ノ到達ニヘキ期限ニ後レシメ
二 郵便爲替ノ拂戻下サリタルトキ
三 郵便爲替ノ特殊取扱ニ關シ料金ノ納付ヲ要シタル手續ヲ脱漏シタ
ルトキ
前項ノ請求ハ郵便爲替證書ノ有效期間満了後三ヶ月以内ニ料金ヲ納付シ
タル郵便局所ニ之ヲ爲スヘシ
第二章 通常爲替
第一節 振出
第十二條 通常爲替ノ差出人ハ郵便局所ニ於テ通常爲替振出請求書用紙
ノ交付ヲ受テ相當事項ヲ記入シ之ニ爲替金及爲替料ヲ添ヘ郵便局所ニ
差出し通常爲替證書及通常爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ
前項通常爲替振出請求書ニハ差出人及受取人ノ商標、商號又ハ其ノ他
ノ符號ヲ附記スルコトヲ得
第十三條 振出郵便局所ハ郵便ニ依リ前條通常爲替振出請求書ヲ拂渡郵
便局所ニ送付ス
第十四條 通常爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際振出ノ際振出ノ際振出ノ際
爲替金拂渡擔保ヲ請求ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通常爲替振出
請求書ニ捺捺スヘキ日數ヲ記載スヘシ
第十五條 通常爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際通常爲替證書ヲ送達ヲ請求
スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其料金トシテ通常爲替證書一枚毎ニ金
五錢ヲ納付スヘシ
前項ノ請求ヲ爲シタル差出人ハ通常爲替振出請求書餘白ニ爲替金送付



ノ目的ヲ記載シ自己ノ宿所氏名ト共ニ受取人ニ之レカ通知ヲ請求スル  
 ヲトテ得前項爲替金送付ノ目的ハ通常爲替證書送達ノ際其ノ餘白ニ記  
 入スルモノトス

第十六條 通常爲替ノ受取人所在不明等ノ爲メ前條ノ通常爲替證書ヲ送  
 達スルコト能ハサルトキハ之ヲ差出人ニ返附ス

第十七條 通常爲替ノ差出人爲替提出後通常爲替提出請求書ニ自己又ハ  
 受取人ノ宿所氏名等ヲ誤記シタルコトヲ覺知シタルトキハ振出郵便局  
 所ニ訂正請求書ヲ差出シ郵便又ハ電信ニ依リ振出郵便局所ニ訂正事項  
 ノ通知ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通常爲替金受領證書ヲ呈  
 示スヘシ

前項ノ場合ニ於テ差出人ハ其ノ料金トシテ郵便ニ依ルモノハ金三錢電  
 信ニ依ルモノハ該電報料金ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第十八條 振出郵便局所ニ於テ前條ノ請求ニ應ジタル場合ト雖振出郵便  
 局所ニ於テ既ニ爲替金ヲ拂渡シタル後ナルトキハ其ノ旨ヲ差出人ニ通  
 知ス

第二節 拂渡

第十九條 通常爲替ノ受取人爲替金ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ通常  
 爲替證書ニ記名調印シテ之ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

第二十條 拂渡郵便局所ノ受取人ニ左ノ事項ヲ尋問シ通常爲替提出請求  
 書ニ記載シタル事項ニ符合スルヲ認メ爲替金ノ拂渡ヲ爲スモノトス但  
 シ第十五條第二項ノ請求アルモノニ對シテハ本條第一號ノ尋問ヲ省略  
 スルコトアルヘシ

一 差出人ノ宿所氏名  
 二 受取人ノ宿所氏名  
 三 前各號ノ外拂渡上必要ト認ムル事項

第二十一條 通常爲替證書ニシテ左ノ事項列明ナラサルモノハ毀損汚染  
 シタルモノトス

一 爲替金額  
 二 爲替證書ノ記號番號  
 三 爲替證書ヲ發行シタル郵便局所主務者ノ記名調印

第二十二條 左ノ場合ニ於テハ爲替金ノ拂渡ヲ停止ス

一 通常爲替證書遺失ノトキ  
 二 通常爲替提出請求書遺失ノトキ  
 三 通常爲替提出請求書未達ノトキ  
 四 通常爲替證書ト通常爲替提出請求書ト金額符合セザルトキ  
 五 拂渡資金缺乏ノトキ

第二十三條 拂渡郵便局所ニ於テ爲替金ノ拂渡ヲ停止スルトキハ通常爲  
 替證書ノ裏面ニ其ノ事由及日數ヲ記載印シテ之ヲ受取人ニ返付ス

第二十四條 第二十二條ニ依リ爲替金ノ拂渡ヲ停止シタル場合ト雖其  
 停止期間内ニ事故列明スルカ又ハ資金充實シ拂渡ニ差支ナキニ至リタ  
 ルトキハ直ニ之ヲ受取人ニ通知ス

第二十五條 通常爲替ノ受取人ハ通常爲替證書ト通常爲替提出請求書ト  
 金額符合セザル場合ニ於テ其ノ少ナキ金額ヲ限度トシ爲替金ノ假拂渡  
 ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條 通常爲替ノ受取人通常爲替證書ノ金額ニ符合セザル爲替金  
 ヲ受取ルトキハ通常爲替證書裏面ニ其ノ金額ヲ記載シ記名調印スヘシ

第二十七條 通常爲替ノ差出人爲替金ノ拂渡停止ヲ請求セムトスルトキ  
 ハ其ノ請求書ヲ郵便局所ニ差出シ且通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘ  
 シ

前項ノ請求ヲ受ケタル郵便局所ニ於テ拂渡郵便局所ニ通知ヲ要スル場  
 合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便ニ依ルモノハ金三錢電信ニ依ルモノハ  
 該電報料金ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第二十八條 郵便局所ニ於テ前條ノ請求ニ應ジタル場合ト雖振出郵便局  
 所ニ於テ既ニ爲替金ヲ拂渡シタル後ナルトキハ其ノ旨ヲ差出人ニ通知  
 ス

第二十九條 第二十七條ノ規定ハ通常爲替ノ差出人爲替金拂渡停止ノ解  
 除ヲ請求セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 通常爲替ノ差出人爲替金ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ通常  
 爲替證書ニ記名調印シ通常爲替金受領證書ト共ニ振出郵便局所ニ差出  
 ス

スヘシ

差出人通常爲替證書ノ有効期間ヲ經過シタル場合ニ於テ爲替金ノ拂渡  
 ヲ請求セムトスルトキハ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十一條 通常爲替ノ差出人通常爲替證書ヲ失毀損若ハ汚損シタル  
 場合ニ於テ爲替金ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ郵便  
 爲替金拂渡請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ振出郵便局所ニ  
 差出シ且通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

振出郵便局所ハ拂渡郵便局所ニ於テ其ノ爲替金ノ拂渡ヲキコトヲ確認  
 シタル後前項ノ郵便爲替金拂渡請求書ニ拂渡認可ノ旨ヲ記載シ之ヲ差  
 出人ニ返付ス

差出人ハ前項ノ郵便爲替金拂渡請求書中爲替金受領證書ノ部ニ記名調  
 印シ通常爲替金受領證書ト共ニ之ヲ差出スヘシ

第三十二條 第三十條第二項及第三十一條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシ  
 テ通常爲替一口ニ付金六錢ヲ納付スヘシ

第三十三條 本章第二節ノ規定ハ通常爲替金拂渡ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四節 拂渡若ハ振出郵便局所ノ變更

第三十四條 通常爲替ノ差出人又ハ受取人ハ振出郵便局所ノ變更ヲ請求  
 スルコトヲ得

差出人ハ振出郵便局所ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

第三十五條 通常爲替ノ差出人振出郵便局所又ハ振出郵便局所ノ變更ヲ  
 請求セムトスルトキハ振出及拂渡郵便局所名、爲替證書記號番號、爲  
 替金額及拂渡又ハ振出受ケムトスル郵便局所名ヲ記載シタル變更請  
 求書ヲ郵便局所ニ差出シ且通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

第三十六條 通常爲替ノ受取人振出郵便局所ノ變更ヲ請求セムトスルト  
 キハ振出及拂渡郵便局所名、爲替證書記號番號、爲替金額及拂渡ヲ受  
 ケムトスル郵便局所名ヲ記載シタル變更請求書ヲ郵便局所ニ差出シ且  
 通常爲替證書ヲ呈示スヘシ

第三十七條 前二條ノ場合ニ於テハ其料金トシテ通常爲替一口ニ付金六  
 錢ヲ納付スヘシ

第三十八條 郵便局所ニ於テ拂渡又ハ振出郵便局所ノ變更ヲ認可スルト

キ又ハ既ニ爲替金ノ拂渡若ハ振出後ナルトキハ其ノ旨ヲ請  
 求者ニ通知ス

第三章 電信爲替

第三十九條 電信爲替ノ差出人ハ郵便局所ニ於テ電信爲替提出請求書用  
 紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ差出人及受取人ノ宿所氏名ニ片假名  
 文字ヲ附記シ之ニ爲替金及爲替料ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ電信爲替金  
 受領證書ヲ受取ルヘシ

第四十條 電信爲替ハ振出郵便局所ニ於テ電信ニ依リ爲替金額、受取人  
 ノ宿所氏名及差出人ノ氏名ヲ郵便局所ニ通報ス但シ電信ヲ取扱ハ  
 サル郵便局所ニ在リテハ該通報ハ郵便接續ノ方法ニ依ル

前項ノ郵便ハ差出人ニ於テ至急電報ノ取扱又ハ郵便接續ノ場合ニ於テ  
 別配達ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別シ其ノ料金トシ  
 テ至急電報ノ取扱ニ對シテハ金四十錢別配達ノ取扱ニ對シテハ郵便別  
 配達料ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第四十一條 拂渡郵便局所ニ於テ前條ノ爲替電報ヲ受ケタルトキハ之  
 依リ電信爲替證書ヲ作リ之ヲ受取人ニ送達ス

差出人ハ爲替提出ノ際電信爲替證書ノ別配達ヲ請求スルコトヲ得此ノ  
 場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便別配達料ニ相當スル金額ヲ納付スヘ  
 シ

第四十二條 第二章ノ規定ハ第十二條乃至第十五條ヲ除ク外之ヲ電信爲  
 替ニ準用ス

第四章 小爲替

第四十三條 小爲替ノ差出人ハ爲替金及爲替料ヲ郵便局所ニ差出シ小爲  
 替證書及小爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ

第四十四條 小爲替ノ差出人ハ小爲替證書相當欄ニ拂渡郵便局所名及受  
 取人ノ宿所氏名ヲ記入スヘシ但シ小爲替證書持參人ヲシテ爲替金ノ拂  
 渡ヲ受ケシメムトスルトキ又ハ隨意ノ郵便局所ニ於テ其ノ拂渡ヲ受ケ  
 シメムトスルトキハ受取人宿所氏名又ハ郵便局所名ノ記入ヲ省略  
 スルコトヲ得

第四十五條 小爲替ノ差出人振出郵便局所又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變更



シ若ハ其ノ指定ヲ取消サムトスルトキハ小爲替證書及小爲替金受領證書ヲ郵便局所ニ呈示シ其ノ認可ノ證明ヲ受クヘシ

第四十六條 小爲替ノ受取人爲替金ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ小爲替證書ニ宿所氏名ヲ記載シ調印ノ上之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第四十七條 小爲替證書ニシテ左ノ事項列明ナラサルモノハ毀損汚損シタルモノトス

- 一 爲替金額
- 二 爲替證書ノ記號番號
- 三 受取人及拂渡郵便局所ノ指定欄
- 四 爲替證書ノ日附

第四十八條 小爲替證書亡失ノ場合ニ於テハ其ノ發行ノ日ヨリ百五十日ヲ経過シタル後ニ非サレバ爲替金ノ拂戻ヲ爲サス但シ相當保證人ヲ立テ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條 第三十二條乃至第三十四條第二十六條第三十條第二項及第三十一條ノ規定ハ之ヲ小爲替金ノ拂渡及拂戻ニ又第三十四條第三十五條及第三十八條ノ規定ハ之ヲ小爲替金拂渡郵便局所ノ變更ニ之ヲ適用ス但シ第三十條第二項ノ場合ニ於テハ尙差出人ノ宿所ヲ記入スヘシ又第三十條第二項第三十一條及第三十五條ノ場合ニ於テハ其ノ料金をシテ小爲替一口ニ付金三錢ヲ納付スヘシ

第五章 再度證書

第五十條 郵便爲替ノ差出人又ハ受取人郵便爲替證書ヲ添付差出スヘシ再度證書ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ再度證書請求書用紙ノ交付ヲ受ク相當事項ヲ記入シ之ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證書ヲ受取ルヘシ

前項ノ請求書ニハ有効期間經過ノ郵便爲替證書ヲ添付差出スヘシ

第五十一條 郵便爲替ノ差出人郵便爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚損シタル爲再度證書ヲ請求セムトスルトキハ郵便爲替金受領證書ヲ差出シ前條第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

郵便爲替ノ受取人前項ノ請求書ヲ爲サムトスルトキハ相當保證人ヲ立テ前條第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十二條 前二條ノ場合ニ於テハ其ノ料金をシテ郵便爲替一口ニ付通常爲替又ハ電信爲替ハ金六錢小爲替ハ金三錢ヲ納付スヘシ

第五十三條 再度證書ノ請求書再度證書發行ノ通知ヲ受ケタルトキハ再度證書請求書ノ受領證書ヲ其ノ指定シタル郵便局所ニ差出シ再度證書ノ交付ヲ受クヘシ

第五十四條 小爲替證書ノ亡失ニ因リ再度證書ノ請求ニ對シテハ其ノ發行ノ日ヨリ百五十日ヲ経過シタル後ニ非サレバ再度證書ヲ發行セス但シ相當保證人ヲ立テ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六章 郵便爲替金拂渡通知

第五十五條 郵便爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際郵便又ハ電信ニ依リ郵便爲替金拂渡通知ヲ請求スルコトヲ得

第五十六條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ料金をシテ郵便爲替一口ニ付郵便ニ依ルモノハ金三錢電信ニ依ルモノハ該電報料金を相當ナル金額ヲ納付スヘシ

第五十七條 郵便爲替金拂渡通知ノ請求アル郵便爲替證書ニハ振出郵便局所ニ於テ相當證明ヲ押捺シ且小爲替ナルトキハ證書餘白ニ差出人ノ宿所氏名ヲ記入ス

第五十八條 郵便爲替ノ受取人郵便ニ依リ拂渡通知ヲ要スル爲替金ヲ受取ルトキハ郵便爲替金拂渡通知書ニ記名調印スヘシ

第五十九條 郵便爲替局所ニ於テ拂渡通知ヲ要スル郵便爲替金拂渡シタルトキハ郵便ニ依ルモノハ前條ノ通知書ヲ差出人ニ送付シ電信ニ依ルモノハ電報ニ依リ振出郵便局所ヲ經テ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

第七章 郵便爲替金居宅拂

第六十條 郵便爲替ノ差出人又ハ受取人ハ爲替金ノ居宅拂ヲ請求スルトキ得但シ差出人ハ爲替振出後ニ於テ又ハ小爲替受取人ノ爲ニ本條ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第六十一條 前條ノ場合ニ於テハ其料金をシテ郵便爲替一口ニ付通常爲替又ハ電信爲替ハ金四錢小爲替ハ金二錢ヲ納付スヘシ

電信

●電信法 (明治三十三年三月 法律第五十九號)

第一條 電信及電話ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 左ニ掲グル電信又ハ電話ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ私設スルコトヲ得

- 一 一邸宅内若ハ一構内ニ於テ専用ニ供スル爲施設スルモノ
- 二 鐵道業其ノ他電信電話ノ専用ニ必要トスル事業ノ爲施設スルモノ
- 三 公共團體ノ事務執行ノ爲一市區町村内若ハ隣接市區町村間ニ於テ公署相互間又ハ一市區内ニ於テ公署ト第一ニ次監督官廳トノ間ニ施設スルモノ
- 四 電報送受ノ目的ヲ以テ一人ノ專用ニ供スル爲電信官署トノ間ニ施設スルモノ
- 五 一市區町村内若ハ隣接市區町村間ニ於テ又ハ電信電話ノ連絡ヲ爲且第四號ニ依リテ不適當トスル市區町村間ニ於テ一人又ハ一營業ノ専用ニ供スル爲施設スルモノ
- 六 第三條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ヲ公衆通信又ハ軍用上必要ナル通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ吏員ヲ派遣シテ其ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條 主務大臣ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ電信又ハ電話ニ依リ通信ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第五條 電信又ハ電話ニ依リ通信ニシテ公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ擾亂スルモノト認ムルトキハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ於テ之ヲ停止スルコトヲ得

第六條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用車馬等ハ道路ニ障礙アリテ通行シ難キ場合ニ於テ牆壁又ハ欄柵ヲ宅地田畑其ノ他

第六十二條 郵便爲替振出ノ際爲替金居宅拂ヲ請求シタル郵便爲替證書ニハ郵便局所ニ於テ相當證明ヲ押捺ス

第六十三條 郵便爲替ノ受取人爲替金ノ居宅拂ヲ請求セムトスルトキハ其ノ宿所氏名、郵便爲替種類、證書記號番號及爲替金額ヲ記載シタル居宅拂請求書ヲ作リ之ニ料金を相當ノ郵便切手ヲ貼付シ郵便局所ニ差出スヘシ

前項請求書ハ無料郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該請求書封入ノ郵便物封皮ニ爲替事務ト明記スヘシ

第六十四條 郵便爲替金居宅拂ハ差出人ノ請求ニ係ルトキハ其ノ拂渡郵便局所ニ通常爲替振出請求書又ハ爲替電報ノ到着シタル日ヨリ又受取人ノ請求ニ係ルトキハ居宅拂請求書受付ノ日ヨリ起リ三日以内ニ之ヲ爲ス但第二十二條ノ事故アリテ本條ノ期間内ニ拂渡ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ受取人ニ通知ス

第六十五條 郵便爲替ノ受取人不在其ノ他ノ事故ニ依リ居宅拂ヲ了スルコト能ハサルトキハ第二回拂渡月日ヲ豫告シ更ニ其ノ豫告日ニ於テ第二回ノ居宅拂ヲ爲ス

第六十六條 郵便爲替ノ受取人郵便局所ノ郵便爲替金居宅拂取扱區域外ニ轉居シタルトキ郵便爲替證書ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ第二回居宅拂ノ場合ニ於テ前條ノ事故ニ依リ爲替金ノ拂渡ヲ了スルコト能ハサルトキハ爲替金居宅拂ヲ請求ハ其ノ效力ヲ失フ

第六十七條 郵便爲替ノ受取人ハ自己又ハ差出人ニ於テ爲替金ノ居宅拂ヲ請求シタルトキ郵便局所ニ就キ爲替金ノ拂渡ヲ受クルコトヲ妨ケス

第六十八條 本章ノ規定ハ郵便爲替金拂戻ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

第六十九條 本規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治十八年九月農商務省告示第二十號郵便爲替細則二十年六月逓信省告示第七十七號郵便小爲替規定同三十二年十一月逓信省令第五十一號郵便爲替金居宅拂規則ハ之ヲ廢止ス



第十七類 通信 電信

千二百三十一

ノ場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ被害者ノ請求ニ因  
リ其損害ノ賠償ヲ爲スヘシ

第七條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等事故  
ニ遭遇シタル場合ニ於テ電信又ハ電話ノ工夫配達人若ハ重責ヨリ助力  
ヲ求メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス此場合ニ  
於テハ政府ハ助力者ノ請求ニ依リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ

第八條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等ニ對  
シテハ渡津、運河、道路、橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スル  
コトヲ得ス

前項ノ工夫及配達人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得

第九條 政府ハ電信又ハ電話ノ用ニ供スル爲鐵道用地及停車場建築物ノ一  
部ヲ使用シ必要アルトキハ建築物ノ建築又ハ改築ヲ命スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ土地建築物ノ使用料及建築改築ノ費用ハ請求ニ因リ政  
府之ヲ支給ス

第十條 政府ハ鐵道用地内ニ電信線又ハ電話線ヲ施設シタルトキハ使用  
料ヲ支給セズ

第十一條 電信若ハ電話專用ノ物件又ハ現ニ其ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ  
差押フルコトヲ得ス

前項專用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受ケルコトナシ

第十二條 電信又ハ電話取扱ニ關シ電信官署又ハ電話官署ニ對シテ無能  
力者ノ爲シタル行為ハ能力者ノ爲シタルモノトシテ責ス

第十三條 電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ宛所ニ配達ス  
第十四條 電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限リ發行人ノ請求ニ因リ其ノ  
送達ヲ停止スルコトヲ得

第十五條 宛所ニ配達セズ又ハ受信人ニ交付シ得サル電報ハ之ヲ公示スル  
ノ公示ノ日ヨリ三十日間ニ交付ノ請求ヲキキキキ之ヲ棄却ス

第十六條 電信官署ニ於テ必要ナル配達ノトキハ發行人ニ對シ其ノ電報ニ  
用非タル配達機關ノ說明ヲ求ムルコトヲ得發行人若シ其ノ說明ヲ拒ミ  
タルトキハ其ノ電報ノ取扱ヲ拒絶ス

第十七條 電信又ハ電話ニ關スル料金及電信又ハ電話ニ依ル通信ノ取扱

ニ必要ナル制限ハ命令ヲ定ムル所ニ依ル

第十八條 電信又ハ電話ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル  
場合ヲ除クノ外之ヲ還付セズ

第十九條 發行人ニ於テ前納スヘキ電信ニ關スル料金不足アルトキハ  
發行人ヨリ其ノ不足額ノ二倍ノ料金ヲ徵收ス

第二十條 電信又ハ電話ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨ  
リ六个月内ニ納付ノ告知ヲ受ケタルニ因リテ消滅ス

第二十一條 電信又ハ電話ニ關スル料金ノ不納金額ハ電信官署又ハ電話  
官署ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リテ之ヲ徵收ス

前項ノ不納金額ニ付電信官署又ハ電話官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有  
ス

第二十二條 電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ電信、電話及郵便、郵便爲  
替、郵便貯金ノ事務又ハ氣象報告ニ關スルモノハ命令ヲ定ムル所ニ依  
リ無料ト爲スコトヲ得

第二十三條 電信又ハ電話ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク  
ノ外郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第二十四條 電信又ハ電話ノ取扱ニ關シテハ政府ハ損害賠償ノ責ニ任  
セ

第二十五條 本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シ  
タル電信官署又ハ電話官署ニ對シ其事實アリタル日ヨリ三個月間之ヲ  
行ハサルニ因リテ消滅ス

第二十六條 電信官署若ハ電話官署ノ賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ  
不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三個月以内ニ民事訴訟ヲ提起  
スルコトヲ得

第二十七條 權利ナクシテ電信若ハ電話ヲ私設シタル者又ハ權利ヲ失ヒ  
タル後主務官署ノ指定シタル期間内ニ私設ノ電信若ハ電話ヲ撤去セザ  
ル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ電信線又ハ電話線及電信又  
ハ電話ノ機器ヲ沒收ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ電信又ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ  
取得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額

又ハ代價ヲ追徴ス

第一項ノ電信又ハ電話ヲ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第三條第一項ニ依ル場合ヲ除クノ外私設ノ電信若ハ電話ヲ  
他人ノ用ニ供シタル者又ハ其ノ私設者ニアラスシテ之ヲ使用シタル者  
ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ金錢物品ヲ取得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又  
ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

第二十九條 第三條第一項ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ電信若ハ電  
話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第九條第一項ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ用  
地、建築物ノ使用ヲ拒ミ若ハ建築物ノ建築改築ヲ爲ササル者ハ五圓以上五  
百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第六條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第七條ノ場合ニ於テ正當  
ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第八條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若  
ハ正當ノ理由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミタル者ハ料料ニ處ス

第三十一條 電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル通信ノ秘密ヲ侵シタ  
ル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一  
等ヲ加フ

本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十二條 不正ノ手段ヲ以テ電信又ハ電話ニ關スル料金ヲ免レ又ハ免  
レムトシタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一  
等ヲ加フ

第三十三條 自己若ハ他人ノ利益ヲ與ヘ又ハ他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ  
以テ虛偽ノ電報ヲ發シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十  
圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ場合ニ於テ電信爲替ニ要スヘキ電報ニ係ルトキハ輕懲役ニ處  
ス

電信事務ニ從事スル者前二項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ二等ヲ加フ

第三十四條 電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者電信官署又ハ電話官署ノ

取扱中ニ係ル電信又ハ電話ノ用紙ニ貼用シタル郵便切手ヲ剥脱シタル  
トキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ未タ消印チナササルモノ  
ニ關シテハ刑法竊盜ノ罪ニ照シテ處断ス

第三十五條 電信官署ノ取扱中ニ係ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、  
毀損、隱匿若ハ放棄シタル者又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シ若ハ情ヲ  
知りテ之ヲ受取リタル者又ハ其傳送配達ヲ妨害シタル者ハ一月以上二  
年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

電信事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十六條 電信若ハ電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ通  
信ノ取扱ヲ拒絶シ又ハ其ノ傳送ヲ遲延セシメタルトキハ四圓以上四十  
圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 電信線又ハ電話線其ノ他電信又ハ電話ノ機器建築物ヲ毀損  
シ若ハ通信ヲ障礙シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓  
以下ノ罰金ヲ附加ス

過失ニ因リ通信ヲ障礙シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 電信線若ハ電話線ノ建築修理又ハ線路ノ巡視測量ヲ妨害シ  
タル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十九條 電信、電話ノ線路若ハ其ノ支持物ニ物品ヲ懸ケ若ハ露子又  
ハ之ニ動物若ハ舟筏ヲ繫キ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ料料ニ處ス

電信又ハ電話線路ノ測量標ヲ毀棄汚穢シタル者亦同シ

第四十條 主務官署ノ指定シタル水底電信線路若ハ水底電話線路ノ區域  
内ニ於テ船舶ヲ繫留シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ若ハ土砂ヲ掘鑿シ又ハ水底  
電信線若ハ水底電話線ノ號標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其ノ號標ヲ毀棄シタル  
者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

水底電信線若ハ水底電話線ノ布設者ハ修理ノ爲其ノ位置ヲ示スヘキ浮  
標又ハ其ノ布設者ハ修理ニ從事スル船舶ヨリ主務官署ノ指定シタル距  
離以内ニ於テ前項ノ所爲ヲ爲シ若ハ航行シタル者亦同シ

第四十一條 第三十二條ヲ除クノ外前條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サルト  
シテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處断ス

第四十二條 法人ノ業務ニ關シ其ノ代表者又ハ雇人其他ノ從業者前數條

第十七類 通信 電信

千二百三十一



ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス但シ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキ場合ニ於テハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス  
 法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ納完セザルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢察官ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス  
 前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス  
 第四十三條 公衆通信又ハ第三條第一項ニ依リ現ニ軍事通信ノ用ニ供スル私設ノ電信又ハ電話ニ關シテハ第九條第一項ノ外本法中政府ノ施設令ニ依リ電信又ハ電話ニ關スル規定ヲ適用ス  
 第四十四條 電信又ハ電話ニ關スル規定ヲ適用スルモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ適用スルコトヲ得  
 第四十五條 帝國外國間ニ於ケル電信ニ關シテハ法令條約又ハ特許ノ條款ニ明文アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル  
 附則  
 第四十六條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 電信條例ハ之ヲ廢止ス  
 第四十七條 本法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話私設ノ許可ヲ得タル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ更ニ許可ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

**●電報規則** (明治三十三年九月通) (舊令第四十六號)

第一章 總則

第一條 電報ヲ別テ左ノ三種トス  
 一 官報  
 二 局報  
 三 私報

第二條 官報トハ官廳及地方自治體ノ公債外國ノ首長皇族大臣陸海軍將帥公使領事ヨリ發スル電報ヲ云フ但シ商人ニシテ領事ノ事務ヲ扱

フ者ヨリ發スル電報ハ官報發出ノ資格アルモノニ宛テ且官用ニ關スルモノニ非サレハ之ヲ官報ト爲サス  
 國庫金取扱ニ關シテ發スル電報並戰時事務ニ際シ日本ノ赤十字社又ハ軍事輸送ノ爲メ政府ノ使用ニ供スル船舶若シ鐵道ノ所有者ヨリ發スル電報ハ遞信大臣ノ承認ヲ經テ官報ト爲スコトヲ得  
 官報發送ノ資格ナキモノト雖モ受取リタル官報ヲ呈示シ其ノ返信ヲ官報トシテ發送スルコトヲ得  
 第三條 局報トハ電信事務ニ關シ電信局所相互間ニ往復スル電報ヲ云フ  
 前項ノ外電信、電話及郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務ニ關シ電信電話又ハ郵便官署相互間ニ往復スル電報ハ遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルモノニ限リ局報ト爲スコトヲ得郵便爲替金郵便貯金及郵便取立金ノ取扱ニ要スル資本ノ受授ニ關シ金庫相互間ニ往復スル電報亦同シ  
 氣象報告ニ關シ中央氣象臺又ハ地方測候所其他ノ觀測所間ニ往復スル電報ハ遞信大臣ノ承認ヲ經テ局報ト爲スコトヲ得  
 第四條 私報トハ官報及局報ヲ除クノ外諸般ノ電報ヲ云フ  
 第五條 電報ハ左ノ順序ニ依リ送達スヘシ  
 一 至急官報  
 二 至急局報  
 三 至急私報  
 四 官報  
 五 局報  
 六 私報

第六條 同一順位ノ電報ハ受付ノ順序ニ依リ傳送シ中繼及著信局所ニ於テハ受信ノ前後ニ依リ之ヲ傳送配達スヘシ  
 第七條 發信人又ハ受信人ハ電信局所ノ要求アルトキハ其ノ本人ニ相違ナキコトヲ證明スヘシ

第二章 電報書法

第八條 電報ノ記載方別テ和文歐文ノ二トス其各電報ニ用ケヘキ文字及記號ハ左ニ掲ケルモノニ限ル但シ同一電報中ニ在リテハ特ニ明文アル

ル場合ノ外和文電報ニ用ケヘキ文字記號ト歐文電報ニ用ケヘキ文字記號トヲ混用スルコトヲ得ス  
 (按ニ文字記號ヲ略ス)

第九條 電報ニ用ケル指定事項ノ略符號ハ左ノ如シ

指定事項	和文略符號	歐文略符號
至急親展	ウナ	UR
至急親展	ウニ	UR
返信前納	ナツ	RP
返信至急	ナウ	RU
返信照校	ナム	RT
照校	ムニ	RO
電報受信報知	ツニ	PC
郵便受信報知	ツツ	PP
追尾	ナナ	ES
再送	ナナ	RF
同文	ムヨ	FM
同文連名	ムヨ	MA
外國郵送	ムナ	PN
留置	ムナ	FR
別便配達	ムナ	XP
別便料電報報知	ムナ	HD
別便料電報報知	ムナ	KE
別便料電報報知	ムナ	XI
留置郵便報知	ムナ	XM
留置郵便報知	ムナ	PR
無誤配達	ムナ	RO
局待	ムナ	VT
親展	ムナ	UT

第十條 電報ニ用ケル普通辭及略辭ノ三種トス  
 第十一條 普通辭トハ和文電報ニ於テハ日本語歐文電報ニ於テハ羅馬語又ハ歐洲國語ニシテ其意味ノ通解シ易キモノヲ云フ

羅馬字ヲ以テ記載シタル日本語、電報新書又ハ電報新編ニ依リ記載シタル數字ノ聯集及商標又ハ記號トシテ用ケル文字若シ數字ハ之ヲ普通辭ト見做ス  
 第十二條 略語トハ普通辭ヲ普通ノ意味以外ニ用ケル其ノ意味ノ通解シ難キモノヲ云フ  
 第十三條 略語トハ文字又ハ數字ノ孤立若シ聯集ニシテ其ノ意味ノ通解シ難キモノヲ云フ  
 前項ノ外普通辭及略語ニ非サル略語ハ之ヲ略語ト見做ス  
 第十四條 略語ハ一聯集中文字ト數字トヲ混用スルコトヲ得ス  
 第十五條 和文記號ハ片假名又ハ數字歐文記號ハ羅馬字又ハ亞刺比亞數字ニ直接ニ附隨セザル場合ノ外用アルコトヲ得ス但シ小括弧ハ第十六條ノ場合ノ外之ヲ用ケルコトヲ得ス  
 第十六條 和文電報ニハ商標其ノ他片假名ヲ以テ顯明シ難キモノニ限リ羅馬字又ハ亞刺比亞數字及歐文記號ヲ挿入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ小括弧ヲ以テ之ヲ區別スヘシ  
 第十七條 羅馬字ヲ以テ綴リタル日本語ノ電報ハ十五字ヲ超エテ聯記シ又ハ一語句ノ中間ニ於テ分割記載スルコトヲ得ス但シ名稱ヲ示ス語ハ之ニ附屬スル助字ト共ニ數字ノ多少ニ拘ハラズ一箇一聯集トシテ記載スルコトヲ得  
 第十八條 羅馬字ヲ以テ綴リタル日本語ノ電報中ニ外國語又ハ亞刺比亞數字ヲ混用スルトキハ其ノ外國語又ハ亞刺比亞數字ヲ日本語ト聯記スルコトヲ得ス



第十七類 通信 電信

千二百三十四

第十九條 電報ノ受信人名ハ同一ノ家ニ宛テタル場合ニ限リ之ヲ連記スルコトヲ得

第二十條 受信人ノ居所氏名ハ簡明ニ記載スヘシ若シ其ノ地名ニシテ著明ナラザルカ又ハ他ニ類似ノモノナルトキハ國名又ハ郡區名ヲ附記スヘシ

和文電報ノ居所中不必要ト認ムルモノアルトキハ電信局所ニ於テ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十一條 受信人ノ居所氏名ハ第八十六條ニ依リ登記ヲ受ケタル略號ヲ以テ記載スルコトヲ得但シ略號ノ外必ス著信地名ヲ附記スヘシ

一市區町村內ニ二個以上ノ電信局所アル場合ハ著信地名ニ尙著信ノ電信局所名ヲ記入シ括弧ヲ以テ之ヲ區別スヘシ

略號ノ登記ヲ受ケタル人ノ家ニ在ル者ニ宛テタル電報ニハ其ノ略號ニ「方」氣符又ハ之ニ相當スル文字ヲ附記シテ其ノ略號ヲ使用スルコトヲ得

第二十二條 電報ノ本文ハ之ヲ記載セザルコトヲ得

第二十三條 發信人ハ自己ノ居所氏名ヲ傳送ヲ要スルトキハ短信紙中木文ノ末尾ニ之ヲ記載スヘシ但シ其ノ居所氏名ヲ送達紙ノ外部ニ表ハサズルトキハ和文電報ニ在リテハ受信人名所ノ下ニ歐文電報ニ在リテハ受信人名所ノ前ニ之ヲ記載スヘシ

第二十四條 電報ニ記載シタル文字ヲ加除改正シタルトキハ電信局所ニ於テ相當ノ證明ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十五條 發信人ノ記載シタル指定事項ノ略號列然セザルモノハ其ノ略號ヲ以テ指定スヘキ事項ヲ普通辭ニテ記載シタルモノハ電信局所ニ於テ之ニ相當スル略號ニ改書スヘシ

第二十六條 發信人ハ其ノ居所氏名ヲ短信紙ノ末尾ニ記載スヘシ但シ其ノ記載ナキモノト雖電信局所ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ受付發送スルコトアルヘシ

第三章 字數及語數計算

第二十七條 電報中左ニ記載スルモノハ字數又ハ語數ニ算入ス

一 本文

二 歐文電報ノ受信人居所氏名  
但シ第二十一條第二項ニ依リ記入シタル著信ノ電信局所名ヲ除ク

三 和文電報ニ連記シタル第二以下ノ受信人氏名並送書シタル追尾電報又ハ再送電報ノ第二以下ノ居所

四 傳送ヲ要スル發信人居所氏名

五 指定事項

六 第二號乃至第四號ノ居所氏名ニ附屬スル語字

第七 弧及小括弧ハ各ノ字片假名二字ニ計算ス

第八 弧點半濁點ヲ付シタル文字ハ之ヲ片假名二字ニ計算ス

第二十九條 和文電報中ニ用非タル羅馬字、亞刺比亞數字及歐文記號ハ其ノ一學又ハ一ノ字片假名二字ニ計算ス但シ括弧、轉倒句讀及字下線ハ各ノ字片假名二字ニ計算ス

第三十條 歐文ノ普通辭ハ一語ヲ聯綴十五字ヲ超セザルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十五字ヲ超セルモノハ十五字迄毎三又之ヲ一語ニ計算ス

第三十一條 歐文電報中ニ用非タル亞刺比亞數字ハ其ノ聯綴五箇ヲ超セザルモノハ之ヲ一語ニ計算シ五箇ヲ超セルモノハ五箇迄毎三又之ヲ一語ニ計算ス

第三十二條 歐文電報中羅馬字文ハ亞刺比亞數字ノ孤立シタルモノハ之ヲ一語ニ計算ス

第三十三條 歐文電報中羅馬字ヲ以テ聯綴シタル祕辭ハ數字ノ例ニ依リ之ヲ計算ス

第三十四條 普通辭及隱語ヲ混用シタル歐文電報中ノ普通辭ハ一語ノ聯綴十字ヲ超セザルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十字ヲ超セルモノハ十字迄毎三又之ヲ一語ニ計算ス

第三十五條 第十七條及第十八條ノ規定ニ違ヒ記載シタル語辭ハ數字ノ例ニ依リ之ヲ計算ス

第三十六條 歐文電報中第十一條ニ規定シタル國語ニシテ其ノ用法ニ違

聯綴若ハ省略シタルモノハ正當ノ聯綴方ニ依リ其ノ語數ヲ計算ス

府縣名、國名其ノ他ノ地名、船名、羅馬字ヲ以テ記載シタル數目及字數ニ依リ證明シ得ヘキ聯綴語ハ發信人ノ記載スル所ニ從ヒ其ノ語數ヲ計算ス

第三十七條 歐文電報中左ノ文字及記號ハ其ノ一字又ハ二箇ヲ數字一箇ニ計算ス

一 順序數字示ス爲ニ亞刺比亞數字ニ附加シタル羅馬字

二 商標、祕辭又ハ亞刺比亞數字ノ聯綴中ニ用非タル語點及斷除線

第三十八條 歐文電報中連綴點ヲ以テ繋キタル語及略符ヲ以テ分チタル語ハ其ノ每分語ヲ一語ニ計算ス但シ其ノ連綴點及略符ハ之ヲ字數ニ算入セス

第三十九條 歐文電報中ニ用非タル終點、讀點、小讀點、重點、間標、感符、新章、括弧、轉倒句讀、及字下線ハ各ノ字一語ニ計算ス

第四十條 歐文電報ノ指定事項ニ用非タル略符號ハ各ノ字一語ニ計算ス其ノ略符號ニ數字ヲ附記シタルモノ亦同シ

第四章 料金

第四十一條 通常電報料ハ別ニ規定アル場合ノ外左ノ如シ

一市區町村內ニテ發送スル電報料

一 和文 片假名十五字以内 金 十錢

五字以内ヲ加フル毎三金三錢ヲ増ス

二 歐文 五語以内 金 十五錢

一語ヲ加フル毎三金三錢ヲ増ス

前項以外ノ電報料

一 和文 片假名十五字以内 金 二十錢

五字以内ヲ加フル毎三金五錢ヲ増ス

二 歐文 五語以内 金 二十五錢

一語ヲ加フル毎三金五錢ヲ増ス

第四十二條 電報ハ特ニ規定アル場合ノ外其ノ字數又ハ語數ニ應シテ電報料ヲ課ス但シ和文電報ニシテ字數ニ算入スヘキ文字記號ナキモノト雖十五字以内ノ電報料ヲ課ス

第四十三條 第三條ニ規定シタル局報ハ無料トス

但シ課金局報ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十四條 特別電報料其ノ他特殊ノ取扱ニ關スル料金ハ別章ニ於テ之ヲ定ム

第四十五條 電報ニ關スル料金ハ發信ノ際郵便切手ヲ短信紙ニ貼付シテ納ムヘシ但シ特ニ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十六條 電報ニ關スル料金ニ錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ錢位ニ切上ル

第四十七條 左ノ電報ニ關スル料金ハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

一 電信局所ノ過失ニ因リ受信人ニ到達セザルカ又ハ郵便ニテ到達シ得ヘキ時ヨリ遅レテ到達シタル電報ノ料金但シ第九十七條ニ依リ發送シタルモノヲ除ク

二 電信局所ノ過失ニ因リ照校電報ニ誤謬ヲ生シ且用弊ヲ缺キタルモノノ料金但シ尋問ノ電報ニ依リ校正シ得タルモノヲ除ク

三 電信局所ノ過失ニ依リ微收シタル過納及誤納ノ電報料金

四 發信人ノ請求ニ依リ配達前停止シタル電報ニ對シ前納シタル返信料、受信電報料及配達料

五 電報直配區域內ニテ配達シタル電報又ハ別使、船船若ハ書留郵便ヲ以テ配達ヲ爲サリシ電報ニ對シ發信人ノ前納シタル配達料

六 返信料前納證書ヲ以テ發送シタル電報料金前納額ニ滿タサルトキハ其ノ殘額ノ料金

七 第四百十四條ノ場合ニ於テ和文十五字歐文五語ノ通常電報料ヲ按除シタル前納ノ返信料金

八 返信料前納證書ニ對シ返信料前納證書ヲ發行セザリシトキ又ハ返信料前納證書ヲ配達シ能ハスシテ發行シタル證書ノ使用期間ヲ過キタルトキ若ハ交付シタル返信料前納證書ヲ其ノ使用期間ニ使用セザリシトキハ前納シタル返信料金

九 發信局所ニ於テ傳送前ニ返還シタル電報ノ料金

第四十八條 電報ニ關スル料金還付ノ請求ハ其料金ヲ納付シタル電信局

第十七類 通信 電信

千二百三十五



第十七類 通信 電報

千二百三十六

所ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期間ハ料金納付ノ日ヨリ六十日間トス  
 第四十九條 電報ニ關スル料金ノ還付ヲ請求スルトキハ不遑ニ保ルモノ  
 ハ著信局所又ハ受信人ノ證明書、誤謬又ハ遲延ニ保ルモノハ其ノ電報  
 送達紙返信料前納證書ヲ使用セザリシモノハ其ノ證書ヲ請求書ニ添付  
 スヘシ  
 第五十條 同文電報ノ内一通若ハ數通ノ料金ヲ還付スルトキハ原信電報  
 料及同文電報料ヲ併セ之ヲ總額ニテ除算シ其ノ得數ヲ以テ返付スヘ  
 キ一通ノ額トス  
 第五十一條 二名以上ノ發信人ヨリ差出シタル電報ニ關スル料金還付ハ  
 其ノ内ノ一名ニ之ヲ爲スヘシ  
 第五十二條 受信人ニ於テ電報ニ關スル料金ノ追納ヲ要スル電報ノ受取  
 拒ミタルトキ又ハ追納ヲ要スル電報ニシテ居所不明其ノ他ノ事故ニ  
 因リ之ヲ受信人ニ交付シ能ハサルトキハ發信人ヨリ其ノ料金ヲ徵收  
 ス  
 第五十三條 電報ニ關スル料金ヲ追納スヘキ發信人又ハ受信人カ二名以  
 上ナルトキハ其ノ内ノ一名ヨリ之ヲ徵收スヘシ  
 第五十四條 電報ヲ發送セムトスルトキハ特ニ規定アル場合ノ外電信局  
 所ニ之ヲ差出スヘシ  
 第五十五條 郵便ニ依リ電報ヲ差出ストキハ其ノ封筒ノ表面ニ「電報在  
 中」ト記載スヘシ此ノ場合ニ於テハ其普通郵便料ニ限リ無料トナスコ  
 トナリ得  
 第五十六條 電報局所ニ電報受付函ノ設置アルトキハ電報受付時間外ニ  
 限リ發信人ハ之ニ電報ヲ差入ルルコトナリ得  
 第五十七條 左ニ掲クル電報ノ配達ヲ受ケタル者ハ配達ノ時ヨリ五分時  
 間以內ニ其電報配達人ニ依リシテ電報ヲ差出スコトナリ得  
 一 返信料前納電報  
 二 局待電報  
 一 別便配達電報  
 四 解船配達電報

第五十八條 豫納金ノ納付ヲ要スル電報ハ第五十五條乃至第五十七條ニ  
 依リ差出スコトナリ得ス  
 第五十九條 第五十五條乃至第五十七條ニ依リ差出シタル電報ハ電信局  
 所ニ到着シタル時ヲ以テ受付時刻ト爲ス  
 電報受付時間外ニ到着シタル前項ノ電報及第五十六條ニ依リ差出シタ  
 ル電報ハ總テ翌日受付開始ノ時ヲ以テ受付時刻ト爲ス但シ電信局所ニ  
 於テ特ニ時間ヲ定メテ取扱フ爲スヘキ電報ハ第五十七條ニ依リ差出シ  
 タル場合ハ前項ノ例ニ依リ  
 第六十條 書法其ノ他ノ規定ニ違背スル爲發送シ得サル電報アルトキハ  
 其ノ事由ヲ發信人ニ通知スヘシ  
 第六十一條 發信人ハ特ニ電報ノ著信局所ヲ指定シ差出スコトナリ得此ノ  
 場合ニ於テハ指定事項トシテ其ノ局所名ヲ記載スヘシ  
 第六十二條 電報ヲ電信局所又ハ郵便局所ニ留置カムトスルトキハ其ノ  
 局所ヲ肩書シ且留置ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ  
 第六十三條 發信局所ニ在リテ返信ヲ待ツコトヲ受信人ニ知ラシメムト  
 スル電報ハ局待ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ  
 第六十四條 受信人以外ノ者ノ披見ヲ豫ル電報ハ親展ノ略符號ヲ以テ指  
 定スヘシ  
 第六十五條 封緘セシメテ發信人ニ配達スヘキ電報ハ無封配達ノ略符號  
 ヲ以テ指定スヘシ  
 第六十六條 別便ヲ以テ配達スヘキ電報ハ別便配達ノ略符號ヲ以テ指定  
 スヘシ  
 第六十七條 別便配達料ハ著信局所ヨリ三里以內ハ金二十錢トシ三里ヲ  
 超エルトキハ二里以內毎ニ金二十五錢ヲ増ス  
 島嶼ニ宛テタルモノノ別便配達料ハ里程ニ拘ラス金二十錢トシ其ノ配  
 送費之レニ超過シタルトキハ實費額ニ依リ  
 第六十八條 別便ヲ以テ配達スヘキ電報ハ發信ノ際其ノ配達料ノ最少額  
 ヲ納付スヘシ  
 著信局所ヨリ三里ヲ超エル場合ニ於テ發信人ハ其ノ里程ヲ豫定シ之ニ  
 對スル配達料ヲ納付スルトナリ得此ノ場合ニ於テハ別便配達略符號ノ

次ニ其ノ里程ヲ指定スヘシ  
 前二項ニ依リ納付シタル配達料ニ不足アルトキハ其ノ不足額ハ受信人  
 ニ於テ之ヲ追納スヘシ  
 第六十九條 受信人ノ追納スヘキ別便配達料ヲ發信人ニ於テ納付セムト  
 スルトキハ別便料電報報知又ハ別便料郵便報知ノ略符號ヲ以テ指定シ  
 電報通知ヲ要スルモノハ和文電報十五字ニ相當スル通常料金郵便報知  
 料要スルモノハ金三錢ヲ増納スヘシ  
 發信人ハ前項ノ追納料金ニ充ツル爲電信局所ノ指示スル相當金額ヲ豫  
 納スヘシ其ノ豫納金ハ著信局所ノ報知ニ依リ精算ス  
 第七十條 解船ニ宛テタル電報ニシテ解船ヲ以テ配達スヘキモノハ解船  
 配達ノ略符號ヲ以テ指定シ其配達料トシテ金二十錢ヲ納ムヘシ  
 第七十一條 解船ニ宛テタル電報ニシテ別便配達及解船配達ヲ要スル場  
 合ニ於テ發信人カ其ノ一方ノミヲ指定スルトキハ其ノ不足料金ハ受信  
 人ニ於テ之ヲ追納スヘシ  
 第七十二條 書留郵便ヲ以テ配達スヘキ電報ハ書留郵便配達ノ略符號ヲ  
 以テ指定シ其ノ配達料トシテ金七錢ヲ納ムヘシ  
 第七十三條 發信人ハ電報差出ノ日ヨリ三日以內ニ限リ其ノ納付料金額  
 ヲ記入シタル電報ノ受取證書ヲ請求スルトナリ得此ノ場合ニ於テハ其  
 ノ受取證書料トシテ受取證書一通毎ニ金三錢ヲ納付スヘシ  
 電報ノ受取證書ニハ其ノ受取證書料ニ當ル郵便切手ヲ貼付シ且消印シ  
 テ交付スヘシ  
 第七十四條 發信人ハ一通毎ニ金五錢ヲ納付シテ末々傳送セザル電報ノ  
 返還ヲ請求スルトナリ得  
 第六節 電報託送  
 第七十五條 電話加入者ハ別ニ告示スル電信局所ニ豫メ届出テ其ノ使用  
 二屬スル電話機ニ依リ電報ヲ受スルコトナリ得  
 第七十六條 電話加入者ノ使用ニ屬スル電話又ハ郵便電信局電信局ニ連  
 接スル電信電話ヲ以テ電報ヲ發受スルトキハ其ノ電話加入者又ハ電信  
 電話ノ施設者ハ電報託送料トシテ電報一通毎ニ金三錢ヲ納ムヘシ  
 第七十七條 前條ニ依リ發スル電報ニシテ其ノ發受局所所在ノ市區町村

内ニテ配達シ又ハ該局所ニ於テ前條ノ電話加入者若ハ電信電話ノ施設  
 者ニ送達スルモノハ一市區町村内ニテ發受スルモノト見做シテ料金ヲ  
 課ス  
 前條ニ依リ受クヘキ電報ニシテ其ノ發受局所所在ノ市區町村内ニ在ル  
 電信局所ヘ電報スルモノ亦同シ  
 第七十八條 電報託送電報發受者ノ納ムヘキ電報ニ關スル料金ハ毎月取  
 經ノ翌月二十日迄ニ其ノ發受局所ニ納付スヘシ但シ一二等郵便電信局  
 電信局ニ在リテハ通貨ヲ以テ之ヲ納付スヘシ  
 第七十九條 郵便電信局電信局ニ連接スル電信電話施設者其ノ施設ノ權  
 利ヲ失フタルトキ又ハ之ヲ廢止シタルトキ未納ノ電報料金ヲ即納スヘ  
 シ  
 第七十六條ノ届出ヲ爲シタル電話加入者加入コリ除名セラレタルトキ  
 又ハ電報託送電報ノ發受ヲ廢止シタルトキハ發受局所ニ之ヲ届出ツヘ  
 シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用ス  
 第八十條 電報託送電報發受者電報ニ關スル料金又ハ私設電信規則第二  
 十條ノ料金ヲ納付セザルトキハ其ノ滞納ノ期間電報託送電報ヲ發受ス  
 ルコトナリ得ス  
 第七節 電報配達  
 第八十一條 電信局所ヨリ陸上一里以內其ノ局所所在ノ市區内ヲ電報直  
 配區域トス但シ特ニ指定シテ其ノ區域ヲ制限スルコトアルヘシ  
 第八十二條 電報直配區域内ニ配達スル電報ハ配達料ヲ要セス  
 第八十三條 電報直配區域外ニ配達スル電報ニシテ配達方ノ指定ナキ  
 モノハ無料ノ普通郵便ヲ以テ送達スヘシ  
 配達方ノ指定アル電報ト雖受信人移轉等ノ爲更ニ其ノ電報直配區域  
 外ニ配達スルトキ亦同シ  
 第八十四條 電報直配區域外ニ居住スル者ハ電信局所ニ請求シテ別便  
 解船又ハ書留郵便ヲ以テ自己ニ宛テタル配達方指定ナキ電報ノ配達ヲ  
 受クルコトナリ得但シ之ヲ受ケタルトキハ其ノ配達料ヲ納ムヘシ  
 第八十五條 別便配達電報ノ受信人ハ其ノ電報受取紙ニ捺印又ハ手摺シ  
 テ直ニ之ヲ電報配達人ニ交付スヘシ

第十七類 通信 電報

千二百三十七



第八十六條 受信人自己ノ居住氏名ニ略號ヲ常用セムトシ又ハ電報ヲ受取ルヘキ者若ハ電報ノ配達場所ヲ特定セムトスルトキハ著信局所ニ請求シテ其ノ略號又ハ配達先ノ登記ヲ受クルコトヲ得

第八十七條 受信人電報ノ配達ヲ待タズ著信局所ニ於テ之ヲ受取ラムトスルトキハ其ノ著信局所ニ請求シテ局渡證書ヲ交付シテ受クルコトヲ得

第八十八條 局渡證書ヲ所持人著信局所ニ於テ電報ヲ受取ラムトスルトキハ其ノ時時局渡證書ヲ示スヘシ

第八十九條 局渡證書ヲ交付シタル者ニ宛テタル電報ト雖著信ノ際證書ヲ所持スル者出頭セサルトキハ之ヲ配達ニ付スヘシ

第九十條 局渡證書ヲ交付シ受ケタル者其ノ證書ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨交付シ受ケタル局所ヘ届出シヘシ此ノ證書ハ其ノ報告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ効チ失フ

第九十一條 局渡證書不用ニ屬シタルトキハ其ノ交付ヲ受ケタル局所ニ之ヲ返還スヘシ

第九十二條 略號又ハ配達先ノ登記及局渡證書ニ關スル料金額其ノ納付手續ハ別ニ之ヲ定ム

第九十三條 受信人名ヲ速記シタル電報ハ其ノ内ノ一名ニ配達スヘシ

第九十四條 電報ノ誤送ヲ受ケタル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル付箋ヲ爲シ直ニ之ヲ著信局所ニ返付スヘシ此ノ場合ニ於テハ無料郵便物トシテ郵便ニ付スルコトヲ得

第九十五條 受信人ニ交付シ能ハサル電報ハ著信局所ニ保管シ置キ其ノ受信人ノ居所氏名ヲ記載シテ少クトモ七日間之ヲ其ノ局所前ニ掲示スヘシ

第九十六條 電信局所留置電報ハ其ノ留置局所ニ到着シタル日ヨリ三日以内ニ受信人ニ交付シ能ハサルトキハ前條ノ例ニ依リ之ヲ掲示スヘシ

第九十七條 發信人又ハ受信人ハ其ノ不達ニ歸シタル電報ノ送達ヲ發信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ電報差出ノ日ヨリ六十日間トス

第八章 尋問改正及停止

第九十八條 發信人ハ既ニ差出シタル電報ニ關シ尋問、改正又ハ停止ヲ要スルトキハ之ヲ發信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ發信ノ時ヨリ七十二時間トス

第九十九條 發信人ハ既ニ受取リタル電報ニ關シ尋問ヲ要スルトキハ之ヲ著信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ電報ヲ受取リタル時ヨリ七十二時間トス

第一百條 發信人ニ於テ其ノ差出シタル電報ニ關シ尋問ヲ請求スルトキハ其ノ尋問ニ要スル電報料ヲ納メ且返信ニ要スル電報料ヲ豫納スヘシ

第一百一條 發信人ニ於テ其ノ差出シタル電報ノ改正又ハ停止ヲ請求スルトキハ其ノ通知ニ要スル電報料ヲ納ムヘシ若シ其ノ返信ヲ望ムトキハ之ニ要スル電報料ヲ豫納スヘシ

第一百二條 尋問、改正又ハ停止ノ爲發信人ノ豫納シタル電報料ハ返信電報ノ字數又ハ語數ニ應シテ精算ス

第一百三條 改正電報ニシテ其ノ原信配達後著信局所ニ到達シタルトキハ其ノ事由ヲ受信人ニ通知スヘシ

第一百四條 受信人ニ於テ其ノ受取リタル電報ニ關シ尋問ヲ請求スルトキハ其ノ尋問及返信ニ要スル電報料ヲ豫納スヘシ

第一百五條 假納ノ電報料ハ尋問及返信電報ノ字數又ハ語數ニ應シテ收納ス但シ電信事務上ノ誤謬ニ因リ尋問ヲ爲スニ至リタル場合ハ之ヲ還付ス

第一百六條 本章ニ依リ往復スル電報ハ課金局報トス

第九章 閉置正寫

第一百七條 發信人又ハ受信人ハ電報ノ開覽又ハ正寫ヲ請求スルコトヲ得但シ請求人ニ於テ該電報搜索上必要ナル事項ヲ示ササルトキハ其請求ニ應セサルコトアルヘシ

第一百八條 電報ノ開覽正寫ハ發信ニ在リテハ其ノ發信局所著信ニアリテ

ハ其著信局所ニ請求スヘシ

第一百九條 電報ノ開覽又ハ正寫ヲ請求スル者ハ開覽料トシテ電報一通ニ付金三錢正寫料トシテ和文ハ二百字以内毎ニ金五錢歐文ハ五十語以内毎ニ金十錢ヲ納ムヘシ

電報ノ正寫ニハ其ノ正寫ニ當ル郵便切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

第十章 特別電報

第一節 至急電報

第一百十條 通常電報ニ先チテ傳送ヲ要スル電報ハ至急ノ略號ヲ以テ指定スヘシ

第一百十一條 至急電報料ハ左ノ如シ

官報 通常電報料ノ二倍 私報 通常電報料ノ三倍

第一百十二條 返信料前納電報

第一百十三條 電報ノ返信ヲ受ケムトスル者ハ其ノ返信ノ電報料ヲ前納スルコトヲ得其ノ電報ニハ左ノ略號ヲ以テ指定スヘシ

一 返信料前納ノ略號 通常電報料ヲ前納スルトキ

二 返信至急ノ略號 至急電報料ヲ前納スルトキ

三 返信照校ノ略號 照校電報料ヲ前納スルトキ

和文ハ五十字歐文ハ五十語トモ返信料ヲ前納スルトキハ前項略號ノ次ニ其ノ字數又ハ語數ヲ付記スヘシ

第一百十四條 返信料前納電報ヲ配達スルトキハ返信料前納アルコトヲ證明スル爲著信局所ニ於テ返信用紙ニ左ノ事項ヲ記入シ返信料前納證書トシテ電報ト共ニ之ヲ受信人ニ交付スヘシ

一 返信料前納ノ金額

二 受信人名

三 發信局所名、發信年月日及發信番號

四 證書發行ノ年月日

第一百十五條 返信料前納證書ノ使用期間ハ其ノ證書發行ノ日ヨリ三十日間トス此ノ期間ヲ過クルトキハ使用ノ効チ失フ

第一百十六條 返信料前納電報ノ返信用紙ニ記載シテ差出ス電報ハ證書記載ノ金額ニ相當スル料金額納付済ノモノトシ何レノ電信局所ニ於テモ之

ハ其ノ電報ノ料金額ニテ證書記載ノ金額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル郵便切手ヲ返信用紙ニ貼付スヘシ

第一百十七條 受信人返信料前納證書ヲ受領スルコトヲ拒ムトキハ其ノ證書ヲ使用シ著信局所ヨリ發信局所ニ其旨課金局報ヲ以テ告知シ更ニ之ヲ發信人ニ通知スヘシ

第一百十八條 居所不明其ノ他ノ事故ニ依リ返信料前納證書ヲ受信人ニ交付シ能ハサルトキハ之ヲ著信局所ニ保管ス

第一百十九條 著信局所ニ保管シ置キタル返信料前納證書ハ其ノ使用期間ニ受信人ヨリ請求スルトキ又ハ該期間滿了後三十日以内ニ發信人ヨリ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ

第三節 照校電報

第一百二十條 發信人ハ電報ノ照校ヲ請求スルコトヲ得其ノ電報ニハ照校ノ略號ヲ以テ指定スヘシ

第一百二十一條 照校電報ハ通信ノ際送受兩局所間ニ於テ其ノ全部ヲ復校正スルモノトス

第一百二十二條 照校料ハ通常電報料ノ四分ノ一トス

第一百二十三條 發信人ハ電報ノ受信人ニ到達シタル日時ノ報知ヲ受クルコトヲ得其ノ電報ハ受信電報トシテ左ノ略號ヲ以テ指定スヘシ

一 電報受信報知ノ略號 電報ヲ以テ報知ヲ受クルトキ

二 郵便受信報知ノ略號 郵便ヲ以テ報知ヲ受クルトキ

第一百二十四條 電報受信報知ハ一通毎ニ和文ハ十五字歐文ハ五語ノ通常料金トシ郵便受信報知ハ一通毎ニ金三錢トス

第一百二十五條 受信電報ヲ受取リタル者ハ電報受取時刻ヲ電報ノ捺印又ハ手摺シテ直ニ之ヲ電報配達人ニ交付スヘシ但シ郵便電信又ハ電話ヲ以テ其ノ送付ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一百二十六條 受信電報ノ發信人ニハ受信人ノ電報ヲ受取リタル日時ヲ報知スヘシ但シ之ヲ送達スルニ郵便ヲ以テシタルトキハ郵便ニ付託セシ日時電信又ハ電話ヲ以テシタルトキハ送信セシ日時ヲ報知スヘシ



第二百二十三條 電報受信報知ノ日時ハ局報ヲ以テ郵便受信報知ノ日時ハ郵便ヲ以テ著信局所ヨリ發信局所ヘ宛テ通知シ發信局所ヨリ更ニ之ヲ發信人ニ報知ス

第二百二十四條 電報直配送區域外ニ居住スル發信人別使、船艙又ハ寄留郵便ヲ以テ受信日時ノ報知ヲ受ケムトスルトキハ報信紙ノ餘白ニ其ノ旨ヲ記載シ相當ノ配送料ヲ納付スヘシ

第二百二十五條 受信人ニ於テ受信電報ノ受信ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受信人ニ配送シ能ハサルトキハ日時報知ノ代トシテ第二百二十三條及第二百二十四條ノ例ニ依リ其ノ事由ヲ發信人ニ報知スヘシ

第五節 追尾電報

第二百二十六條 發信人電報ノ追尾傳送ヲ要スルトキハ追尾電報ノ寄符號ヲ以テ指定スヘシ

第二百二十七條 追尾電報ノ發信人ハ追尾スヘキ第二以下ノ居所ヲ逐次ニ記載シ又ハ各寄符號セサルコトヲ得

第二百二十八條 追尾電報ハ受信人ノ居所分明ナル限リ之ヲ追送スヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ居所ヲ逐次ニ列シタルモノハ其ノ經過スル毎ニ之ヲ削除ス

第二百二十九條 追尾電報ノ追尾ニ關スル料金ハ追尾一同毎ニ新ニ電報ヲ差出シタルモノトシテ計算シ之ヲ發信人ヨリ徵收スヘシ

第三百十條 左ニ掲グル電報ハ追尾電報トシテ發送スルコトヲ得ス

- 一 別使料電報報知ヲ要スル電報
- 二 別使料電報報知ヲ要スル電報
- 三 返信料前納電報
- 四 受信電報
- 五 同文電報
- 六 外國郵送電報

第六節 再送電報

第三百十一條 受信人ノ居所異動等ノ場合ニ於テ其新居所ヘ電報ノ再送ヲ要スルトキハ受信人又ハ宛所ノ者ヨリ之ヲ著信局所ニ請求スルコトヲ得

第三百二十二條 留置電報著信局所ニ保管シ置キタル電報又ハ一旦配達ヲ了リタル電報ノ再送請求ノ期間ハ著信ノ時ヨリ七十二時間トス

第三百二十三條 一旦配達ヲ了リタル電報ノ再送請求スルトキハ其ノ電報送達紙ヲ差出スヘシ若シ返信料前納シタルモノナルトキハ其ノ返信料前納證書ヲ返戻スヘシ

第三百二十四條 電報ノ再送ヲ請求スルモノハ其ノ再送スヘキ電報ニ記載シタル指定事項ノ削除ヲ請求シ又ハ第三百三十五條ニ掲グル電報ノ指定事項ヲ除クノ外必要ナル指定事項ノ記入ヲ請求スルコトヲ得

第三百三十五條 返信料前納電報、受信電報又ハ別使料ノ報知ヲ要スル電報ヲ再送スルトキハ其ノ指定事項ヲ削除スヘシ此ノ場合ニ於テハ第三百三十四條ノ例ニ依リ返信料前納證書ヲ使用シ又ハ受信報知若ハ別使料報知ノ代トシ電報再送ノ旨ヲ發信人ニ報知スヘシ

第三百三十六條 電報ヲ再送スルトキハ電報局所ニ於テ再送電報ノ寄符號ヲ以テ指定スヘシ

第三百三十七條 電報ヲ再送スルトキハ其ノ請求者ヲ再送電報ノ發信人ト見做ス

第三百三十八條 再送電報ノ再送ニ關スル料金ハ第三百二十九條ノ例ニ依リ計算徵收ス

第三百三十九條 同文電報ハ之ヲ再送スルコトヲ得ス但シ同文電報ノ指定事項ヲ削除シ一通ノ電報トシテ再送ヲ請求スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七節 同文電報

第三百四十條 發信人ハ一市區町村内又ハ著信局所ヲ同クスル地方ニ居住スル數人又ハ數ヶ所ヘ宛テ同文ノ電報ヲ差出サムトスルトキハ同文電報ト爲スコトヲ得

第三百四十一條 同文電報ハ同文ノ寄符號ヲ以テ指定シ同文ノ通數ヲ付記スヘシ但シ其ノ通數ハ十通ヲ超ユルコトヲ得ス

同文電報ニシテ其ノ各通ニ各受信人名ヲ連記シ配達スヘキモノハ前項ノ寄符號ニ代フル同文連名ノ寄符號ヲ以テスヘシ

第三百四十二條 同文電報ノ原信ヲ除キタル各通ノ字數又ハ語數ハ總テ之

ヲ原信ニ併算ス

第四百十三條 同文電報ニハ原信ヲ除キ其ノ他一通毎ニ同文料トシテ和文ハ金十錢歐文ハ金十五錢ヲ課ス

第四百十四條 至急電報、照校電報又ハ受信電報ヲ同文電報トナストキハ原信ニ各相當ノ寄符號ヲ併記シ其ノ至急又ハ照校ノ料金ハ原信一通ニ對シテ之ヲ納メ受信報知料ハ同文ノ通數ニ應ジテ之ヲ納ムヘシ

第四百十五條 前條ノ外同文電報ニ他ノ電報ノ指定事項ヲ併用セムトスルトキハ一通毎ニ其ノ相當寄符號ヲ記載スヘシ

第八節 外國郵送電報

第四百十六條 外國ヘ郵送スヘキ電報ニハ外國郵送ノ寄符號ヲ以テ指定シ其ノ著信局所ヲ付記スヘシ

第四百十七條 外國郵送電報ノ郵送料ハ一通ニ付金二十錢トス

第四百十八條 外國郵送電報ハ在滿洲及在韓國本邦郵便局所在地ニ宛テタルモノノ外歐文電報ニ限ル

附則

第四百十九條 此規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治十八年五月布達第七號電報取扱規則同二十三年三月逡信省令第三號歐文電報略號常用料金額及其納付手續同年八月逡信省令第十七號電報局渡規同同年十一月逡信省令第二十一號電報配達人ニ電報差出方ヲ依頼スル規定同二十七年七月逡信省令第五號著信局所ヲ指定スル規同三十年十二月逡信省令第三十三號電話依託電報規則其ノ他此ノ規則ニ抵觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

第五百十條 此ノ規則ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外電報ニ依リ帝國外國間ニ往復スル電報ニ適用セズ

●略號登記料配達先登記料局  
渡料ノ金額及其ノ納付手續

(明治三十三年九月逡信省令第四十七號)

第一條 略號登記料又ハ配達先登記料ハ登記一個毎ニ年額金十二圓トス局渡料ハ證書一個毎ニ年額金六圓トス

第二條 前條ノ料金ハ年額金二分シ左ニ掲グル二期ノ別ニ從ヒ一期分毎ニ登記又ハ交付ヲ受ケル電信局所ニ前納スヘシ但シ一等郵便電信局電信局及在外電信局所ニ在リテハ通貨ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第一期 四月一日ヨリ九月三十日マテ

第二期 十月一日ヨリ三月三十一日マテ

第三期 一期ノ中途ニ於テ略號又ハ配達先ノ登記ヲ受ケ若ハ局渡證書ノ交付ヲ受ケルトキト雖其ノ期ノ料金全額ヲ納付スルモノトス

第四條 一期ノ中途ニ於テ略號又ハ配達先ノ登記ヲ取消シ又ハ局渡證書ヲ返還スルトキト雖其ノ期ノ料金ハ之ヲ還付セズ

第五條 電報規則第九十條第二項ニ依リ更ニ證書ヲ請求スルトキハ證書料トシテ金二十錢ヲ納ムヘシ

第六條 同一ノ略號ヲ內國電報及外國電報ニ通シ用ウル場合ト雖各別ニ其ノ料金ヲ納付スルニ及ハス

第七條 從前ノ規定ニ依リ此ノ規則施行ノ日以後ニ係ル略號常用料又ハ電報局渡料前納シタルモノハ引續キ其ノ略號ノ登記又ハ局渡證書ノ交付ヲ受ケルモノト看做シ更ニ此ノ規則ニ依リ料金ヲ計算シ不足額ハ之ヲ追納セシメ過剩額ハ之ヲ還付ス

●私設電信規則 (明治三十三年九月逡信省令第四十八號)

第一條 此ノ規則中私設電信ト稱スルハ電信法第二條ニ掲グル電信又ハ電話ヲ謂フ

第二條 電信法第二條第二號ニ依リ私設電信ハ左ニ列記スル事業ノ專用ニ供スルモノニ限ル

一 私設鐵道法ニ依リ鐵道、軌道條例又ハ特別ノ法令ニ依リ一般運輸ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道及一個人又ハ一會社ニ於テ個人ノ專用ニ供スル爲數設スル鐵道又ハ軌道ノ事業



二 運河、水利、水防、火防、水道、水難救護及氣象觀測ノ事業  
 三 高壓及特別高壓ノ電氣ヲ使用スル電氣事業  
 四 前各條ノ外特ニ私設電信ノ施設ヲ必要トスル事業  
 第三條 電信法第二條第五號ニ依ル私設電信中一營業ノ爲ニスルモノハ營業所相互間又ハ營業所トシテ管スル者ノ居室間ニ施設スルモノニ限ル  
 第四條 私設電信ヲ施設セムトスル者ハ逓信大臣ニ願出テ許可ヲ受ケルシ但シ私設鐵道法ニ依ル鐵道事業ノ專用ニ供スル爲鐵道線路ニ沿ヒ停車場、聯絡所又ハ信號所相互間ニ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラス  
 第五條 前條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スル  
 一 施設ヲ必要トスル理由  
 二 電信又ハ電話ノ別及其ノ回線  
 三 機舖設置ノ場所 道府縣郡市區 及線路經過地名  
 四 落成期限  
 前項第二號及第三號ノ事項ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スルシ  
 前項市區町村間又ハ電信法第二條第四號ニ依ルテ不適當トスル市區町村間ニ私設電信ヲ施設セムトスルモノハ第一項書類ノ外ニ之ヲ證明スルニ足ル書類ヲ添附スル  
 第六條 第四條ノ許可ヲ得タル後前條第一項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ逓信大臣ニ願出テ許可ヲ受ケル  
 第七條 第四條又ハ第六條ニ依リ許可ヲ得タル私設電信ノ工事落成シタルトキハ七日以内ニ左ノ事項ヲ逓信大臣ニ届出スル  
 一 工事落成月日  
 二 工事設計 機械ノ種類及箇數 線路ノ互長、架設線地下線水底線ノ別項第二號ノ事項ヲ變更シタルトキハ更ニ前項ノ例ニ依リ届出スル  
 第八條 第四條但書ノ私設電信ヲ施設シタル者ハ工事落成後七日以内ニ第五條第一項第二號第三號及第七條第一項各號ノ事項ヲ逓信大臣ニ届出ヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ公衆通信ノ用ニ供スルモノハ第五條第一項第二號ニ限リ逓信大臣ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

スルコトヲ得ス  
 第九條 私設電信ヲ讓渡サムトスルトキハ第四條但書ノモノヲ鐵道相互間ニ讓渡ス場合ヲ除クノ外當事雙方逓信ノ上逓信大臣ニ願出テ許可ヲ受ケル  
 前項ノ許可ヲ受ケタル私設電信ノ引渡ヲ爲シタルトキ又ハ第四條但書ノ私設電信ヲ鐵道相互間ニ讓渡シタルトキハ七日以内ニ當事雙方逓信ノ上逓信大臣ニ届出スル  
 第十條 公衆通信ノ用ニ供スル私設電信ハ逓信大臣ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ廢止シ又ハ中止スルコトヲ得ス  
 前項以外ノ私設電信ヲ廢止シタルトキハ七日以内ニ其旨ヲ逓信大臣ニ届出スル  
 第十一條 電信法第二條第四號ニ依ル私設電信ノ通報ヲ開始シ廢止シ又ハ中止セムトスルトキハ其ノ施設者ヨリ十五日以前ニ逓信郵便電信局ニ届出ヘシ  
 第十二條 私設電信ヲ廢止シタルトキハ特ニ期間ノ指定ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外三十日以内ニ線路及機舖ヲ撤去スルシ其ノ許可ノ効力ヲ失ヒ又ハ之ヲ取消サレタルトキ亦同シ  
 私設電信ノ使用ヲ中止シ一今年以上ニ及ヒタルトキハ廢止シタルモノト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス  
 第十三條 道路ニ架設スル私設電信ノ電線ハ左ノ制限ニ依ルシ但シ特別ノ事由アルモノハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得  
 一 道路ノ兩側ニ跨ガテ架設スルモノハ二側ニ架設スルモノニシテ  
 二 道路ノ一側ニ架設スルモノハ電氣信號線ノ他電氣信號線ノ架設アルトキハ其ノ同側ニ架設スルモノ若シテ一側ニ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ノ架設アルトキハ他ノ一側ニ架設スルモノニシテ  
 第十四條 私設電信ノ電線ヲ他ノ電氣信號線、電話線又ハ電氣信號線ト交叉シテ架設シタルトキハ其通報信號ニ障害ヲ與ヘサル様離隔スルヘシ

シ其ノ離隔ニ二尺ニ滿タサルトキハ其電線ノ所有者又ハ管理者ノ承諾ヲ受ケル  
 第十五條 私設電信ノ電線ヲ電燈、電力又ハ電氣鐵道用架設電線ト交叉シテ架設シタルトキ又ハ其ノ電柱ニ添架スルトキハ左ノ制限ニ依ルシ但シ特別ノ事由アルモノハ逓信大臣ノ許可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得  
 一 交叉ノ場合ニハ電燈、電力又ハ電氣鐵道用最低電線ノ下部ニ於テ三尺以上ヲ離隔スルシ但シ工地上ニ已メテ得サル場合ニ於テハ低壓又ハ高壓電線ニ限リ其上部ニ三尺以上ヲ離隔シテ交叉スルコトヲ得  
 二 接近ノ場合ニハ低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ三尺以上特別高壓電線ニ在リテハ電柱地表上高サノ二倍以上ヲ離隔スルシ  
 三 特別ノ事由ニ依リ電燈、電力、電氣鐵道用電線ノ電柱ニ添架スルトキハ低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ二尺以上特別高壓電線ニ在リテハ四尺以上其ノ最低電線ノ下部ニ離隔スルヘシ  
 第十六條 私設電信ノ電線ヲ電燈、電力又ハ電氣鐵道用架設電線ト交叉シテ架設シタルトキ又ハ其ノ電柱ニ添架スルトキハ左ノ裝置ヲ施スヘシ其ノ已ニ架設シタル後ニ於テ交叉又接近若ハ添架ノ場合ヲ生シタルトキ亦同シ  
 一 低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ電線又ハ電氣信號線ノ機械ニ出入スル各端ニ於テ五「アマメター」以下ニテ解除スル安全器「三百「ヴォルト」ニテ放電スル遮断器及二百五十「アマメター」以下ニテ解除スル安全器ヲ設備スルヘシ  
 二 特別高壓電線ニ在リテハ逓信大臣ノ認可ヲ經タル適當ノ保安裝置ヲ施スヘシ  
 第十七條 屋内ニ布設スル私設電信ノ電線ハ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ト充分離隔シ且電氣の濕漏ヲ豫防スルヘシ  
 第十八條 私設電信ノ電柱ニハ施設者名及電柱ノ番號ヲ表記スルヘシ  
 第十九條 私設電信ノ電線ヲ他ノ電線ト其ノ上部ニ於テ交叉シ又ハ六尺以内ノ距離ニ接近シテ架設スルトキハ工事着手前ニ其ノ電線ノ所有者又ハ管理者ヘ通知スルシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理シ若ハ撤去ス

ルトキ亦同シ  
 第二十條 電信法第二條第四號ニ依リ逓信郵便電信局又ハ電信局ニ施設スル私設電信ノ引込及裝置工事其ノ維持ハ逓信者ノ之ヲ施行ス  
 前項ノ私設電信施設者ハ逓信者ノ指示スル所ニ從ヒ其設備ニ要スル物件ヲ供給シ其ノ工事費ヲ支拂ヒ且其ノ維持ニ要スル料金を納付スルヘシ但シ維持料ノ金額及其ノ納付手續ハ別ニ之ヲ定ム  
 第二十一條 逓信大臣ハ私設電信ノ施設他ニ障害ヲ及ボシ若ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ改修又ハ特別ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ  
 第二十二條 逓信大臣ハ隨時吏員ヲ派遣シ私設電信ノ裝置方法又ハ通信ノ狀況等ヲ検査セシムルコトアルヘシ  
 第二十三條 私設電信施設者此ノ規則ノ條項ニ違背シ又ハ此ノ規則ニ依リ發スル命令ヲ遵守セザルトキハ逓信大臣ハ私設電信ノ使用ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スルコトアルヘシ  
 第二十四條 此ノ規則ニ依リ逓信大臣ニ提出スル書類ハ總テ其ノ私設電信施設地ノ所轄地方廳ヲ經由スルシ但シ第四條但書ノ私設電信ニ關シテハ其ノ會社本店所在地ノ所轄地方廳ヲ經由スルヘシ  
 第二十五條 第六條第八條但書第九條第一項若ハ第十條第一項ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二十六條 第七條第八條第九條第二項及第三項若ハ第十條第二項ノ届出ヲ爲ササル者又ハ第十九條ノ通知ヲ爲ササル者又ハ正當ノ事由ナクシテ第二十二條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ十圓以上一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス  
 第二十七條 電信法第二條第一號ノ私設電信ニ關シテハ第四條乃至第十條第十八條第二十條及第二十四條ノ規定ヲ適用セス  
 附則  
 第二十八條 電信其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノニ關シテハ第十條乃至第十九條第二十一條乃至第二十三條ノ規定ヲ準用ス  
 正午時ノ通報ヲ受ケル爲電信線ヲ郵便電信局又ハ電信局ト間ニ施設セムトスルモノニ關シテハ前項ノ外第四條乃至第七條第九條乃至第十條及第二十條ノ規定ヲ準用ス



第二十九條 電信法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話設置ノ許可ヲ得タル者ハ電信法第二條第一號ニ該當スルモノヲ除ク外第四條及第五條ノ規定ニ準シ此ノ規則施行ノ日ヨリ六個月以内ニ通信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但第四條但書ニ該當スルモノハ同一期間内ニ於テ第八條ノ規定ニ準シ願出ヘシ

前項ノ許可ヲ得タルモノハ第七條ノ規定ニ準シ願出ヘシ

第一項ノ期間内ニ於テ願出ヲ爲ササルモノ若ハ其ノ願出ヲ爲スモ許可ヲ得サルモノニ關シテハ第十二條ノ規定ヲ準用ス

第二項及第三項ノ願出ヲ爲ササルモノニ關シテハ第二十六條ノ規定ヲ準用ス

第三十條 前條ニ依リ許可ヲ得又ハ願出ヲ爲シタル私設電信ニシテ其ノ既設工事カ此ノ規則ノ規定ニ適合セサルモノアルトキハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三個月以内ニ之ヲ改造スヘシ但シ其ノ期間内ト雖第二十一條ニ依リ命令ノ效力ヲ妨ケス

電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノノ既設工事ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治二十二年三月通信省令第四號電信線電話線私設條規其ノ他此ノ規則ニ抵觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

●同上第二十二條第二項ニ依ル維持料 (明治三十三年九月通) (信省令第四十九號)

第一條 私設電信規則第二十條第二項ニ依ル維持料ノ金額右ノ如シ  
電信機 一箇ニ付 年額金百六十圓  
電話機 一箇ニ付 年額金八十圓

第二條 維持料ハ私設電信連接ノ郵便電信局ニ納付スヘシ但シ電信局又ハ三等郵便電信局ニ連接スルモノハ其ノ管轄一等郵便電信局ニ納付スヘシ

第三條 維持料ハ年額金ヲ四分シ左ニ掲クル四期ノ別ニ從ヒ每期ノ初月十日マテニ納付スヘシ

第一期	四月一日ヨリ	六月三十日マテ
第二期	七月一日ヨリ	九月三十日マテ
第三期	十月一日ヨリ	十二月三十一日マテ
第四期	一月一日ヨリ	三月三十一日マテ

第四條 一期ノ中途ニ於テ通報ヲ開始スヘキトキハ其ノ期ノ維持料ハ開始ノ日ヨリ其ノ期ノ末月マテノ月數ヲ年額ニ乘シ之ヲ十二分シテ算出シ通報開始ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ納付スヘシ

第五條 一期ノ中途ニ於テ通報ヲ廢止、中止又ハ停止シタルトキト雖其ノ期ノ維持料全額ヲ納付スルモノトス

第六條 一期ノ中途ニ於テ機械ノ種類ヲ變更シタルトキト雖其ノ一期分ハ變更前ノ割合ヲ以テ維持料ヲ納付スルモノトス但シ低額ノ維持料ヲ納ムヘキモノヨリ更ニ高額ノ維持料ヲ納ムヘキモノニ變更シタルトキハ第四條ノ規定ニ準シテ其ノ差額ヲ算出シ變更ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ納付スヘシ

第七條 郵便電信局又ハ電信局ニ連接スル電鈴線ノ正午通報料ハ各前條ノ規定ニ依リ一回線ニ付年額金十二圓ヲ納付スヘシ

司法例規 終

明治三十四年九月二十三日印刷  
明治三十四年九月二十八日發行

司法省總務局庶務課編纂



發行者 金田謙

印刷者 青木弘

印刷所 株式會社秀英舍

發行所

法律書出版專賣 自治館

東京市麴町區飯田町四丁目三十番地  
自治館代表者

東京市京橋區西紺屋町二十六七番地

東京市京橋區西紺屋町二十六七番地

東京市麴町區飯田町四丁目二十番地



4775

●自治館發行書籍發賣廣告●

●司法省總務局庶務課御編纂

(自治館發行)

司法例規

全一册

- 製本菊版大本
- 總シロス背皮金文字入
- 六號活字二段組鮮明刷
- 紙數約千三百頁

●實費郵稅共貳圓七拾四錢

●代金送付ノ郵便爲替ハ東京飯田町支局ヲ支拂局ニ指定ノ事

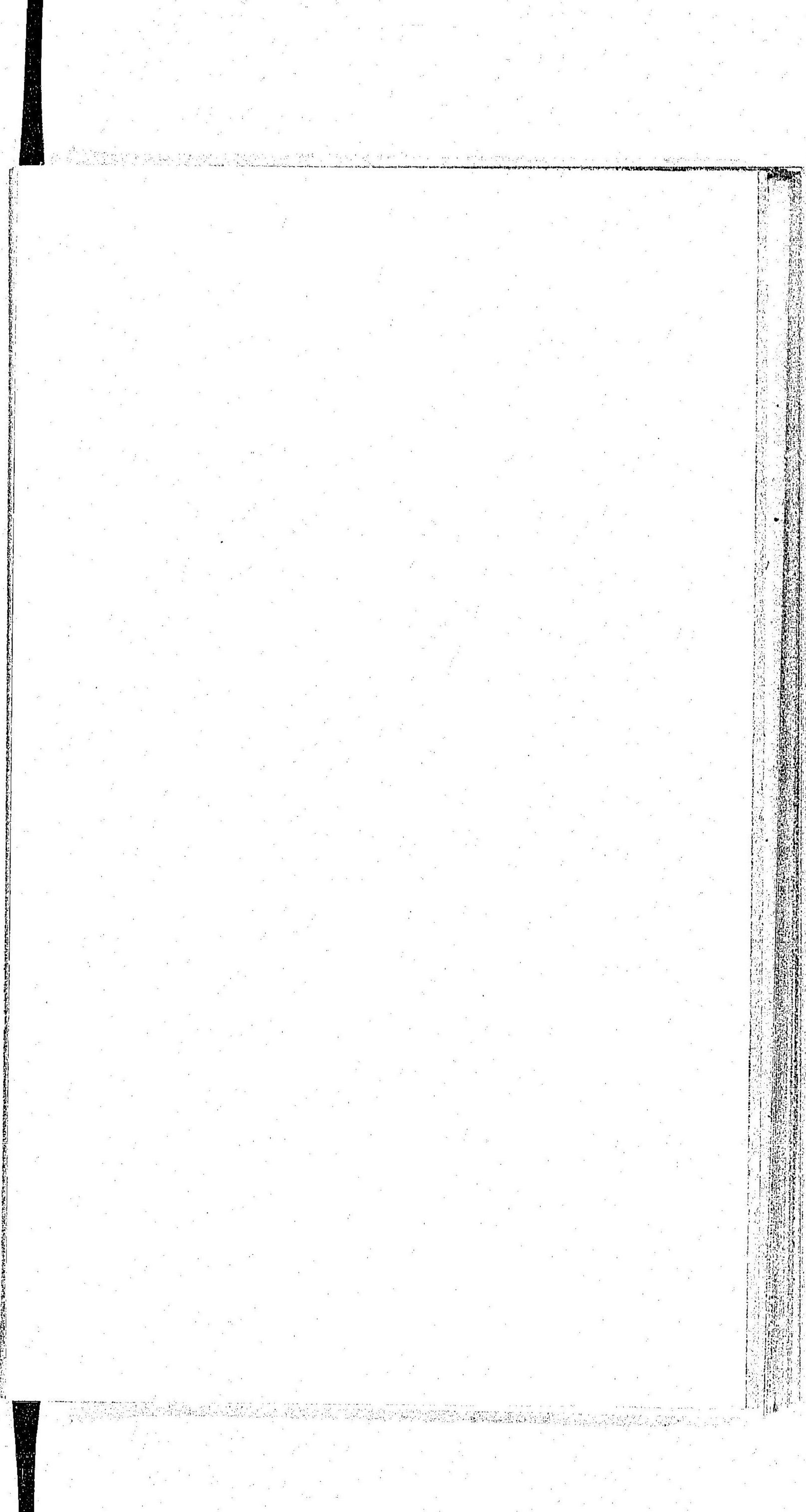
●爲替券受取人欄内ニハ必ラス東京自治館ト明記ノ事

●代金請求書又ハ領收證ヲ要セラルトキハ參錢郵券封入特ニ其旨御通知ノ事

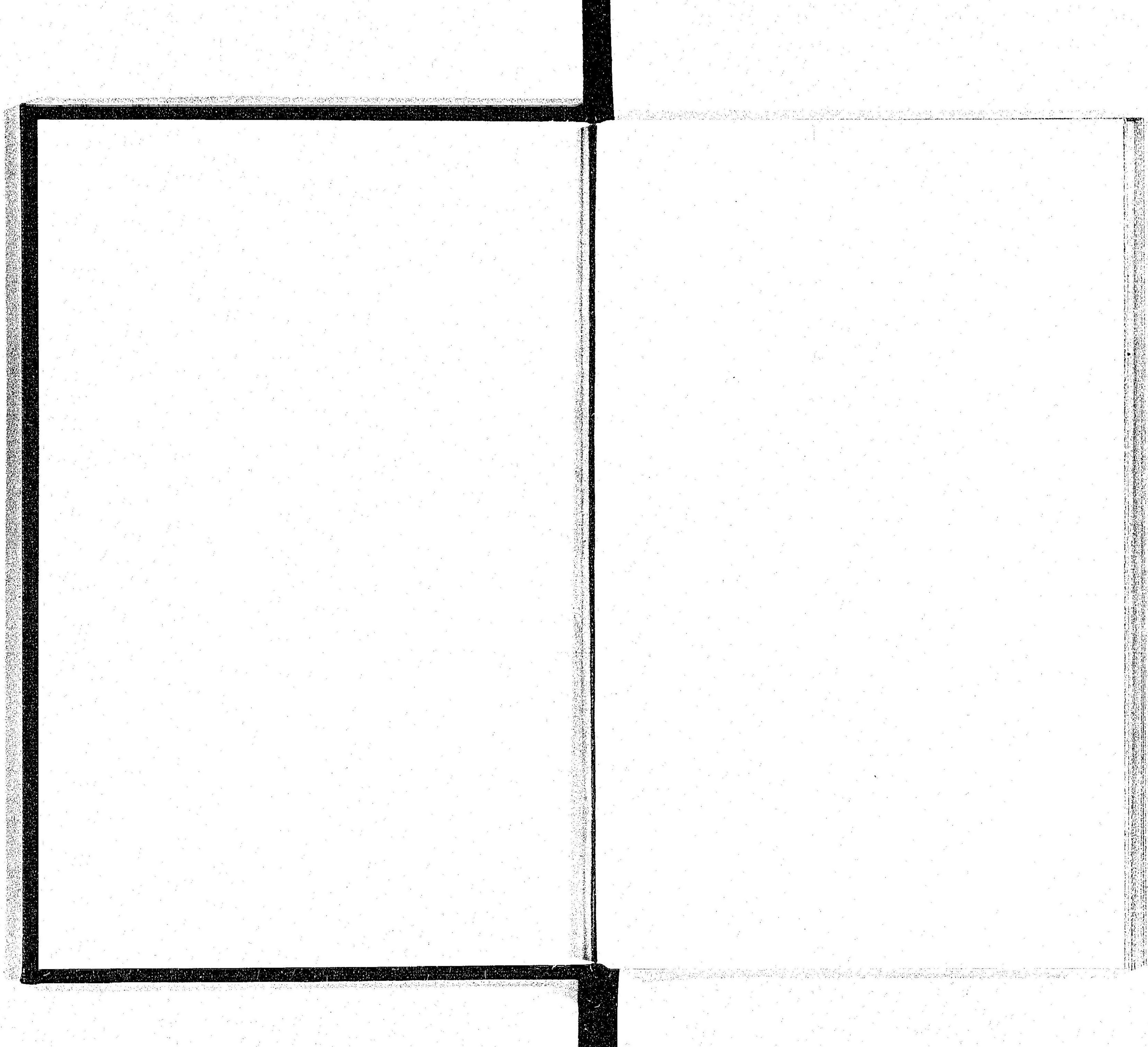
執務家ノ依テ以テ規矩トシ、進歩トス可キモノハ法規ニシテ、法規ノ前ニハ慣習モ其效ナク、條理モ其蔽ニ非ラス、司法ノ職ト行政ノ任ニ在ル者トナ間ハ一舉手一投足必ラス職ヲサレ可カラサルモノハ法規ナリ、此故ニ從來各省其主管事務ニ所要ノ法規ヲ撰シ執務者依テ利便ヲ得タルハ實際經驗ノ證明スル所也、獨リ司法省ハ法規編纂ノ事業ニ因リ内部ノ取扱ニ至ル迄大變革ヲ來ス時代ニ當レルヲ以テ未タ司法例規ノ編纂ナカレシ所今ヤ法規編纂ノ事業ハ略々其功ヲ竣ヘ實施ヲ見ルニ至リシヲ以テ司法省ハ數年前ヨリ本書ノ編纂ニ從事セラル茲ニ漸ク其稿ヲ脱シ司法省所管執務者ノ爲ニ公表セラル、ニ至リ雖館藏ニ法規調査會并司法省ノ特選ニ因リ刑事訴訟法草案印刷、裁判所、民事、刑事、犯人引渡領事職務條約、公文書出版官報印章ヨリ會計、官有財産、統計報告、通信、監獄、登記、月籍ニ至ル迄執務上必要ナル一切ノ他書ニ見ル可カラサル點ハ官報法令全書等ニ掲載ナキ法令ヲ網羅シ殊ニ決マテ

**訓令訓示通牒等内部法規**ニシテ公ニセラレサルモノ迄一切採輯セラルタル所以ニシテ民間私撰私輯ニ成ル徒ニ民法商法等ノ如キ大法律ヲ採メタル者ト異ナル所也、而シテ本書ハ主務省當局者ノ數年從事セラレタル公牘ニ成リ靈解ノ確實、必要法規ヲ網羅セルハ勿論、校正ニ至ル迄一切當局者ノ擔任セラル、所一點ノ誤謬ナキ亦勿論ニシテ主務省ノ編纂セラレタル者ナルカ故ニ裁判所、登記所、監獄、警察署、戶籍役場、辯護士、公證人、執達吏各位等ノ當然備ヘラレハキ者ナリ今般特命ニ因リ印刷製本ノ實費ヲ以テ執務當局者ニ頒ツ但シ非賣品ニシテ部數限リアルヲ以テ此際至急御申込アラントトナ希望ス

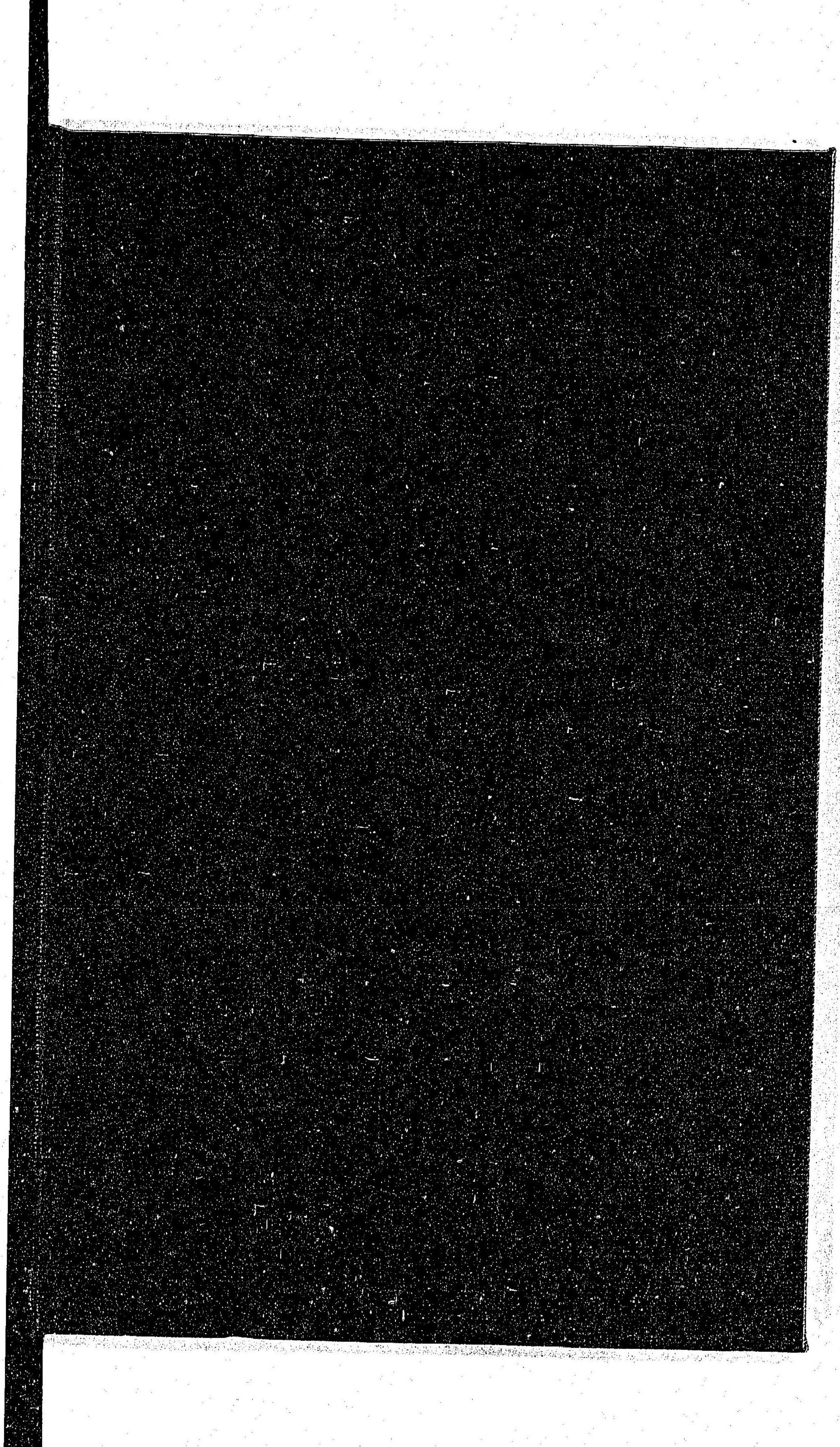














036448-000-4

CZ-771-01

司法例規

司法省總務局庶務課／編

M34

BBR-0113

